

令和7（2025）年度
事業報告書

自 令和7年4月1日
至 令和8年3月31日

学校法人沖縄科学技術大学院大学学園

目次

I.	学校法人沖縄科学技術大学院大学学園の基本情報.....	1
1	法人の概要.....	1
(1)	基本情報.....	1
(2)	建学の精神.....	1
(3)	学校法人の沿革.....	1
(4)	設置する学校・学部・学科等.....	3
(5)	学校・学部・学科等の学生数の状況.....	3
(6)	収容定員充足率.....	3
(7)	役員の概要.....	3
(8)	評議員の概要.....	4
(9)	会計監査人の概要.....	5
(10)	理事選任機関の概要.....	6
(11)	教職員の概要.....	6
2	事業の概要.....	6
(1)	主な教育・研究の概要.....	6
(2)	中期的な計画（教学・人事・施設・財務等）及び事業計画の進捗・達成状況.....	6
3	財務の概要.....	7
(1)	決算の概要.....	7
(2)	その他.....	9
4	学校法人の業務の適正を確保するための体制（内部統制システム）の整備及び運用状況の概要.....	10
II.	附属明細書.....	10

I. 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園の基本情報

1 法人の概要

(1) 基本情報

- ① 法人の名称：学校法人沖縄科学技術大学院大学学園
- ② 主たる事務所の住所：沖縄県国頭郡恩納村字谷茶 1919 番地 1
ホームページアドレス：www.oist.jp

(2) 建学の精神

世界最高水準 (Best in the World)

柔軟性 (Flexible)

国際性 (International)

世界的連携 (Global Networking)

産学連携 (Collaboration with Industry)

(3) 学校法人の沿革

年月		沿革
平成 13 年	6 月	政府が沖縄科学技術大学院大学構想を提唱
平成 14 年	5 月	沖縄復帰 30 周年記念式典において、小泉純一郎内閣総理大臣 (当時) が沖縄科学技術大学院大学構想の推進を表明
	7 月	沖縄振興計画において、本構想を沖縄の振興施策の大きな柱として位置づけ
平成 15 年	4 月	恩納村を大学院大学の建設予定地として選定
平成 16 年	2 月	本構想の選考事業となる研究事業 Initial Research Project (IRP) として、4 件のプロジェクトを選定
平成 17 年	3 月	沖縄科学技術大学院大学構想の推進主体を設立する独立行政法人沖縄科学技術基盤整備機構法が国会にて可決
	9 月	独立行政法人沖縄科学技術研究基盤整備機構が発足 (初代理事長：シドニー・ブレナー博士)
平成 18 年	4 月	恩納村における最初の施設として完成した OIST Seaside House へ本部移転
平成 19 年	3 月	キャンパス造成工事着手
平成 20 年	3 月	第 1 研究棟とセンター棟の建設に着手
	11 月	シーサイド・ファカルティ宿舎の完成

年月		沿革
平成 21 年	7 月	沖縄科学技術大学院大学学園法公布
平成 22 年	3 月	センター棟及び第 1 研究棟供用開始
	7 月	ジョナサン・ドーファン博士を沖縄科学技術大学院大学の初代学長予定者に選出
平成 23 年	10 月	文部科学大臣より大学設置認可
	11 月	学校法人沖縄科学技術大学院大学学園設立
平成 24 年	2 月	講堂完成
	6 月	第 2 研究棟完成
	9 月	博士課程解説。第 1 期生 34 名入学
	11 月	天皇皇后両陛下下行幸啓にてご来訪
平成 26 年	8 月	チャイルド・ディベロップメント・センター（CDC）完成
平成 27 年	5 月	第 3 研究棟完成
平成 28 年	12 月	エンジニアリング・サポート・ビルディング完成
平成 29 年	1 月	ピーター・グルース博士が 2 代目学長に就任
平成 30 年	2 月	第 1 期生 14 名修了
令和元年	12 月	第 4 研究棟完成
令和 3 年	11 月	設立 10 周年
令和 4 年	10 月	スバンテ・ペーゴ教授（アジャンクト）が、「絶滅したヒト科のゲノムと人類の進化に関する発見」により 2022 年のノーベル生理学・医学賞を受賞
	9 月	第 5 研究棟完成
令和 5 年	6 月	カリン・マルキデス博士が 3 代目学長に就任

(4) 設置する学校・学部・学科等

沖縄科学技術大学院大学 科学技術専攻科 科学技術専攻

(5) 学校・学部・学科等の学生数の状況

(令和8年5月1日現在)

入学定員	入学者数*	収容定員	現員数
60	57*	300	278

*9月入学のため、令和7学年度の入学者数。

(6) 収容定員充足率

(令和8年5月1日現在)

令和3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
75%	81%	85%	91%	92%

(7) 役員の概要

● 定員数

学校法人沖縄科学技術大学院大学学園寄附行為第6条第1項の定めるところによる。

● 役員賠償責任保険契約の状況

令和8年2月19日第59回理事会において、役員賠償責任保険（補償対象は訴訟費用及び損害賠償請求等）の更新を全会一致で承認。

● 役員・理事一覧

氏名	主な現職	就任年月日	業務執行 非業務執行
カリン・マルキデス*	沖縄科学技術大学院大学理事長兼学長	令和5年6月1日	業務執行
加藤 重治*	沖縄科学技術大学院大学副理事長兼事務局長	令和4年4月1日	業務執行
ギル・グラノットマイヤー*	沖縄科学技術大学院大学副理事長兼首席副学長	令和7年5月31日	業務執行
エイミー・シェン*	沖縄科学技術大学院大学副理事長兼プロボスト	令和7年5月31日	業務執行
池田 博之*	沖縄科学技術大学院大学監事	令和5年11月1日	非業務執行
兼島 規**	沖縄科学技術大学院大学監事	令和5年11月1日	非業務執行
ジョージ・クラーク**	沖縄科学技術大学院大学監事	令和2年11月1日	非業務執行
ヴィジェイラガバン・クリシュナスワミ**	タタ基礎研究所インド国立生物化学研究センター名誉教授	平成23年11月1日	非業務執行
ジェームス 比嘉**	フィランソロフィック・ベンチャーズ・ファンデーション事務局長	令和2年1月1日	非業務執行

氏名	主な現職	就任年月日	業務執行 非業務執行
カーティス・カラン**	プリンストン大学ジェームス・S・マクドネル物理学ディスティングイッシュトプロフェッサー	平成 26 年 11 月 1 日	非業務執行
リタ・コルウェル**	メリーランド大学特別名誉教授 ジョンズホプキンス大学特別栄誉教授	平成 23 年 11 月 1 日	非業務執行
バーナード・L・フェリンハ**	フローニンゲン Stratingh 科学研究所ヤコブス・ファン・ホッフ分子化学特別教授	令和 3 年 7 月 1 日	非業務執行
藤田 浩之**	クオリティー・エレクトロダイナミクス創業者、社長兼最高経営責任者	令和 3 年 5 月 1 日	非業務執行
セルジュ・アロシュ**	コレージュ・ド・フランス名誉教授	平成 27 年 10 月 1 日	非業務執行
川上 康**	株式会社琉球銀行代表取締役会長	令和 5 年 5 月 23 日	非業務執行
小谷 元子**	理化学研究所領域統括、国際学会会議 会長	平成 26 年 11 月 1 日	非業務執行
野依 良治**	日本学士院長、国立研究開発法人科学技術振興機構 研究開発戦略名誉センター長、名古屋大学教授	平成 30 年 5 月 1 日	非業務執行
吉野 彰**	旭化成株式会社名誉フェロー、エネルギー・環境領域ゼロミッション国際共同研究センター長	令和 2 年 11 月 1 日	非業務執行
ダニエル・ザイフマン **	マックス・プランク核物理研究所（ドイツ・ハイデルベルク） 外部科学会員、ワイツマン科学研究所 素粒子物理学部門 教授	令和 7 年 11 月 1 日	非業務執行
山本 喜久 **	NTT リサーチインク Physics & Informatics Laboratories 所長、国立情報学研究所名 名誉教授、スタンフォード大学 名誉教授	令和 7 年 11 月 1 日	非業務執行

*常勤 **非常勤

(8) 評議員の概要

- 定数

学校法人沖縄科学技術大学院大学学園寄附行為第 6 条第 2 項の定めるところによる。

氏名	主な現職	就任年月日
モンテ・カセム	公立大学法人国際教養大学理事長 学長	平成 23 年 11 月 1 日
コヴァース 健二	ベイン・アンド・カンパニー（東京オフィス）アドバイザー・パートナー、ニューリー株式会社共同創業者兼社長	令和 2 年 11 月 1 日
トーマス・ブッシュ	沖縄科学技術大学院大学研究科長・教授	令和 5 年 4 月 1 日
ダンカン・クラーク	BDA (China) Limited, 創業者・会長	令和 5 年 11 月 1 日
ラルフ・アイヒラー	前スイス連邦工科大学チューリッヒ校学長	平成 26 年 11 月 1 日
淵辺 美紀	沖縄経済同友会代表幹事	令和 2 年 11 月 1 日
長谷川 真理子	日本芸術文化振興会理事長	令和 6 年 4 月 1 日
キース・ホジソン	米国立加速器研究所（SLAC）科学及び光子科学部教授	平成 26 年 11 月 1 日
五十嵐 正和	GE ヘルスケアファーマ株式会社 メディカルアドバイザー	令和 5 年 11 月 1 日
嘉数 悠子	TMT 国際天文台 教育普及マネージャー	令和 5 年 11 月 1 日
菅 大介	株式会社チェリオコーポレーション代表取締役社長	令和 2 年 11 月 1 日
喜納 育江	国立大学法人琉球大学 学長	令和 7 年 5 月 31 日
イエスパー・コール	ウィズダムトゥリー株式会社シニア・アドバイザー	令和 3 年 3 月 1 日
ルオ・イージュン	中央研究院 生物多様性リサーチセンターアシスタントリサーチフェロー	令和 5 年 11 月 1 日
御手洗 哲司	沖縄科学技術大学院大学研究担当ディーン・教授	令和 7 年 5 月 31 日
本永 浩之	沖縄電力株式会社 社長執行役員	令和 6 年 7 月 1 日
カミーラ・ムスターフィナ	マサチューセッツ工科大学 生物工学部博士研究員	令和 5 年 11 月 1 日
長浜 善巳	恩納村村長	平成 27 年 2 月 19 日
成田 信治	沖縄科学技術大学院大学人事担当副学長	令和 6 年 2 月 1 日
大城 肇	沖縄県副知事	令和 7 年 4 月 2 日

(9) 会計監査人の概要

定員数：1

EY 新日本有限責任監査法人（令和 7 年 5 月 29 日）

責任免除に関する決議等、補償契約及び役員賠償責任保険の状況：該当なし

責任限定契約：該当あり

(10) 理事選任機関の概要

理事3名、評議員2名

(11) 教職員の概要

教員（本務：86人、兼務：8人）

職員（除、派遣職員）：1,003人

2 事業の概要

(1) 主な教育・研究の概要

入学者の受入れに関する方針：

国際的な科学コミュニティで活躍できる研究者を育成することを目的とし、国際的な科学研究の最前線で指導的役割を担う意欲と能力を持つ学生を受け入れている。多様性・公平性・包摂性を重視し、性別や国籍などにかかわらず、好奇心・創造性・学究心に富む学生を世界中から募集している。

教育課程の編成及び実施に関する方針：

「世界が認める大学院」という理念のもと、分野の壁を超えた単一の博士課程を提供している。教育課程は、学生の個性や研究志向を尊重し、自立した科学的思考と創造的探究心を育むよう設計されている。ラボ・ローテーションや少人数教育を通じて、学生が最先端研究に主体的に取り組み、国際的に通用する研究者として成長することを目指している。

卒業認定・学位授与に関する方針：

学生が独創的かつ科学的知見に寄与する研究を自立して遂行し、その成果を体系的にまとめた場合に博士の学位を授与する。学位は在籍期間や授業履修によって与えられるものではなく、国際的基準に基づく独立した研究能力と、研究成果や手法を英語で効果的に発信できる力を備えた者に授与される。

(2) 中期的な計画（教学・人事・施設・財務等）及び事業計画の進捗・達成状況

中期的な計画の進捗：

- ・ 卓越した研究・教育のさらなる強化に向け、トップクオリティの教員採用と国際的ピアレビューを重視しながら、着実に成長を続けている。
- ・ オープンセンター、テストベッド、neXus ミーティングプレイスの立ち上げを通じて、量子技術、海洋科学、持続可能エネルギーなど、戦略的に重要な分野における学内外のパートナーとの学際的連携を深化させ、その相乗効果と可視性を高めている。
- ・ 本学の強みと自治体のビジョンを生かし、産学官の協働関係を構築・拡大しながら、アウトリーチ活動を強化し、沖縄の持続可能で豊かな発展に向けた社会経済的・環境的便益の創出を進めている。
- ・ 組織文化の醸成と業務運営の合理化・最適化を図りつつ、管理部門の能力開発とインフラ整備を推進している。

事業計画の達成状況については、別添附属明細書「令和7（2025）年度業務実績報告」のとおり。

3 財務の概要

(1) 決算の概要

① 貸借対照表関係

貸借対照表の状況と経年比較

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
固定資産	71,349,010,783	71,591,957,575	69,546,019,537	72,560,614,014	72,995,278,346
流動資産	8,218,607,818	5,952,814,329	7,037,548,291	10,309,347,104	7,627,899,701
内 現金及び預金	4,257,056,925	4,590,930,114	6,327,784,292	8,456,492,218	6,557,713,073
資産の部合計	79,567,618,601	77,544,771,904	76,583,567,828	82,869,961,118	80,623,178,047
固定負債	21,812,582,725	21,219,594,001	21,318,733,274	22,075,426,652	22,312,059,824
内 退職給付引当金	163,231,200	141,829,200	132,710,600	156,575,800	176,080,600
内 長期未払金	5,080,596,402	4,922,149,193	4,759,939,957	4,593,872,995	4,423,850,106
流動負債	16,440,946,747	4,106,614,024	5,118,956,964	9,787,257,316	7,194,476,955
内 前受金	111,344,145	539,142,198	296,475,976	280,179,779	257,137,908
内 未払金	6,453,348,422	2,129,882,698	3,177,871,748	6,066,463,740	3,243,897,608
内 未払費用	79,427,674	84,123,109	87,060,261	93,774,979	106,255,269
負債の部合計	38,253,529,472	25,326,208,025	26,437,690,238	31,862,683,968	29,506,536,779
拠出金	24,317,681,264	24,317,681,264	24,317,681,264	24,317,681,264	24,317,681,264
拠出剰余金	15,013,873,274	24,379,051,767	21,617,976,484	22,850,055,002	23,225,192,534
利益剰余金	1,982,534,591	3,521,830,848	4,210,219,842	3,839,540,884	3,573,767,470
純資産の部合計	41,314,089,129	52,218,563,879	50,145,877,590	51,007,277,150	51,116,641,268
負債及び純資産	79,567,618,601	77,544,771,904	76,583,567,828	82,869,961,118	80,623,178,047
(参考)減価償却累計額	45,443,401,523	49,944,134,011	55,426,645,495	60,482,200,410	65,019,672,315

財務比率の経年比較

運用資産余裕比率、流動比率、総負債比率、前受金保有率、積立率

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
運用資産余裕比率	-38%	-12%	-8%	-10%	-5%
流動比率	50%	145%	137%	105%	106%
総負債比率	48%	33%	35%	38%	37%
前受金保有率	3823%	852%	2134%	3018%	2550%
積立率	9%	9%	11%	14%	10%

② 損益計算書関係

損益計算書の状況と経年比較

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
経常収益	授業料収益	117,540,000	129,105,000	126,865,000	143,235,000	143,190,000
	運営費補助金等収益	15,307,259,407	16,116,095,690	16,930,651,986	16,905,524,943	17,214,062,333
	施設費収益	8,792,146	6,302,040	274,021,000	236,552,522	244,203,198
	受託研究等収入（国又は地方公共団体）	708,102,079	1,250,105,237	153,777,443	22,719,883	9,236,000
	受託研究等収入（上記以外）	360,499,994	674,650,449	1,225,187,135	1,166,196,323	1,128,484,323
	共同研究収入	12,988,258	83,110,413	105,493,064	202,270,747	138,260,739
	寄附金収益	46,441,865	31,924,885	38,747,449	58,099,437	55,994,316
	補助金等収益	39,385,006	42,378,360	87,750,801	255,489,618	559,268,780
	宿舍料等収入	8,383,833	9,443,051	9,598,604	10,448,355	10,749,194
	土地建物賃貸料収入	13,486,565	15,017,314	17,165,272	20,255,632	30,723,503
	資産見返補助金等戻入	2,970,642,903	2,552,455,307	2,654,427,640	2,766,404,185	3,012,918,660
	資産見返寄附金戻入	52,111,975	56,000,260	59,686,275	60,323,210	67,548,798
	資産見返物品受贈額戻入	3,224	0	0	0	0
	財務収益	106,680,145	103,485,807	100,216,685	96,868,369	98,891,046
	雑益	259,212,987	893,115,829	386,456,635	398,377,747	456,822,905
経常収益合計	20,011,530,387	21,963,189,642	22,170,044,989	22,342,765,971	23,170,353,795	
経常費用	業務費	16,466,281,921	17,728,831,780	18,993,000,388	19,601,974,743	20,216,394,521
	人件費	6,734,275,925	7,110,034,776	7,533,535,756	7,887,063,093	8,637,260,156
	経費	9,732,005,996	10,618,797,004	11,459,464,632	11,714,911,650	11,579,134,365
	一般管理費	2,724,327,455	2,568,613,517	2,384,639,926	2,930,821,394	3,120,540,554
	人件費	1,514,713,227	1,461,091,289	1,302,049,066	1,540,518,883	1,518,127,017
	経費	1,209,614,228	1,107,522,228	1,082,590,860	1,390,302,511	1,602,413,537
	財務費用	118,424,253	126,643,887	111,146,379	109,948,885	100,393,331
	支払利息	114,338,832	110,982,796	107,541,366	104,012,310	100,393,331
	為替差損	4,085,421	15,661,091	3,605,013	5,916,918	0
	その他財務費用	0	0	0	19,657	0
	経常費用合計	19,309,033,629	20,424,089,184	21,488,786,693	22,642,745,022	23,437,328,406
経常利益（損益）	702,496,758	1,539,100,458	681,258,296	-299,979,051	-266,974,611	
臨時利益	資産見返補助金等戻入	106	144	120	124	959,043
	資産見返寄附金戻入	4,349,330	2,731,345	4,788,875	5,743,637	715,419
	資産見返物品受贈額戻入	1	1	1	0	0
	固定資産売却益	13,123,500	195,790	7,868,271	473,533	1,201,200
臨時利益合計	17,472,937	2,927,280	12,657,267	6,217,294	2,875,662	
臨時損失	固定資産除却損	4,349,439	2,731,481	5,526,569	5,743,763	715,596
	補助金返還額	0	0	0	70,074,337	0
	過年度損益修正損	0	0	0	1,099,101	958,869
臨時損失合計	4,349,439	2,731,481	5,526,569	76,917,201	1,674,465	
当期純利益（損失）	715,620,256	1,539,296,257	688,388,994	-370,678,958	-265,773,414	

財務比率の経年比較

人件費比率、業務経費比率、一般管理経費比率、学生生徒等納付金比率、経常収支差額比率

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
人件費比率	43%	42%	41%	42%	43%
業務経費比率	50%	52%	53%	52%	49%
一般管理経費比率	6%	5%	5%	6%	7%
学生生徒等納付金比率	1%	1%	1%	1%	1%
経常収支差額比率等	4%	7%	3%	-1%	-1%

③ キャッシュ・フロー計算書関係

キャッシュ・フロー計算書の状況と経年比較

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
授業料収入	117,495,000	129,150,000	137,205,000	143,235,000	143,190,000
運営費補助金等収入	18,014,249,602	17,938,138,287	19,811,033,964	20,737,755,099	21,250,876,071
受託研究等収入	771,972,310	2,635,609,376	1,326,864,658	1,400,968,726	1,242,613,689
寄附金収入	-2,656,508	40,720,792	34,282,004	257,200,015	131,854,294
補助金等収入	123,873,246	53,331,006	215,257,360	1,012,631,146	782,259,098
宿舍料等収入	8,383,833	9,433,833	9,683,295	10,372,882	10,749,194
その他業務収入	265,623,426	362,831,708	937,575,359	514,556,701	363,509,808
預り科学研究費補助金等の受払	26,511,908	-1,184,422	25,120,798	102,745,124	39,368,428
人件費支出	-8,241,886,850	-8,578,705,121	-8,846,511,136	-9,385,661,799	-10,121,362,309
たな卸資産取得による支出	-1,284,183	-5,375,439	-11,479,242	-8,592,848	-7,242,820
その他業務支出	-7,212,006,192	-9,190,441,722	-8,941,504,146	-9,569,111,253	-9,658,319,156
国庫納付金の支払額	-53,990,408	0	0	0	0
I 業務活動によるキャッシュ・フロー	3,816,285,184	3,393,508,298	4,697,527,914	5,216,098,793	4,177,496,297
有形固定資産の取得による支出	-4,018,768,749	-9,544,348,574	-2,988,637,498	-6,344,187,681	-8,597,078,911
有形固定資産の売却による収入	13,073,500	245,790	7,868,271	473,533	1,201,200
無形固定資産の取得による支出	-39,279,974	-65,547,736	-56,370,310	-56,812,527	-346,521,448
施設整備補助金等による収入	1,575,894,403	6,774,454,442	242,527,916	3,476,369,703	3,020,516,963
その他	-63,510,507	-208,666,999	-162,463,381	-157,304,634	-157,585,471
利息及び配当金の受取額	3,374	4,119	6,279	7,313	504,547
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	-2,532,587,953	-3,043,858,958	-2,957,068,723	-3,081,454,293	-6,078,963,120
ファイナンス・リース債務の返済による支出	-690,360	-115,060	0	0	-2,267,100
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	-690,360	-115,060	0	0	-2,267,100
IV 資金に係る換算差額	-4,085,421	-15,661,091	-3,605,013	-5,936,574	4,954,778
V 資金増加額	1,278,921,450	333,873,189	1,736,854,178	2,128,707,926	-1,898,779,145
VI 資金期首残高	2,978,135,475	4,257,056,925	4,590,930,114	6,327,784,292	8,456,492,218
VII 資金期末残高	4,257,056,925	4,590,930,114	6,327,784,292	8,456,492,218	6,557,713,073

財務比率の経年比較

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
業務活動資金収支差額比率	20%	16%	21%	22%	17%

(2) その他

- ① 資産運用の状況：該当なし
- ② 学校債の状況：該当なし
- ③ 寄付金の状況：

寄付金は、主として教育研究環境の整備、研究活動支援ならびに学生支援等に活用した。当年度に受け入れた寄付金は1.17億円であり、本法人では寄付金の受入・管理に関する規程を整備し、適正な管理および寄付目的に沿った執行を行っている。

- ④ 補助金の状況：

当該年度に受け入れた補助金収入は以下の通り。

補助金総額：222.0億円

【主な内訳】ア) 運営費補助金：205.3億円 イ) 施設整備費補助金：16.7億円

補助金は、教育研究活動の充実及び施設整備等に充当しており、各補助金の交付要件に従い適正に執行している。

- ⑤ 収益事業の状況：該当なし

(3) 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策

国からの安定的な財政支援を基盤としつつ、共同研究、競争的外部研究資金、産学連携、寄付金等を通じた財源の多様化に取り組む。今後も戦略的な資金配分と外部資金獲得の強化を通じて、持続的な大学運営基盤の確立を図る。

4 学校法人の業務の適正を確保するための体制（内部統制システム）の整備及び運用状況の概要

(1) 内部統制システムの整備

本法人の内部統制システムについては、経営に関する管理体制、リスク管理に関する体制、コンプライアンスに関する管理体制、監事の監査業務の適正性を確保するための体制等を定めた「沖縄科学技術大学院大学学園 内部統制システム整備の基本方針」を令和7年2月に理事会で決定し、4月から施行・運用。

(2) 私立学校法の改正に伴う新たな体制の運営

令和7年度からの改正私立学校法の施行に伴い、理事及び評議員の任期や定数の見直し、理事選任機関の設置等を盛り込んだ寄附行為の改正を行うとともに、理事及び評議員の任期や会議の運営に関する規則の改正、理事及び評議員の選任機関の設置のための規則の制定を行った。この改正等により、理事会及び評議員会の役割、権限及び体制が明確になるとともに、代表業務執行理事が3名となり、理事長を補佐する体制が強化されたところ。改正された寄附行為その他の規則に従って理事及び評議員の選任や、理事会及び評議員会の運営を行っている。

(3) コンプライアンスに関する管理

コンプライアンス意識の向上のため、全職員に対する倫理教育研修を行うとともに、大学の内外から匿名で相談できる通報窓口について改めて学内全体及び契約先の外部事業者に周知した。また、科学研究費補助金等の競争的研究費の適正な執行やJ-PEAKS事業の適正な経費執行、情報セキュリティの運用、長期にわたり一者との契約が継続している案件の適正性等を対象にした内部監査を実施した。

(4) リスク管理

令和7年度にはリスクマネジメント委員会を2回開催し、大学の経営に重大な影響を及ぼすおそれのある重要リスクを記載したリスク・マトリクスの見直しを行い、理事会「監査・コンプライアンス委員会」に報告した。また、事業継続計画（BCP）を改定した。

さらに、大規模地震及び津波の発生を想定した危機管理対策本部の運営のロールプレイ机上演習を実施した。また、全教職員・学生が参加する総合避難訓練を行い、避難、初期消火、オンライン安否確認訓練、各実験棟の連絡担当官による避難誘導や担架を用いた負傷者搬送などを実施した。

II. 附属明細書

別紙「令和7（2025）年度業務実績報告」のとおり。

令和 7 (2025) 年度

業 務 実 績 報 告

自 令和 7 (2025) 年 4 月 1 日

至 令和 8 (2026) 年 3 月 31 日

第 1 章 教育研究に関する事項				
1.1 博士課程 目標 (1)	科学分野における世界トップレベルの教員の英知と最先端の研究機器を最大限に活用し、学生に対して傑出した学術プログラム及び研究トレーニングを提供します。			B
1.1 博士課程 取組 (1)	<p>(研究トレーニング)</p> <p>1101 学生が最先端の科学分野で授業や研究に必要なトレーニングに専念できるよう、授業やメンタリング、研究指導、試験等に関する事務手続を補助し、博士課程において優秀な成績をおさめられるよう支援します。</p> <p>1102 世界トップレベルの学園外研究者や外部試験官と関わる機会を提供し、博士課程における学生の研究機会拡大と成果向上を図ります。</p> <p>1103 学生が十分かつ適切な研究施設や設備の利用とITサポートを確実に受けられるように調整を図ります。</p> <p>(カリキュラム)</p> <p>1104 準正課プログラムを含めたカリキュラムの深化・発展に向けて、多様な授業科目の増設及び厳選を図ります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学生による論文掲載数 学生による学外の奨学金獲得件数 論文計画書と学位論文の審査回数 博士課程修了者数 教員 1 人あたりの平均学生数 主要授業科目数 主要科目以外の授業科目数 (ミニコース及びキャリア開発のための活動) 学外授業の受講に対する単位付与数 	<p>(研究トレーニング)</p> <p>1101 学術・研究トレーニングを促進し、プロセスと内容の見直しを継続して行いました。</p> <p>1102 機関協定による外部指導などを通して、学生が世界トップレベルの研究者と関わる機会を提供しました。外部試験官の任命を含む博士論文審査手続きのサポートを継続して行いました。</p> <p>1103 学内外の優れた研究施設や備品を備えた教育環境を提供しました。</p> <p>(カリキュラム)</p> <p>1104 博士課程の学生向けの教育課程の開発を行いました。新しく採用された教員や変化する優先事項に対応すべく、新たに 7 科目を導入、5 科目を廃止し、教育課程の改善を図りました。当該年度は、計 69 の選択科目を学生に提供し、さらにプログラミングや純粋数学論、エコロジーモデリング、ゲノミクス、理論物理学など、修了単位に含まれない 10 のミニコースも提供しました。</p>	

令和7(2025)年度事業計画	指標	令和7(2025)年度業績	自己評価
<p>1105 オンラインコースを含め、様々な授業形態の導入と支援を推進します。</p> <p>1106 カリキュラムの見直しを行い、受講時期や内容の最適化を図り、教育の更なる効率化を進めます。</p> <p>1107 教育リソースの開発と教育・学習への取組を改善することにより、より質の高い学習体験を学生に提供します。</p>	<p>・リサーチ・インターンの人数</p>	<p>1105 通常の選択科目では提供しない分野について、教員の指導のもと自主研究を行う機会や海外の著名なワークショップやサマースクールへの参加機会を提供しました。また、専門性のさらなる向上のため、オンライン学習プラットフォームを提供しました。</p> <p>1106 当該年度は、教員で構成される専門分野別のワーキング・グループの助言に基づき、教員の新規採用・退職に伴うカリキュラムの変更を行いました。</p> <p>1107 研究科職員を対象に、教育に関する研修機会を提供しました。また、一貫した専門性の高い教育水準を維持するため、学生から授業に対する評価を受け、それをもとに教員と見直し、さらなる発展のための協議を行いました。新しく採用された教員による授業科目の構築や授業のサポートを行いました。</p>	
<p>1.1 博士課程 目標 (2)</p>	<p>学生個々のニーズを理解し、学修ならびに個人及びプロフェッショナルとしての成長を力強くサポートします。</p>	<p>(リサーチ・インターンシップ)</p> <p>1108 リサーチ・インターンシップの機会を提供しました。4月と10月の2回の応募期間を通して、3,900以上の応募があり、38名をインターン生として受け入れました。</p> <p>当該年度は、プログラムの質の向上及び持続的な運営体制の確保を目的として、出願手数料を導入しました。</p>	

令和 7 (2025) 年度事業計画	指標	令和 7 (2025) 年度業績	自己評価
<p>1.1 博士課程 取組 (2)</p>	<p>(学生支援)</p> <p>1109 学生が学業に専念できるよう、転居手続、渡航準備、住居、語学支援、緊急時対応、経済的支援など、学生のニーズに応じて多様で柔軟な支援を提供します。</p> <p>1110 学生に安全で健全な環境を提供するため、学生が抱える問題の早期発見を積極的に推進し、全学的な連携を円滑に進めるとともに、学生とのコミュニケーション向上を図るなど、包括的な支援体制を講じます。</p> <hr/> <p>(プロフェッショナルキャリア開発)</p> <p>1111 多様なキャリア形成の機会に備え、プロフェッショナルキャリア開発プログラムの提供を通じて学生の進路選択を支援します。</p>	<p>(学生支援)</p> <p>1109 移転や出張などの幅広いサポートを提供するとともに、学生自身が行う必要がある手続き（行政手続き等）に関する専門的なアドバイスや指導も継続して行いました。さらに、個別相談、代理行政申請手続き、各種調整、緊急時の支援（経済面及び身体・精神面）、語学サポートも提供しました。</p> <p>1110 個別の相談に応じ、解決策や必要なサポートを迅速に提供するなど、学生の福利厚生と学業の両面から積極的に支援しました。また、合理的配慮のフローに沿って保健センターやがんじゅうサービスとも連携しつつ、必要に応じて情報共有を行いました。</p> <hr/> <p>(プロフェッショナルキャリア開発)</p> <p>1111 学生が専門的な能力を開発しキャリアを形成（PCD）する機会を提供することを目的に、当該年度は関連イベントを 72 件実施しました。幅広いキャリアの選択肢に備えられるよう PCD プログラムを強化し、多彩な機会を提供しました。</p> <p><主なイベント></p> <ul style="list-style-type: none"> - OIST キャリアフェア - 企業訪問（機会の拡大） - 単位認定される産業インターンシップ（機会の拡大） - 九州大学での教育研修 - 学内リソースによる教育研修（新規） - 学内外の共同によるアカデミックキャリア講演会 	

令和 7 (2025) 年度事業計画	指標	令和 7 (2025) 年度業績	自己 評価
	<p>1112 プロフェッショナルキャリア開発プログラムを専門的能力開発に関する全学的な取組体制の中に組み込み、職員及び学生の成長、ひいては沖縄を含めた日本全体の発展につなげていきます。</p> <p>1113 キャリアの初期段階にある学生に対して、会議やワークショップの開催、他の研究機関への訪問、キャリアイベントの実施、学園外講演者の招聘を含むネットワーク構築の機会を提供し、若手研究者として活躍できるよう支援します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> - 日本学術振興会に特化した助成金申請ワークショップ（強化：選抜学生への個別コーチングセッションの導入） - 科学論文執筆の指導 - サイエンス・コミュニケーション・ワークショップ - チーム・コミュニケーション・ワークショップ - 起業・スタートアップセミナー - 一般向け研究発表の機会を含むプレゼンテーションワークショップ（発表機会の拡大） - リーダーシップ基礎ワークショップ（ビジネス基礎、問題解決スキル）（新規） - 上級日本語コース（新規） - 修了生との交流の機会 - 研究倫理 <p>1112 学内の関連部署と協働し、イノベーションや広報・コミュニケーションに関する専門的能力を形成する機会を提供しました。</p> <p>1113 企業訪問の受入や企業数や産業インターンシップの機会、キャリアフェアへの参加企業の増加により、学生に対するネットワーク構築の機会を拡充するとともに、各プログラムの質的向上を図りました。</p> <p>当該年度は、上記のほか、主に以下のプログラムを提供しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 国内の大学における教育研修 - OIST 理論科学客員プログラム (TSVP) フェローに 	

令和 7 (2025) 年度事業計画	指標	令和 7 (2025) 年度業績	自己評価	
	<p>1114 学生に対して外部資金獲得等の公募情報を提供し、情報管理、申請書類の書き方、面接対策、申請に関する明確なガイダンスの提供を含む一連の申請手続を支援します。</p> <p>1115 学生に対して国内及びグローバル社会の発展に資する研究成果の実用化に必要なスキル習得機会を提供します。</p> <p>1116 コミュニケーション等の知的スキルを習得・強化するためのトレーニングを学生に提供します。</p> <p>1117 沖縄を含む国内の他大学との交流機会（学生交流、ネットワーク構築、教育経験等）を学生に提供します。</p>		<p>よるキャリアトーク</p> <ul style="list-style-type: none"> - 経済同友会シンポジウム - 理事会／評議員会向けのポスター発表 <p style="text-align: right;">他 11 件</p> <p>1114 学生が日本学術振興会特別研究員の申請を進める上で役立つサポートとして、応募フローや申請書作成のワークショップを開催し、関連情報を適時適切に提供しました。また、Google 奨学金、日本学術振興会育志賞、戸部眞紀奨学金、平和中島財団奨学金、日本台湾交流協会日本奨学金など外部資金の申請をサポートしました。 添付資料 1. 1-1 外部の奨学金等を獲得した学生数</p> <p>1115 プロフェッショナルキャリア開発（PCD）の一環として、地域社会と連携し、科学的知識を応用して社会ニーズに応え、好影響を与えることを目指しのグループ・プロジェクトを実施しました。当該年度は、49 名の学生が 12 のグループに分かれて行いました。</p> <p>1116 すべての学生に、ビジュアル・コミュニケーション・ワークショップとサイエンス・コミュニケーション・ワークショップを含む 4 つのコミュニケーション関連の研修機会を提供しました。また、一般向けプレゼンテーションの機会を 4 回提供しました。</p> <p>1117 プロフェッショナルキャリア開発（PCD）プログラムの一環として、総合研究大学院大学でのキャリアトークセミナー、九州大学での教育研修、合同企業訪問、</p>	

令和7(2025)年度事業計画	指標	令和7(2025)年度業績	自己評価	
		博士人材育成コンソーシアム（CCDP）内での共同イベントなど、国内の大学と交流する16の機会を提供しました。また、九州大学と合同で行った「研究企画セミナー」、沖縄地域留学生交流推進協議会が主催する留学生親善交流会への参加を促し、他大学の学生と交流する機会を継続して提供しました。 添付資料 1.1-2 学術交流協定一覧		
1.1 博士課程 目標 (3)	沖縄、日本、世界との相互利益を促進するために、他の教育機関や地域社会とのさらなる連携・協働を図ります。			
1.1 博士課程 取組 (3)	（学生の連携） 1118 リサーチ・インターンや特別研究学生、共同研究指導、スタディ・リープ（他教育・研究機関における技術・知識習得期間）を含めた多様な交流機会を促進し、他大学との協働関係の維持・拡大に努めます。 1119 沖縄県在住の学生や沖縄県にゆかりのある学生に対して学園の知名度向上を図るために、様々なワークショップやイベントを開催し、博士課程及びインターンシップ・プログラムへの応募につなげていきます。 1120 個々の学生が沖縄との結びつきを強め、相互利益関係を強化していけるよう沖縄の環境や地域に密着した交流活動の充実・推進を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国内外からの博士課程志願者数 ・ 国内外からの博士課程入学者数 ・ リサーチ・インターンシップ・プログラム応募者数 ・ 受け入れたリサーチ・インターン生の数 ・ 交流機会に係る他大学との協定締結数 ・ 「高校訪問プログラ 	（学生の連携） 1118 学生の研究成果を向上させるため、共同研究指導を促進し、また、他大学との協働関係の維持や新たな協定を締結することで、より一層の関係拡大に努めました。 1119 学部および修士課程の学生を対象として毎年開催している学生募集ワークショップ「OISTサイエンス・チャレンジ2026」を開催し、日本国内から24名の大学生を招待しました。参加者の中からは、沖縄にゆかりのある学生5名が選出され、ワークショップに招待されました。 1120 プロフェッショナルキャリア開発（PCD）プログラムの一環として、グループ・プロジェクトや博士論文に関する一般向けプレゼンテーションを行い、地域社会と関わる機会を提供しました。	

令和7(2025)年度事業計画	指標	令和7(2025)年度業績	自己評価
<p>(学生募集活動)</p> <p>1121 多様なバックグラウンドを有する世界トップクラスの優秀な学生を獲得するため、募集活動の多様化を進めます。博士課程及びリサーチ・インターンシップ・プログラムを提供します。</p> <p>1122 研究科オフィス主催行事参加者に関する情報を維持管理します。</p>	<p>ム」への参加者数</p>	<p>(学生募集活動)</p> <p>1121 リサーチ・インターンシップ・プログラム及び博士課程プログラムへの応募を促進するため、当該年度は以下の学生募集活動を実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> - OIST ネットカフェの開催(オンライン説明会4回) 世界中から880名以上が参加登録 - OIST カフェの開催(国内での対面式説明会3回) 奈良先端科学技術大学院大学(NAIST)と共同で、東京、京都、大阪にて開催 - 英国での大学院説明会への参加、およびベトナム、台湾、米国におけるOIST説明会の開催(海外における学生募集活動の一環として) - OIST サイエンス・チャレンジ2026ワークショップの開催 キャンパスでの実体験や学生生活を体験する機会として3月に開催し、国内の学部及び修士課程の学生24名が参加 <p>これらの取り組みもあり、リサーチ・インターンシップ・プログラムに3,900名以上、博士課程に1,300名を超える応募がありました。</p> <p>添付資料 1.1-3 学生に関する情報</p> <p>1122 学生募集・出願システム「Slate」の導入により、学生募集および入学選考に関する志願者の記録や動向を追跡できるようになりました。この機能により、国籍、居住地、在籍大学などに基づいて、システム内に登録されている個人にターゲットを絞り、より効果的なコミュ</p>	

令和 7 (2025) 年度事業計画	指標	令和 7 (2025) 年度業績	自己評価
<p>(科学教育アウトリーチ活動)</p> <p>1123 学園のブランド力向上を図り情報発信を強化し、大学院大学の教育プログラムに関する認知度を高め、募集対象者の関心を惹きつけます。</p> <p>1124 スーパーサイエンスハイスクール指定校や理系コースを有する学校をはじめ、地域や全国の STEM 分野に関心のある小中高生を対象に、学校訪問プログラムや科学教室、ワークショップなどのさまざまな活動を行います。</p> <p>1125 科学教育アウトリーチ活動を通じて、小中高生の OIST の活動への参画を強化します。また、体験型科学活動の充実を図り、コミュニケーションや情報共有を強化します。</p>		<p>ニケーションを図ることが可能になりました。</p> <p>(科学教育アウトリーチ活動)</p> <p>1123 本学の博士課程及びリサーチ・インターンシップ・プログラムに関する情報発信の強化に取り組み、ウェブサイトのデザイン刷新や内容の更新を行うとともに、関心を有する登録者に対して学生の成功事例や出願締切のリマインド、イベント情報等を含むニュースレターを隔月で配信しました。合わせて、最新情報の提供に向けて広報資料の改訂及び新たな広報用ポスターの作成し、募集対象者の関心を惹きつけるため、当該ポスターを世界の主要大学（留学生数の多い大学を中心に 200 校以上）及び国内の大学 50 校以上に配付しました。</p> <p>1124 初等・中等教育 (K-12) の生徒を対象とした STEM アウトリーチを着実に実施し、102 校 5,192 名（うち沖縄県内学校：42 校 2,654 名）に対し学校訪問プログラムを提供しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 学校訪問プログラム参加者数：3,552 名 - スーパーサイエンスハイスクール (SSH) を対象とした SEED プログラム参加者数：1,640 名 <p>1125 教育委員会、学校、沖縄県及びその他関係機関と連携し、県内全域において本学が実施するアウトリーチ及び人材育成に関する取組みを周知しました。また、恩納村と連携し、「恩納×OIST こどもかがく教室」、恩納まつりでの体験型サイエンスプログラム、地域の学校での出前授業などを実施しました。また、読谷</p>	

令和7(2025)年度事業計画	指標	令和7(2025)年度業績	自己評価
		村においては、「OIST サイエンススタジオ」(同村ゆんラボ・未来館内)の運営を開始し、講演会や体験型プログラムの他、職場体験プログラムを提供しました。	
1.1 博士課程 目標 (4)	大学院大学の成長に合わせて、研究科オフィス機能の業務効率化、記録・方針のキュレーション(情報収集・整理)、コミュニケーションの改善を一貫して行います。		
1.1 博士課程 取組 (4)	<p>(方針・プロセス管理)</p> <p>1126 学園内の方針、規則、及び手順の改定を恒常的にを行い、教員や学生と協力しながら博士課程の運営における効率性と有効性の向上を図ります。</p> <p>1127 規則・制度等の変更について、その管理と内外に向けた伝達の改善を図ります。</p> <p>1128 学生に関する情報記録管理体制の改善と、縦断的データの集約・分析・可視化を推進します。</p>	<p>・ 学生及び教員とのミーティング件数とその内容</p>	<p>(方針・プロセス管理)</p> <p>1126 教員、教授会、カリキュラム審査委員会、学生評議会と協議、協力し、方針や規則を見直しました。</p> <p>1127 規則・制度等の変更について、各事項に係る関係者が事前に最新情報や説明を受けられるようにしました。</p> <p>1128 データの収集、可視化、分析などの記録管理の点で改善された学生情報データベースを開発しました。</p>
	<p>(業務効率化とプロセスの再構築)</p> <p>1129 ワークフローとプロセスの再編及び関連ソフトウェアの導入により、業務の効率・能率向上を目指します。</p> <p>1130 個々の職員の能力開発計画を策定し、専門的な能力開発や自己成長のための研修、その他の機会を提供し、職員の成長を支援します。</p>		<p>(業務効率化とプロセスの再構築)</p> <p>1129 データの自動記録とオンライン承認を含むワークフローの開発により、職員の作業負担を軽減しました。</p> <p>1130 オンライン教材の利用を含め、就業時間の最大5%を個人の能力開発に費やすことを奨励しました。</p>

令和 7 (2025) 年度事業計画	指標	令和 7 (2025) 年度業績	自己評価	
	<p>(コミュニケーション)</p> <p>1131 相互理解の促進ならびにサービスの質向上に向け、学生、教職員、及び関係部局間の柔軟なコミュニケーションの継続的な促進を図ります。</p> <p>1132 研究科オフィスのウェブサイトを充実させ、入学希望者や学外に向けた情報発信力の強化を図ります。</p>		<p>(コミュニケーション)</p> <p>1131 正規学生とリサーチ・インターンを対象に日本の法律や学生規範、滞在中の規律を説明するオリエンテーションを定期的で開催しました。改善された学生データベースを活用し、学業の進捗管理の強化を図り、また教職員と学生間の対話の機会を創出し活発なコミュニケーションを促進しました。</p> <p>1132 研究科ウェブサイトのデザインをシンプルかつ一貫性のあるものとし、必要な情報を網羅的にわかりやすく整理し、公開しました。また、入学希望者向けのウェブサイトでは、出願に関する情報に加え、修了生の声を定期的に更新し掲載するなど、情報発信の強化を図りました。</p>	
<p>1.2 研究活動に関する事項 目標</p>	<p>世界最高水準の学際的な研究を推進します。学生、ポスドク、その他教職員を含む多様な国際的研究者コミュニティを育成し、基礎及び応用研究を通じて新しい知見を生み出します。また、様々な国や地域から集まった学生・ポスドク等に対し教育訓練を実施します。相互の連携を促す環境の整備、最先端の設備・機器の提供及びサポート、ならびに定期的実施される厳格なピアレビュー等により、優秀な教員や学生、研究員を奨励し、研究力を高めるよう支援します。引き続き、重要な発見につながり、社会のニーズに応え、社会に有益でインパクトのある基礎的・応用的な研究を推進します。さらに、令和5年度に採択された文部科学省「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業 (J-PEAKS)」等を組織的に推進するとともに、新たにオープンセンターの取組を着実に実行</p>			

令和 7 (2025) 年度事業計画	指標	令和 7 (2025) 年度業績	自己評価
<p>1.2 研究活動に関する事項 取組</p> <p>（学際的研究の促進）</p> <p>1201 新規ユニット立ち上げを支援します。</p> <p>1202 教員のジェンダーバランスを改善するために、女性教員の採用に取り組みます。また、教員採用プロセスの進捗を綿密に確認し、新規採用者の多様性に配慮します。</p> <p>1203 学内での対話や交流を拡大し、学際的な共同研究の促進を図ります。</p> <p>1204 図書館は必要な電子コンテンツを積極的に収集する一方で、利用統計、ニーズ調査を通して、適正なコレクションの維持に努めます。またユーザーの利便性のために学術情報を効率的に検索できるインフラも提供</p>	<ul style="list-style-type: none"> 研究者の数（教員、ポスドク、技術者及び学生） 学外の専門家で構成された審査委員会による、内部質保証の基準に基づく研究成果の評価 複数教員による共同出版数 研究に関する受賞数 研究助成金の獲得数と金額 学園研究施設の学園外利用者数と金額 コアファシリティ担当部署、プロボストオフィス及び研究担当ディーンオフィスが主催した科学会議 	<p>（学際的研究の促進）</p> <p>1201 6つの新規ユニットの立ち上げを支援しました。関連部署と連携して立ち上げに係るプロセスを改善し、必要な手順や新規教員が要請したリソースの利用可能性精査・確認を行いました。</p> <p>1202 教員選考委員会（ファカルティ・サーチ・コミッティー）及び全教員を対象とし、教員のジェンダーバランスの改善並びにダイバーシティの向上に関する研修を実施しました。</p> <p>1203 教員が自身の研究を共有するファカルティ・リトリートを開催したほか、隔月開催のファカルティ・フォーラムにおいても研究発表の機会を継続的に提供しました。さらに、ぶりぶし（群星）フェローが OIST コミュニティに向けて研究を紹介する学内ミニシンポジウムを新たに実施しました。</p> <p>加えて、研究員および学生が研究成果を発表する学内セミナーシリーズや、研究担当ディーンオフィス主催による他大学との学際的なシンポジウムおよびワークショップを開催しました。これらの取組を通じて、分野横断的な交流を促進し、学際研究の推進に貢献しました。</p> <p>1204 世界最大の書誌データベースと国内の図書館システムを連携し、利用者に検索ツールと貸出サービスを提供しました。電子リソースの充実にも力を入れ、電子ジャーナル 7,102 誌、電子書籍 198,428 冊へのアクセス</p>	

令和 7 (2025) 年度事業計画	指標	令和 7 (2025) 年度業績	自己評価
<p>します。</p> <p>1205 国内の他大学との共同研究の強化と、本学園では補えない研究分野の学生の指向上を目的として、他大学連携教員による授業や学生指導を実施します。</p>	<p>の数(回数、参加者数)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コアファシリティを使用して行った共同研究の数(数、訪問者数) 	<p>を提供しました。</p> <p>1205 国内の他大学との連携・パートナーシップを通じて、共同研究等を含む学際的な交流を推進し、教育・研究の双方における機会の拡充を図りました。</p>	
<p>(研究活動の支援)</p> <p>1206 コアファシリティ(共用研究施設)の効率的な運用や専門的な人材の育成に努め、研究者が世界最高水準の学際的な研究を推進できるよう、その利用促進に努めます。</p> <p>1207 世界最高水準の研究力を更に強化するためのコアファシリティの整備を継続します。</p>	<p>の数(回数、参加者数)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コアファシリティを使用して、学園外の研究者・学生に実施したトレーニングコースの数(数、参加者数) 	<p>(研究活動の支援)</p> <p>1206 研究活動への充実した支援を提供するとともに、外部利用者へのサービス拡充にも積極的に取り組みました。当該年度は、施設の効率的な運営を確保するため、以下の変更を実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 海洋科学セクションと環境科学セクションを統合し、生態学研究のサポートを一本化 - コアファシリティ内のスペース申請を一元管理し、公平性と効率性を確保 - コアファシリティにおけるアウトリーチおよび施設見学対応を一元化し、公平性と効率性を確保 - 本学で科学ダイビング講習の提供を開始 <p>1207 当該年度を通じてサービス、機器、および施設の継続的な改善を進めてきました。主な新規追加事項は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 海洋科学研究・教育連携拠点「sea-neXus」の開設 - 新規データストレージを含む DC2(データセンター2)の稼働開始 - 植物育成施設の開設 - 新技術の導入 ・ 空間トランスクリプトミクス 	

令和 7 (2025) 年度事業計画	指標	令和 7 (2025) 年度業績	自己評価
<p>1208 研究倫理のさらなる向上に向け、研究倫理に関する専門家を招聘し、研究倫理セミナーを開催するなど、研究倫理教育の徹底に努めます。</p> <p>1209 教員、研究者、学生への外部研究資金申請・管理に関する支援を強化し、公募情報についても継続して情報入手、学園内に配信します。また、共同研究を促進するための支援プログラムを提供します。</p> <p>1210 令和 4 年度に文部科学省「共創の場形成支援プログラム (COI-NEXT)」で採択された「心・体・環境の健康」を基盤とした持続可能型社会を実現するグローバル・バイオコンバージェンスイノベーション拠点における研究開発プロジェクトを着実に推進します。</p> <p>1211 政府が掲げる「量子未来社会ビジョン」(令和 4 年 4 月統合イノベーション戦略推進会議策定)に基づき、「量子技術イノベーション拠点」の体制強化を担うため開設された「OIST 量子技術センター」において、国際的な環境の下で、学際的な研究とイノベーションを</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・ マスフォトメトリー ・ MALDI-MSI <p>1208 研究倫理のさらなる向上に向け、研究倫理に関する専門家を招聘し、研究倫理セミナーを開催するなど、研究倫理教育の徹底に努めました。</p> <p>1209 外部研究資金公募情報を研究者及び関連事務部門と共有し、申請準備に係るセミナーや勉強会、コンサルテーションを実施しました。特に科研費については、新規採択者向けに必要な事務処理の流れを説明するセミナーを開催し、科研費取り扱いに関わる研究者及び事務系職員向けセミナーを開催しました。</p> <p>1210 当該年度は、基礎研究の成果を地域と社会の課題解決につなげるための機能強化として、「コミュニティー・リレーションズ・フェロー」及び「ソーシャル・アントレプレナー・フェロー」を新設し、本学の基礎研究を持続的に社会へ還元するための活動を進めました。能動かつ継続的な研究開発マネジメントの取組みは、科学技術振興機構 (JST) の第 1 回中間評価 (外部評価) において、総合評価ランク「A」と評価されました。</p> <p>1211 OIST 量子技術研究センターは、「量子未来社会ビジョン」に基づき、国際的な環境の中で学際的な研究とイノベーションの推進に努めました。根本香絵教授と本学の他の主任研究者によって、産学連携による量子人材の育成を目的とした「戦略的イノベーション創造プロ</p>	

令和 7 (2025) 年度事業計画	指標	令和 7 (2025) 年度業績	自己評価
<p>推進していきます。</p> <p>1212 先端半導体研究について、必要な研究環境を整備するとともに、関係機関との連携を図ることにより、先端半導体製造の低コスト化、省エネ化を可能とする技術開発の研究等を推進します。</p> <p>1213 コアファシリティの学園外利用を促進し、外部資金の多様化を図る他、国内外のコアファシリティネットワークを強化します。</p>		<p>グラム (SIP)」他、複数のプロジェクトを推進した他、新たに、量子コンピュータ領域における非ハードウェア開発のための人材育成事業 (NEDO) に採択されました。</p> <p>1212 先端半導体研究について、必要な研究環境を整備するとともに、関係機関との連携を図ることにより、先端半導体製造の低コスト化、省エネ化を可能とする技術開発の研究等を推進しました。</p> <p>1213 外部利用の促進に向けて、以下の取り組みを積極的に実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> - ウェブサイトの改善による情報発信の強化 - パンフレットおよびリーフレットの作成・配布による広報活動の展開 - 展示会および学会への出展による対外的な認知向上の推進 - 沖縄地域ネットワーク関係者との会合の開催 <p>添付資料 1.2-1 令和 7 年度 OIST 研究施設学外利用者</p>	
<p>(研究内容・成果の発信・公表)</p> <p>1214 教員の研究成果を伝えるために、ウェブサイト、ソーシャルメディア、マスメディアなど広報ディビジョンを通じた一般向けの発表を含む、複数の公表戦略を展開します。また、研究成果は可能な限りオープンアクセスで入手できるように努め、国際的に認知された分析ツールを活用し、本学の研究の影響と成果を報告します。</p>		<p>(研究内容・成果の発信・公表)</p> <p>1214 大学全体の研究成果をより広くかつ公平に発信するため、教員との連携を強化し、社会的関心の高い研究成果について、積極的な情報共有が図られるよう取り組みました。また、査読前の研究論文や各種出版物のモニタリングを行い、プレスリリースに適した研究を特定する体制を構築しました。これにより、49 の研究ユニットと 2 つの研究グループによる研究を紹介しました。</p>	

令和 7 (2025) 年度事業計画	指標	令和 7 (2025) 年度業績	自己評価
<p>1215 学園について、ウェブサイト記事、プレスリリース、記者会見、記者懇談会、出版物や電子ニュースレター、ソーシャルメディア、幹部によるコミュニケーションや注目を引くような情報発信の機会及び官・民・大学の対話を活用して国内外の科学学術関係者に働きかけ、一般へのわかりやすい情報発信に努めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 効果的なメディア戦略を実施し、最新の科学の進歩及び成果に関するプレスリリースや記事、幅広い層が関心を持つ活動について、新規及び既存のルートを通じて沖縄県内や国内外のメディアに向けて配信します。 - 国内の他学術機関と協力してグローバルなネットワークを維持し、国内外の科学広報分野での貢献を高めます。 - ソーシャルメディアやその他のデジタルチャネルを引き続き強化していきます。 		<p>さらに、プレスリリースや注目に値する論文をより広く発信するため、新たなソーシャルメディア「Bluesky」の運用を開始しました。</p> <p>添付資料 1.2-2 OIST 論文・発表数</p> <p>1215 研究・教育・イノベーションに関する情報を多様なチャンネルを通じて積極的に発信し、本学の認知度向上に努めました。研究者への個別取材や、国内外のメディアにおける研究の紹介のほか、起業家育成戦略や科学技術エコシステムの形成に向けた取組み、STEM 教育・アウトリーチ活動が取り上げられるなどし、本学の認知度が大きく向上しました。</p> <p>記事掲載実績：</p> <ul style="list-style-type: none"> - 英語記事（ウェブ記事）：97 本 - 英語のみで配信された記事：5 件 - 日本語記事：100 本 <p>記者会見・メディア取材・打合せ：合計 160 件</p> <p>主なメディア掲載実績：</p> <ul style="list-style-type: none"> - NHK サイエンス ZERO: イカはいかに生きるか？ 驚異の生存戦略に迫る - NHK World – Science View – Protecting Corals with Genetic Technology – 佐藤矩行教授 密着取材 - 朝日新聞: われわれーネアンデルタール人＝？ 遺伝子で迫る人類学「最大の謎」 - 日経ビジネス: 有訓無訓「批判的思考で社会に変革をもたらす 日本の産業界に必要なのは博士の力だ -カリンマルキデス」、有訓無訓「日本は博士の力が 	

令和 7 (2025) 年度事業計画	指標	令和 7 (2025) 年度業績	自己 評価
		<p>必要」ノーベル賞受賞者輩出の沖縄科技大・マルキ デス学長</p> <ul style="list-style-type: none"> - NHK サイエンスZERO- 記憶力アップも夢じゃない！記憶の正体は“謎のコブ”？- 田中和正准教授がスタジオ出演 - 日本経済新聞: 「沖縄に集う外国人起業家 長寿や水産、地域色生かし革新」 - 日本経済新聞: 「沖縄の子供に最新の理系教育を沖縄科技大が奮闘、産業創出の礎に 沖縄の子供に最新の理系教育を 沖縄科技大が奮闘、産業創出の礎に」 <p>国際メディア掲載実績：</p> <ul style="list-style-type: none"> - National Geographic: “Researchers find oldest ant known to science—113-million-year-old ‘hell ant’ with scythe jaws” - CNN: “Bumps on ancient, armored fish may have given rise to teeth in animals, study finds” - The Washington Post: “One gene reveals clues to why humans thrived and Neanderthals didn’t” - CNN: “Humans may have had a competitive edge over our ancient relatives, study suggests” - Smithsonian Magazine: “Fiji’s Ants Are Struggling. Scientists Say They’re Part of the Broader ‘Insect Apocalypse’” - The New York Times: “The Meek Really Did Inherit the Earth, at Least Among Ants” 	

地域メディアとの連携：

沖縄県内における報道では、地域産業の高度化や持続可能な社会の実現に資する研究成果が幅広く取り上げられました。具体的には、畜産分野における環境負荷低減技術や、水産分野における新たな生産手法の開発など、産業応用に直結する研究が注目を集めました。

また、沖縄固有の生物種に関する遺伝情報の解析や、伝統工芸の科学的分析など、地域特有の自然・文化資源を科学的に解明する取り組みも紹介されました。

さらに、読谷村「ゆんラボ・未来館」内における「OISTサイエンススタジオ」の開設、高校生を含む若い世代の研究参画や、子ども向け科学教育の充実が進んでいることに加え、学生による iGEM Okinawa 国際大会での成果なども報じられ、次世代人材の育成および地域との連携の広がりが報道されました。

サイエンスコミュニケーションの取り組み：

日本におけるサイエンスコミュニケーション能力の向上に寄与すべく、本学として関連イベント等への参画や関係機関との連携を通じ、国内ネットワークの強化に貢献しました。

- 「Japan SciCom Forum」(東京科学大会会場)において、本学はパートナー機関の一つとして企画・運営を担い、国内外のサイエンスコミュニケーション関係者との協力関係の強化に寄与しました。また、登壇等を通じて本学の研究活動を発信。
- 全国の研究機関・大学の広報担当者によるネットワーク「科学技術広報研究会(JACST)」において、本

令和 7 (2025) 年度事業計画	指標	令和 7 (2025) 年度業績	自己 評価
	<p>1216 学園の発展や成功に教職員及び学生が貢献できるよう、進捗状況や課題、達成状況について学内での情報周知を行う学内コミュニケーションチャンネルを強化していきます。</p> <p>1217 学術的地位をより強固なものとするために、国内外の研究者等との遠隔会議やセミナー等を円滑に遂行できるよう、教職員及び学生に対して充実した技術支援と適切なマニュアル及びトレーニングを提供します。</p>	<p>学は運営面での中核的役割を担い、当該分野における連携基盤の強化に貢献。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 第 80 回国際連合総会に併催されたサイエンスサミットにおいては、本学が国内の複数の大学・研究機関の参画を促進し、国際舞台における日本の科学のプレゼンス向上に寄与。 <p>1216 教職員および学生への情報発信の強化および学内コミュニケーションの活性化を図りました。イントラネット「TIDA」やデジタルサイネージの運用、ニュースレターやイベントの実施、全学的なエンゲージメント調査の実施等により、120 件以上の TIDA 記事の掲載を含め、情報共有の強化に取り組みました。</p> <p>また、大学幹部が学内コミュニティと直接対話するタウンホール・ミーティングや学長コラムの発信等を通じて、大学幹部と学内コミュニティとの双方向コミュニケーションの促進に取り組みました。</p> <p>1217 質の高い教育研究(学術)及び連携の維持に向け、遠隔会議やセミナーへの対応を含む技術支援及基盤整備を強化しました。研究科大学院生情報システム(SIS)については、入学から修了までの学生ライフサイクル全体を支える安定した運用段階に達し、入試データとの連携によりデータの継続性及び一貫性を確保しました。また、カンファレンス及びワークショップ管理システムの開発については、最終テスト段階まで進展し、次年度における沿革・ハイブリッド形式の学術イベントの実施体制の一層の強化に向けた基盤を整備しました。</p>	

令和7(2025)年度事業計画	指標	令和7(2025)年度業績	自己評価
1.3 教員関係 目標	<p>卓越した学識と独創性のある研究を行い、学際的な研究に興味を持つ優れた能力を有する、全てのレベルの教員の採用活動を行います。また、教員評価、教員関連のミーティング、研究ユニットのスペース配分、研究者の採用や人事管理を行います。更に、教員や研究員のキャリアアデベロップメントやビジタープログラムなど、卓越した研究基盤強化のための活動を推進します。大学図書館、及びその他教員や研究員に関連する事項も推進します。また、全職員にキャリア開発プログラムを提供するとともに、すべての研究データを適切に記録・管理し、報告のプロセスをより効率的に一元化します。</p>		
1.3 教員関係 取組	<p>(教員の採用)</p> <p>1301 予算と研究スペースを考慮しながら戦略的な採用活動を行います。</p> <hr/> <p>(教員・研究評価の実施)</p> <p>1302 国際的に高い水準において、教員評価(ユニット審査、昇進審査及びテニュア審査)を実施します。</p> <p>1303 10名の教員のテニュア審査、4名の教員の昇進審</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究評価を実施した研究ユニット数 ・ テニュア審査及び昇進審査の数 ・ 機関レポジトリへの論文登録数 	<p>(教員の採用)</p> <p>1301 予算や利用可能な研究スペースについて学内で検討したうえで、採用活動を進めました。今年度は、本学の強みや今後の成長の可能性を踏まえて戦略的に設定した「生態学、環境科学、地球科学、海洋学」と「物理学および量子科学(物質・材料科学やナノテクノロジーの関連分野を含む)」の2分野で採用活動を実施しました。</p> <p>また、スペースや予算、利用可能なリソースの検討に加えて、未使用スペースの状況を詳細に確認し、効率的かつ適時適切な割り当てが行えるように努めました。</p> <hr/> <p>(教員・研究評価の実施)</p> <p>1302 国際的に高い水準において、外部の評価者による教員評価を行いました。</p> <p>1303 8名の教員のテニュア審査を実施しました(1名</p>

令和7(2025)年度事業計画	指標	令和7(2025)年度業績	自己評価
<p>査を実施する予定です。</p> <p>1304 17の研究ユニットの審査を実施する予定です。</p> <p>1305 業績評価は、教員担当学監及び准教員担当学監が教員の研究、教育活動、大学行政サービスへの貢献、また外部資金の獲得などの項目について評価を行い、給与に反映させます。新しく導入される教員活動報告のシステムにより、多くのデータを効率的に収集するとともに、各教員の年次報告書を作成します。</p>		<p>の審査が継続中、1名は延期)。 昇進審査においては、3名実施し、もう1名については審査の準備を進めました。</p> <p>1304 学外審査委員会により、16件の研究ユニットの審査(通常のユニット審査及びテニューア審査に関連するユニット審査を含む)を実施しました。 (ユニット審査(テニューア審査に関連するケース)1件は、延期)</p> <p>1305 年次の業績評価として教員の研究、教育活動、大学行政サービスへの貢献及び外部資金などの項目を評価しました。新しく導入された「教員活動データベース」により、多くのデータを収集し各教員の年次報告書をより効率的に作成しました。</p> <p>添付資料 1.3-1 令和7年度研究に関する受賞実績 添付資料 1.3-2 令和7年度アウトリーチ活動実績</p>	
<p>(研究成果レポート)</p> <p>1306 オープンアクセス推進の取組を強化し、機関レポジトリへの登録論文数の増加を図ります。</p>		<p>(研究成果レポート)</p> <p>1306 当該年度に本学の機関レポジトリ(OISTIR)で公開された論文は224本、総数2,679本(2026年1月末時点)でした。</p>	
<p>(シニアレベルの教員の任用と定年)</p> <p>1307 定年を超えても研究延長に相応しいと認められ、かつ学長から申し出があった教員は厳格な審査を経て、研究の継続を検討します。</p>		<p>(シニアレベルの教員の任用と定年)</p> <p>1307 当該年度は、該当者はありませんでした。</p>	

令和7(2025)年度事業計画	指標	令和7(2025)年度業績	自己評価
<p>(教員の能力開発)</p> <p>1308 Cハブ(キャリアセンター)では、教員に研修プログラム、ワークショップ、リソース、個別カウンセリングを提供し、リーダーシップや管理能力、メンタリング、コミュニケーション、コラボレーション等の強化に取り組みます。</p>		<p>(教員の能力開発)</p> <p>1308 教員のメンタリング(育成指導力)を強化し、また優れた功績者を称えるために最優秀メンタリング教員賞の授与を実施しました。教員リトリートにて、異分野の研究連携を促進する取組を行い、組織的にコラボレーションを後押ししました。また、ラボマネジメントの基礎や多文化なチーム管理に関する基礎実務の研修を実施しました。</p>	
<p>(学生・研究員・事務職員の能力開発)</p> <p>1309 Cハブでは、教員のほかに、学生、研究員、事務職員の能力開発に取り組むため、リーダーシップ、管理能力、その他のスキル開発のための研修プログラムを提供します。科学分野の女性研究者・教員の増加を目的とした、若手女性研究者のためのリーダーシッププログラムを開始します。</p>		<p>(学生・研究員・事務職員の能力開発)</p> <p>1309 研究活動について理解を深める大学職員対象の勉強会を継続し、初めて他大学向けにもオンラインで交流を含んだ勉強会を実施し、250名を超える参加がありました。</p> <p>全管理職対象のマネジメント研修を継続し、新たに少人数制で事務管理職向けのリーダーシップ研修のパイロットを実施しました。またリーダーシップにつながる自己内省に特化したセルフリフレクション・ワークショップを実施しました。</p>	
<p>(アルムナイネットワーク(OAAN))</p> <p>1310 アルムナイ・アソシエーションネットワーク(OAAN)を活用し、在籍中の学生や職員が本学の同窓生や関係者と継続的に交流できる取組を行います。OAANを通じて科学セミナー、ネットワークイベント、能力開発ワークショップやメンタリングプログラムを実施します。</p>		<p>(アルムナイネットワーク(OAAN))</p> <p>1310 卒業生(アルムナイ)エンゲージメントの拡大を図り、本学と卒業生の連携を強化しました。卒業生ネットワークの活用が進み、卒業生への到達率(LinkedIn経由)が約52%に拡大、2026年度の目標を前倒しで達成しました。施策面では、海外での同窓会イベント2件及び東京での交流会1件を開催、また年間を通じて国内外の卒業生および卒業予定者との個別</p>	

令和 7 (2025) 年度事業計画	指標	令和 7 (2025) 年度業績	自己評価
		面談を継続的に実施しました。こうした戦略的な卒業生との対話を通じ、専門性の向上支援（プロフェッショナル・デベロップメント）とコミュニティ形成の継続的な推進に努めました。	
1.4 世界的連携 目標	他大学や研究機関との合同シンポジウムやワークショップの開催、インターンの受入れ等を通じて、世界及び国内の科学コミュニティとの緊密なネットワークを構築します。先端的な基礎研究及び最優秀の科学者を育成することで社会向上を目指す研究大学院大学として国際的な知名度の向上を目指します。		
1.4 世界的連携 取組	（世界的連携） 1401 沖縄を含む国内の他大学との交流機会（学生交流、ネットワーク構築、教育経験等）を学生に提供します。	・ 本学が主催する国際ワークショップ及びコースの数 （25） ・ 国際ワークショップ及びコースの参加者からの感想・フィードバック ・ 国際的に競争力のある国内外の大学、	（世界的連携） 1401 （1117 再掲）プロフェッショナルキャリア開発（PCD）プログラムの一環として、総合研究大学院大学でのキャリアトークセミナー、九州大学での教育研修、合同企業訪問、博士人材育成コンソーシアム（CCDP）内での共同イベントなど、国内の大学と交流する 16 の機会を提供しました。また、九州大学と合同で行った「研究企画セミナー」、沖縄地域留学生交流推進協議会が主催する留学生親善交流会への参加を促し、他大学の学生と交流する機会を継続して提供しました。

令和 7 (2025) 年度事業計画	指標	令和 7 (2025) 年度業績	自己評価				
<p>1402 他大学・研究機関との交流・対話の促進等、ネットワーク強化のための活動に重点的に取り組むとともに、国内他大学におけるグローバル化促進や研究力強化等にも資するような大学連携や取組等を促進します。</p>	<p>研究機関との間で取組んだ新たなパートナーシッププログラムの数及び既存プログラムの拡大数 (15)</p>	<p>1402 パートナー機関とのワークショップ・セミナー、リサーチ・インターンシップ、サマーキャンプの企画・実施を通じ、国内の大学生及び若手研究者に対し、グローバルな環境での経験を提供するとともに、オンライン及び対面の双方における国際的なネットワーキングの機会の創出に取り組みました。</p> <p>当該年度は、これまでで最多となる共同シンポジウム（12件）を開催するとともに、共同研究と人材育成を中核とした連携基盤を目指す新たなプログラム「ミラーラボ」（6件）を推進するなど、計18件のプログラムを実施しました。加えて、若手教員も国内他大学との連携活動に積極的に参画し、研究者及び学生間の交流機会の拡大に努めました。</p> <p>さらに、海外研究機関との連携も開始し、OIST 客員プログラム（理論科学客員プログラム）を通じて、機関間における協力体制の強化を図りました。</p> <p>これら一連の活動は、日本学術振興会（JSPS）による「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）」と相互に補完しあい、有意義な取組みとなりました。</p> <table border="1" data-bbox="1332 1045 2018 1473"> <tr> <td data-bbox="1332 1045 1525 1437">理化学研究所</td> <td data-bbox="1525 1045 2018 1437"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 連携教員 1名 ・ 2026年3月18日 共同ワークショップ Hybrid Intelligence and Collective Behavior 開催 ・ 2026年3月23日～24日 Mirror Lab Symposium: Frontiers in Recent Human Evolution への参加 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="1332 1437 1525 1473">東京大学</td> <td data-bbox="1525 1437 2018 1473"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新たな共同研究プロジェクト </td> </tr> </table>	理化学研究所	<ul style="list-style-type: none"> ・ 連携教員 1名 ・ 2026年3月18日 共同ワークショップ Hybrid Intelligence and Collective Behavior 開催 ・ 2026年3月23日～24日 Mirror Lab Symposium: Frontiers in Recent Human Evolution への参加 	東京大学	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新たな共同研究プロジェクト 	
理化学研究所	<ul style="list-style-type: none"> ・ 連携教員 1名 ・ 2026年3月18日 共同ワークショップ Hybrid Intelligence and Collective Behavior 開催 ・ 2026年3月23日～24日 Mirror Lab Symposium: Frontiers in Recent Human Evolution への参加 						
東京大学	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新たな共同研究プロジェクト 						

令和 7 (2025) 年度事業計画	指標	令和 7 (2025) 年度業績		自己 評価
			(ミラーラボ) の推進 ・ 2025 年 8 月 18 日 OIST x 東京 大学共同シンポジウム開催	
		大阪大学	・ 連携教員 1 名 (本学から派 遣、継続中) ・ 2026 年 1 月 27 日 CryoEM and Proteins に関するショーケース シンポジウムへの参加	
		慶應義塾大学	・ シンポジウム 3 件 ・ 医学部生サマーキャンプ 20 名 参加 ・ 長期リサーチ・インターンシップ 6 名受入 ・ 新たな共同研究プロジェクト (ミラーラボ) の推進	
		東北大学	・ 2025 年 11 月 20 日～21 日 OIST x Tohoku U Joint Symposium on Changing Marine Ecosystems 開催 ・ 新たな共同研究プロジェクト (ミラーラボ) の推進	
		九州大学	・ 2026 年 1 月 21 日～22 日 Energy and Sustainability に関する共同シ ンポジウム開催 ・ 2025 年 10 月 27 日 MIRAI ネット ワークを通じた連携: Health and Aging に関する共同シンポジ ウム開催	

1403 世界をリードする質の高い国際的なコースやワークショップを開催し、学園の学生や若手研究者が最先端の科学を学び、外部の優れた研究者と交流する機会を

北陸先端科技大 (JAIST)	2025年11月26日 Advanced Science and Technologyに関する共同シンポジウム開催
奈良先端科技大 (NAIST)	Greener Mobility (SO-Smart Project) に関する連携および共同ワークショップの実施
琉球大学	2025年11月20日～21日 海洋科学に関する共同シンポジウムへの参加
EAJS	2025年10月27日～30日 OIST 若手研究者3名が上海で開催された EAJS 2025 (East Asia Joint Symposium) に参加
京都大学	京都大学の RIMS および YITP とのビジティングプログラムに関する連携および情報交換
マックス・プランク協会	<ul style="list-style-type: none"> 2026年3月23日～24日 Mirror Lab Symposium: Frontiers in Recent Human Evolution 開催 新たな共同研究プロジェクト (ミラーラボ) の推進
フランス国立科学研究センター (CNRS)	新たな共同研究プロジェクト (ミラーラボ) の推進

1403 当該年度は、OIST 国際ワークショップを9件、うちパートナーシップワークショップを3件開催 (5件は対面形式、4件はハイブリッド形式) し、781名が現

令和 7 (2025) 年度事業計画	指標	令和 7 (2025) 年度業績	自己評価	
<p>提供します。</p> <p>1404 潜在的な研究能力が高い優秀な学生に対して、リサーチ・インターンシップ・プログラムの履修機会を提供します。</p> <p>1405 学生が学業に専念できるよう、転居手続、渡航準備、住居、語学支援、緊急時対応、経済的支援など、学生のニーズに応じて多様で柔軟な支援を提供します。</p>		<p>地参加、31 名がオンラインで参加しました。当該年度は、参加費として 27,187,914 円を徴収し、各種助成金・協賛費として約 590 万円を獲得しました。また他大学との戦略的パートナーシップに基づくシンポジウムを 8 件（参加者 500 名）、研究ユニット主導による他機関との共催シンポジウムを 4 件（参加者 893 名）、客員プログラムの招聘者との連携シンポジウムを 4 件（参加者 197 名）、開催しました。</p> <p>添付資料 1.4-1 OIST 主催によるワークショップ・ミニシンポジウム</p> <p>1404 (1108 再掲) リサーチ・インターンシップの機会を提供しました。4 月と 10 月の 2 回の応募期間を通して、3,900 以上の応募があり、38 名をインターン生として受け入れました。</p> <p>当該年度は、プログラムの質の向上及び持続的な運営体制の確保を目的として、出願手数料を導入しました。</p> <p>1405 (1109 再掲) 移転や出張などの幅広いサポートを提供するとともに、学生自身が行う必要がある手続き（行政手続き等）に関する専門的なアドバイスや指導も継続して行いました。さらに、個別相談、代理行政申請手続き、各種調整、緊急時の支援（経済面及び身体・精神面）、語学サポートも提供しました。</p>		
第 2 章 ガバナンス及び業務運営の透明性・効率性に関する事項				
<p>2.1 ガバナンス及び業務運営体</p>	<p>学園では、国内法人の伝統的な在り方とは異なり、学園法及び学園の寄附行為に基づき、学外理事を中心として理事会を構成しています。このような理事会は、学園及</p>			<p>B</p>

令和 7 (2025) 年度事業計画	指標	令和 7 (2025) 年度業績	自己評価	
制 目標 (1)	<p>び大学院大学の業務運営に関し、最終的な責任を負います。また、評議員会は、地域社会の声を含め、幅広い意見を学園及び大学院大学の業務運営に反映させます。これらの二つの合議体が、法令及び学園の寄附行為に基づき、学園における透明で効果的なガバナンスを確保するために重要な役割を担います。これに対し、理事長・学長は、事業計画の実施についてリーダーシップを発揮し、理事会及び評議員会に対し説明責任を果たします。このように、理事会及び評議員会と理事長・学長との間の関係を適切に保つことによって、特色あるガバナンスを実現します。学園の寄附行為や PRP と、その他関連する法律と規則との一貫性を保ちます。また、学園の監事は業務運営の適切性・効率性が確保されるよう、海外の優れた事例との比較も取り入れ、厳格な監査を行います。</p>			
2.1 ガバナンス及び業務運営体制 取組 (1)	<p>(基本的な運営)</p> <p>2101 定例の理事会を5月、7月、9月、11月、2月に、定例の評議員会を5月、1月に開催します。5月の理事会においては、前年度の業務の実績を報告し、評価を行います。評価の結果は公開情報として内閣府へ報告されます。改正私立学校法の施行に伴い、4月以降、一連の臨時会議を複数開催し、重要な管理事項に効果的に対処すると同時に、理事会選任機関と評議員会選任機関を設立し、改正私立学校法に関連するプロセスを効率的に実施します。</p>		<p>(基本的な運営)</p> <p>2101 理事会の定例会議を令和7年5月、7月、9月、11月及び令和8年2月に、評議員会の定例会議を令和7年5月と令和8年1月に開催しました。5月と9月の会議は、対面とオンラインを併用したハイブリッド形式で開催し、1月と2月の会議はオンラインで開催しました。5月の理事会では令和6年度の実績について報告と評価が行われ、その評価結果は内閣府に報告するとともに、本学ウェブサイトで公表しました。</p>	

令和 7 (2025) 年度事業計画	指標	令和 7 (2025) 年度業績	自己評価
<p>2102 理事会及び評議員会は理事会運営委員会や分科会に重要な議題を事前に議論する機会を作るため、定例会議では、本会議以外に事前会議を設けます。理事会運営委員会及び理事会と評議員会の分科会は事前会議の間に重要な事項について話し合い、また理事会運営委員会は教員評議会と会議を持つようにします。</p> <p>2103 理事長・学長は、学園及び大学院大学の日常的な業務運営の全ての面でリーダーシップを発揮し、事業計画を着実に実施します。</p> <p>2104 理事長・学長は毎週開催される上級幹部会議等において、大学の重要なリスクの同定、対応策の策定及び実行を検討・準備し、これらを理事会に報告します。</p>		<p>2102 理事会及び評議員会の各役割に応じた議論を充実させるため、5月に評議員会の分科会、5月及び10月に理事会の分科会を開催しました。また理事会は、新たな副理事長の任命や大学運営に関する事項のため、臨時会議を5月、12月、1月に開催しました。評議員会は、4月、9月、12月に臨時会議を開催しました。</p> <p>2103 理事長・学長は、学園及び大学院大学の日常的な業務運営の全ての面でリーダーシップを発揮し、事業計画を着実に実施しました。</p> <p>2104 当該年度は、学園の成熟からレジリエンスの強化に向けたフェーズへの移行を進めました。状況に応じた機動的な意思決定体制への見直しを行うとともに、定期的な幹部レベルでの議論を通じて、組織全体及び各部門のガバナンスの整合と強化を図りました。これには、戦略的責任の共有及びリスクマネジメントの強化が含まれており、「One OIST」戦略の推進状況（J-PEAKS 事業の体系的かつ組織的な実行を含む）などの重要事項について集中的な議論を行いました。</p> <p>また、理事会への報告については、引き続きミッション分野に基づき、簡潔かつ明確な形で実施し、組織全体の持続的な発展に資するものとなりました。</p>	

令和 7 (2025) 年度事業計画	指標	令和 7 (2025) 年度業績	自己評価	
	<p>2105 監事は、事前に作成する監査計画に基づき、内部監査や会計監査とも連携しつつ、予算執行、調達・入札、法令順守の状況をはじめ、業務全般について厳格な定期監査を実施するとともに、必要に応じて、臨時の監査を行います。監事は、改正私立学校法の施行を踏まえ、より充実した監査を行うとともに、適切な形で中立性を維持しつつ、大学の他の役員や幹部職員との効果的なコミュニケーションを図ります。監事には、その活動に必要な十分な情報及び人的支援を提供します。監査計画及び監査結果については、理事会での報告等を通じて、業務運営への反映を促します。</p>		<p>2105 監事は、令和 7 年度の監事監査に関する計画を定め、「令和 7 年度の監事監査について」として令和 7 年 10 月理事長に通知し、当該計画に基づき定期監査を実施しました。定期監査の実施に当たっては、内部監査及び会計監査人監査との連携や活発な議論を行い、各ディビジョンと実際の業務プロセスについて、丁寧に意見交換や議論を行うことに留意しました。監事監査結果は、令和 7 年 6 月に開催予定の理事会及び評議会で報告予定です。</p> <p>また、定期監査以外の場において、副学長等の幹部職員と積極的に意見交換を行うとともに、会議へは原則として対面で参加し、決裁案件の回付等も含めた各種の手段により情報を入手するなど、本学の業務運営状況のさらなる把握に努めました。</p>	
<p>2.1 ガバナンス及び業務運営体制 目標 (2)</p>	<p>世界水準の国際的な大学院大学の効果的な運営に相応しい、海外の優れた事例を踏まえた事務組織の構築に努めます。また、予算執行及び業務運営について国への説明責任を果たすために、内閣府と密接なコミュニケーションを図ります。</p>			
<p>2.1 ガバナンス及び業務運営体制 取組 (2)</p>	<p>(事務事業の構築)</p> <p>2106 理事長・学長、副理事長、他の幹部による会合を定期的に実施し、情報共有を促進するとともに業務運営の状況を確認します。また、大学の幹部と教授会による会議を隔月毎に開催し、上層幹部と教授間の情報の流れを改善していきます。報酬検討委員会も必要に応じて開催していきます。</p>		<p>(事務事業の構築)</p> <p>2106 理事長・学長、副理事長、他の幹部との定例会議を隔週で行い、戦略の策定及び実行 (J-PEAKS や COI-NEXT といった事業の体系的かつ組織的な推進を含む) などの重要事項について集中的に審議しました。</p> <p>運営幹部から教授会に対し、運営に関する情報を共有する会議を継続して開催しました。報酬検討委員会も適宜開催しました。</p>	

令和 7 (2025) 年度事業計画	指標	令和 7 (2025) 年度業績	自己 評価
<p>2107 内閣府との定例協議会等を通じて密接なコミュニケーションを図るとともに、事業計画の実施状況等について適宜報告します。また、翌年度事業構想及び概算要求について、前広かつ綿密に打合せます。</p> <p>2108 最先端の IT ツール、サービス、支援を提供し、世界をリードする大学を目指します。</p> <p>2109 ユーザーが IT リソース及びサービスを適時適切に活用できるよう、簡潔明瞭かつ最新の知識ベース及びユーザー教育プログラムを提供します。</p> <p>2110 学園の発展や研究、教育を支える基幹業務プラットフォームを特定、評価、デザイン、展開、維持し、最適化を図ります。</p>		<p>2107 必要に応じた個別会議を通じて、内閣府との密接なコミュニケーションを維持しつつ、令和 7 年度事業計画の実施状況、令和 8 年事業構想、令和 8 年度概算要求及び令和 8 年度事業計画策定等について適時適切に情報共有しました。</p> <p>2108 ERP 更新の推進を通じて、業務基盤の整備を進めました。これにより、業務の標準化やデータ管理の高度化を図るとともに、利便性向上に取り組みました。</p> <p>2109 利用者向け情報の整理・再編に着手し、ユーザーサポートの向上を図りました。既存のナレッジベース（1,294 件）については、重複の解消や不測の補完を目的とした更新を進めるとともに、関連する基準との整合性の確保に取り組みました。また、問い合わせ対応の仕組みを改善することで、必要な情報への迅速なアクセスを可能とし、IT ツール及びサービスのより円滑な活用を支援しました。</p> <p>2110 全学的な技術基盤の最適化に向け、HERM（高等教育機関向け枠組み）及び TOGAF（エンタープライズ・アーキテクチャの標準的な枠組み）に整合したエンタープライズ・アーキテクチャの取組を推進しました。技術に関する意思決定の枠組みを整備し、相互運用性、データの一貫性ならびに長期的な持続可能性の強化を図りました。</p>	

令和 7 (2025) 年度事業計画	指標	令和 7 (2025) 年度業績	自己 評価
<p>2111 研究要件を満たす、柔軟で信頼性が高く安全なネットワーク環境の継続性を確保します。</p> <p>2112 令和 5 年度に策定した IT 戦略に基づき、事務業務の改善・効率化を推進します。継続的な対話とフィードバックを通じて、IT とビジネス計画との整合性を確保します。</p> <p>2113 外部機関による IT レビューを通じてベストプラクティスとの整合性を管理します。</p> <p>2114 他部門と連携して事務プロセスの自動化・標準化・効率化に貢献するとともに、デジタルトランスフォーメーションを推進し、ERP システムの刷新を含めた学園の諸業務を効率的に強化するエンタープライズ・システムとサービスを特定・開発・支援します。</p>		<p>2111 IT ディビジョンは、研究活動の要件を満たす柔軟で信頼性が高く、安全なネットワーク環境の継続的な提供を確保しました。ネットワーク運用は安定しており、教育・研究上のニーズに適切に対応しながら、段階的な改善を進めつつ、途切れることのない接続環境を支えています。</p> <p>2112 IT 戦略に基づき、業務プロセスの標準化及びデジタル化を進めることで、事務業務の効率化を推進しました。これにより、承認・申請・サービス提供に係る統一的な仕組みの利用が拡大し、事務業務の一貫性及び可視性の向上につながりました。</p> <p>2113 外部有識者による体系的なレビューを通じて、ベストプラクティスとの整合性を確認しました。当該年度は、奈良先端科学技術大学院大学及び北陸先端科学技術大学院大学が主導する大学間 IT 研究会に参画、12 月に本学で開催するなどし、インフラ運用、セキュリティ対策、選択技術の動向等に関する他機関との比較・分析を実施しました。また、大学 ICT 推進協議会への継続的な参画を通じて、高等教育における国内外の実務同行を踏まえた継続的な改善を図りました。</p> <p>2114 ERP 更新を推進し、基幹システムのデジタルトランスフォーメーションを進めました。財務、調達、人事分野における業務の自動化を進めるとともに、関連する基盤の活用拡大により、サービス提供の質の向上及びシステム間の連携強化を図りました。</p>	

令和 7 (2025) 年度事業計画	指標	令和 7 (2025) 年度業績	自己 評価
<p>2115 日本及び国際的な IT イニシアティブと協力することにより、研究・事務業務を強化しつつ、運用コストの削減を叶える革新的な取組を検討・導入するとともに、他機関とのパートナーシップを通じて業務改革、働き方改革を促進していきます。</p> <p>2116 情報セキュリティのガバナンスを強化するための体制を強化し、また情報セキュリティ教育、複数要素認証、及びデバイスベースのアクセス制御を通じ、情報セキュリティを継続的に強化します。既存のセキュリティ脅威の監視機能をさらに強化し、学園のネットワーク又はシステムの完全性を低下させる可能性のある悪意のあるソフトウェアやハッキングなどの脅威をリアルタイムに検出することを可能にするとともに、脆弱性の検知・対応や Web サイト改ざん等への対策を徹底します。インシデントレスポンス計画の策定及び定期的なシミュレーション演習の実施によりレジリエンスの確保を目指します。</p> <p>2117 学園の各部署において発生する法的事項について法的助言を行うとともに、各部署が扱う契約について、ドラフト、交渉から締結に至るまで全面的に支援し、学園における適切な運営を確保します。</p>		<p>2115 研究活動及び事務業務に関する課題解決を目的として、国内の情報技術関連の取組との連携を推進しました。奈良先端科学技術大学院大学と定期的な情報技術会合を通じて、基盤システムの運用や情報セキュリティ、クラウド活用に関する取組を進めました。加えて大学 ICT 推進協議会への参加を通じて知見共有を図り、情報技術活用の高度化に資する取組を行いました。</p> <p>2116 複数のセキュリティ対策及びインシデント対応体制の強化を通じて、情報セキュリティ・ガバナンスの強化を図りました。また、外部公開システムに対するリスク低減策の導入準備を進めました。</p> <p>2117 学園の各部署において発生する法的事項や契約について助言をし、適切な運営を確保しました。法律相談数は 117 件 (昨年度比 81.3%)、契約レビュー数は 188 件 (昨年度比 88.7%) でした。</p>	

令和7(2025)年度事業計画	指標	令和7(2025)年度業績	自己評価
		<p>2118 法廷内外の請求から学園を防御し、財政的損失及び社会的評判の失墜を防止しました。</p> <p>2119 学園内外における問題行動を防止するため、諸々な相談・助言をしました。また、新入職員向けのオンライン資料を提供・アップデートしました。</p>	
<p>2.2 予算配分と執行 目標</p>			
<p>2.2 予算配分と執行 取組</p>		<p>(予算配分と執行)</p> <p>2201 当該年度リソース（人件費、運営費、機器購入費等）の配分・再配分は、ストラテジック・リソース・アロケーション委員会が的確かつ効率的な執行を促す配分案を策定した上で、理事長・学長が決定しました。</p> <p>2202 当該年度予算配分・執行の単位となる予算単位を組織構成と整合性のとれた形で設定し、本事業計画の実施に必要な予算を各予算単位に配分しました。加えて、次年度の予算配分については、予算規模について前提を置き、通年より早期に配分に係る議論を開始しました。まずは、最近の財務状況に鑑み、全学での運営費関連経費削減につなげるべく、削減幅とそれに基づく配分</p>	

令和 7 (2025) 年度事業計画	指標	令和 7 (2025) 年度業績	自己 評価
<p>2203 各部署と連携し、予算立案、要求、配分及び執行状況報告の一連のプロセスの見直しを行います。また、施設整備費補助金を含む学園全体の予算の適切かつ一体的な管理を確保するため、予算執行状況確認のための月例内部会議において理事長・学長に報告します。さらに、内閣府に対しても、毎月、予算執行状況を報告します。</p> <p>執行後の取得資産の管理については、内部研修を実施しその適正な管理に努めます。</p> <p>2204 全ての研究関連予算の執行管理を綿密に行い、必要な修正及び調整を行うため、9月に配分の中間見直し、第4四半期の初めの1月に再度配分の見直しを行います。外部資金の獲得額が増加傾向であることを踏まえ、学長の指揮のもと既存の枠組みであるストラテジック・リソース・アロケーション委員会（SRAC）の運用を強化し、重要事項の共有を徹底するなど、外部資金を含む学園全体の予算要求案の策定と配分計画・執行管理を適正に行います。</p>		<p>案を提示しました。上級幹部会議と執行チーム間の協議、場合によっては、部門間で追加の議論が行われ、一部は財務担当副学長も関与しての議論も実施し、インフレ等の経費上昇傾向の中、事務サポート部門の経費上昇を抑え研究関連部署の予算を前年度比同水準の予算を確保しました。</p> <p>2203 各部署に配置された予算分析担当者と連携し、当該年度予算配分・執行状況報告のプロセスを強化しました。また、施設整備費補助金を含む学園全体の予算の適切かつ一体的な管理を確保するため、予算執行状況確認のための不定期、個別の会議等において理事長・学長に報告しました。さらに、内閣府に対しても、毎月、予算執行状況を報告しました。</p> <p>2204 9月に配分の中間見直しを、そして第4四半期の初めにあたる1月にも別途見直しを実施しました。また、次年度予算配分案をストラテジック・リソース・アロケーション委員会（SRAC）にて共有する等、学園全体の予算要求案策定と配分計画・執行管理の適正実施に努めました。</p>	

令和 7 (2025) 年度事業計画	指標	令和 7 (2025) 年度業績	自己評価	
	<p>2205 一定額を超える個々の支出について、コンプライアンス担当が審査すること等を含め、法令や内部規則等を順守して予算執行の手続を行います。</p> <p>2206 適切な契約・調達及び会計事務を行うため、内部監査を実施するとともに、国の機関等が行う研修への継続的な参加等を通じて、担当職員の育成に努めます。</p> <p>2207 大型研究設備・機器の購入時は、内部規則に基づき、必要に応じ、外部の有識者を含めた委員会を設置し、同委員会により仕様書の審査を行う等、公正かつ透明な調達の実施に万全を期します。</p> <p>2208 令和 6 年 8 月 21 日付内閣府からの事前通知「沖縄科学技術大学院大学学園補助金及び沖縄科学技術大学院大学学園施設整備費補助金の交付決定に付する条件について」等を踏まえ、保険金を受領した場合の会計処理が遺漏なく適切に行われるよう徹底します。</p>		<p>2205 一定額を超える随意契約については、調達担当部門のセクション・リーダー（500 万円未満）及び調達審査委員会（500 万円以上）が、関連法令及び内部規則等に則って審査し、適正に予算を執行しました。</p> <p>2206 最高内部監査責任者の下、内部監査計画に基づき、適切な契約・調達及び会計事務を行うため、内部監査を実施しました。国の機関等が行う研修へ定期的に内部監査スタッフを派遣し、担当職員の育成を継続しました。</p> <p>2207 大型研究設備・機器の購入に当たっては、内部規則に基づき、その都度、外部の有識者を含めた委員会を設置し、同委員会により仕様書の審査を行う等、公正かつ透明な調達の実施に万全を期しました。 委員会の開催件数： 8 件</p> <p>2208 令和 6 年 8 月 21 日付内閣府からの事前通知等を踏まえ、保険金を受領した場合の会計処理が遺漏なく適切に行われるよう徹底しました。</p>	
<p>2.3 事務事業の効率化 目標 (1)</p>	<p>業務運営における効率化を図るよう取り組みます。</p>			

令和 7 (2025) 年度事業計画	指標	令和 7 (2025) 年度業績	自己評価	
<p>2.3 事務事業の効率化 取組 (1)</p>	<p>(事務事業の効率化)</p> <p>2301 学長、上級幹部、最高改革責任者 (Chief Transformation Officer) の統括の下、①戦略実行、②外部・内部コミュニケーション、③事務業務の合理化・効率化等の改善を進めます。</p> <p>2302 研究資材や試薬等の単価契約や一括購入、複数年契約等の取組を継続することにより、研究事業を効率的に支援します。</p> <p>2303 システム・機器の保守費は、契約内容の見直し等により、コストの抑制を図ります。</p> <p>2304 契約は、十分な透明性や競争性の確保を原則とし、随意契約によらざるを得ない場合には、その理由を含め公表する等、契約に関する情報公開を徹底します。随意契約手続についても、継続的に監視します。同時に、調達に関する規則等について、効率化や手続の簡素化の観点から継続的に見直しを行い、また大学院大学の規模拡充に対応すべく、調達に関する事務分掌や業務手順等の整理を継続します。</p>	<p>・ 単価契約の件数 : 45 件以上 (令和 5 年度の確定値)</p> <p>・ 競争入札や他の競争的な手法による契約件数の比率 : 62% 以上</p> <p>・ 研究関連契約を除く入札における落札率</p> <p>・ 一者応札の率</p>	<p>(事務事業の効率化)</p> <p>2301 学長、上級幹部の統括の下、①戦略実行、②外部・内部コミュニケーション、③事務業務の合理化、効率化等の改善を進めました。</p> <p>2302 研究資材や試薬等の単価契約や一括購入、複数年契約等の取組を継続することにより、研究事業を効率的に支援しました。さらに、部署発注 (150 万円未満の発注で調達セクションを通さず発注できるもの) の状況を精査し、例年約 9,000 件程度ある部署発注のなかから、同一業者に年間数十件以上の発注を繰り返していた十数件の事例のなかから研究用資材の発注など 8 件の単価契約への適性があるものを単価契約に移行しました。</p> <p>2303 システム・機器の保守費については、契約内容の見直し、複数年契約の適用等により、コストの抑制を図りました。</p> <p>2304 契約は、十分な透明性や競争性の確保を原則とし、随意契約によらざるを得ない場合には、その理由を含め公表する等、契約に関する情報公開を徹底しました。随意契約手続については、随意契約基準額の引き下げの効果測定を含め、継続的にモニタリングしました。調達に関する規則等について、効率化や手続の簡素化の観点から見直しを行い、また大学院大学の規模拡充に対応すべく、調達に関する事務分掌や業務手順等の整理を行いました。</p>	

令和 7 (2025) 年度事業計画	指標	令和 7 (2025) 年度業績	自己 評価
<p>2305 これまでの内外価格差等の調査結果を踏まえ、内外価格差の是正や経費削減の促進に取り組みます。</p> <p>2306 調達コストの抑制を図るため、これまでに取りまとめた研究資材や機器等の国内外の価格比較データを踏まえ、効果的な価格交渉方法について学園内へ情報提供します。また、一者応札を減少させるべく、前年度に実施した入札に当たり辞退又は参加しなかった企業に対するアンケートの結果を踏まえて、意見聴取を実施し、改善すべき点をその後の案件に反映するなど、競争性のある公正な入札手続の実施に努めます。</p> <p>2307 施設整備について、国立大学法人の類似施設の水準、建設市場の動向を調査して適切な建設単価と発注方式を設定します。</p> <p>2308 旅費に関する規則等について、更なる手続きの効率化・簡素化を図るため、引き続き見直しを行います。</p>		<p>競争入札や他の競争的な手法による契約の比率（件数） 件数：147（61%）〔令和 6 年度 116（56.6%）〕 研究関連契約を除く入札における落札率：94%</p> <p>2305 これまでに蓄積した調査結果等を活用し、調達職員のスキルアップ、交渉能力の向上を目的とする研修会を実施しました。</p> <p>2306 調達コストの抑制を図るため、これまでに取りまとめた研究資材や機器等の国内外の価格比較データを踏まえ、効果的な価格交渉方法について学園内へ情報提供しました。また、一者応札を減少させるべく、前年度に実施した入札に当たり辞退又は参加しなかった企業に対してアンケートの結果を踏まえて意見聴取を実施し、改善すべき点をその後の案件に反映するなど、競争性のある公正な入札手続の実施に努めました。 一者応札の率：66%</p> <p>2307 建設単価の設定について、国土交通省が公表する建設工事デフレーターや設計事務所作成の建設市況動向などを参照し、効率的な発注ができるよう建設市場の動向調査などを行いました。</p> <p>2308 手続きの効率化の観点から、旅費に関する規則を見直しし、宿泊費と特急列車の利用に関する規定を変更しました。</p>	

令和 7 (2025) 年度事業計画	指標	令和 7 (2025) 年度業績	自己 評価	
	<p>2309 昨年度まで行ってきた固定費削減に向けた取組を踏まえ、さらなる経費削減の取組や予算執行の効率化について検討を行います。</p> <p>2310 現行の ERP システムが 2027 年末にサポート期限を迎えることから、新たな ERP システム導入の準備を関連部署と協力して進めます。</p> <p>2311 国際化の推進に取り組む国立大学等の職員に対して事務国際化研修を実施し、当該大学等の事務国際化に貢献するとともに、同職員を通じて国立大学等の運営管理に関する知見を吸収し、学園の事務の効率化を図ります。</p>		<p>2309 昨今の円安・インフレ・光熱水費の高騰に対応すべく、固定費削減に向けた取組を引き続き実行した結果、施設・設備保全業務（大学全体の施設の運転・警備や清掃等の業務）において約 200 万円の削減効果が得られました。</p> <p>2310 ERP システムの刷新に向けた準備の一環として、プロジェクトが開始され、設計フェーズに重点を置いて進められました。</p> <p>2311 東京大学、奈良先端科学技術大をはじめとする計 8 名の派遣職員を受け入れました。当該派遣職員へ国際的な環境下での英語コミュニケーション能力向上へ貢献し、また、派遣先部署では国立大学の運営に関する知見を吸収し、学園の事務の効率化を図りました。</p>	
<p>2.3 事務事業の効率化 目標 (2)</p>	<p>施設・設備を最大限有効に活用します。</p>			
<p>2.3 事務事業の効率化 取組 (2)</p>	<p>(施設の有効活用)</p> <p>2312 既存建物内のスペースに関する調査、施設管理ディビジョン、プロボストオフィス及びスペース配分・再配分を所管するスペースアロケーション委員会との連携や研究ユニットへのヒアリングを通じたニーズの把握に基づき、アカデミック、事務、研究設備スペース利用の最適化を推進します。</p>		<p>(施設の有効活用)</p> <p>2312 スペースアロケーション委員会は当該年度より名称をスペースマネジメント委員会 (SMC) に改め、スペースの割当てにとどまらず、施設全体の管理を目的とすることを明確化しました。当該年度はシーサイドハウスの改修に先立ち、事務スペースの見直しを行いました。</p>	

令和 7 (2025) 年度事業計画	指標	令和 7 (2025) 年度業績	自己評価
		<p>2313 公募型プロポーザルにより選定された事業者と学内ニーズを踏まえた検討を行い、スペースの最適利用の実現に取り組みました。加えて、老朽化対策、社会的劣化についてしました。</p> <p>また、シーサイドハウスの改修に先立ち、同施設で実施していた学童保育をメインキャンパス内に移転しました。それに伴い本学設立以降拡大してきた事務スペース全体のレイアウトを見直し、再編しました。</p>	
<p>2.4 人事管理 目標</p>			
<p>2.4 人事管理 取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職位毎の職員数（職種、国籍別、性別） ・全職員に対する事務部署の職員の比率 ・運営費に占める人件費の割合 ・職群・職位ごとの給与額（平均値・中央値・最頻値） 	<p>（職員の採用）</p> <p>2401 人員採用について、学長をはじめとする大学幹部との協議を踏まえ、採用枠の設定を行いました。また、採用チームの体制強化を図り、長期にわたり募集していた副学長クラスのポジションをすべて埋める充足しました。</p> <p>加えて、人件費管理プロセスの見直しを継続して行いました。</p> <p>2402 採用活動の強化を目的として、採用チーム全員がLinkedIn アカウントを保有し、同プラットフォーム上での求人掲載を定常的な業務フローとして確立しました。また、転職活動を積極的に行っていない潜在的候補者に</p>	

す。また、優秀な県内出身者の雇用に努めます。

- ・研修の受講職員数
- ・事務職員の年間学習時間（40 時間）
- ・管理職研修の実施数

対するアプローチを実施し、候補者層を拡充と選考対象となる人材の確保につなげました。
さらに、オンボーディングプロセス全体を見直し新規採用者の定着及び満足度向上を図りました。

	事務職 他	教員	技術員	研究員	合計	割合
沖縄 県出 身者	186	0	29	4	219	20%
県外	331	82	121	339	873	80%
合計	517	82	150	343	1092	100%

添付資料 2.4-1 令和 7 年度 職位毎・国籍別職員数

2403 職務記述の標準化、求められるコンピテンシー、スキル、経験等を整理・可視化することにより、公正・公平かつ個々人の能力が最大化され組織の利益になるような外部採用・内部異動昇進の仕組みを導入します。

2403 職務記述書のテンプレートを新たに整備するとともに、すべての事務職員の職務記述書を見直す取組に着手しました。

2404 全教職員と学生に公平で歓迎される職場環境を構築し、維持するための措置を講じます。

2404 公平で包摂的な職場環境の実現に向け、4つの重点領域において取組みを推進しました。

- 全ての教職員に「無意識の偏見」研修や、その他の多様性に関する適切なプログラムを提供します。
- 学園で働く妊婦・親・家族のために学内の関連部署（大学コミュニティーサービス・保健センター・施設管理ディビジョン等）が連携して、包摂的な設備・政策・実践体制を計画、設計、整備します。
- 性別・国籍・職位にかかわらず全ての職員がネット

- アクセシビリティ・障害者支援：
一元的な窓口を開設。制度的な課題の把握・改善を目的とし、障害のあるコミュニティーメンバーへのインタビューを実施。
- 仕事と家庭の両立支援：
子育て期にある職員（特にひとり親世帯）の利便性向上を目的に、出張支援プログラムをデジタル化。

令和 7 (2025) 年度事業計画	指標	令和 7 (2025) 年度業績	自己評価
<p>ワークを構築でき、多様性・公平性・包摂性について学修できる機会を設けます。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 学園と沖縄のコミュニティのプレゼンテーション、学修、相互交流、ネットワーキングの機会を通じて、多様性、公平性、包摂性を促進します。 <p>2405 学園教職員がホットラインやその他のコミュニケーションチャネルを利用・通報できる手法、相談窓口を周知徹底します。</p> <p>2406 管理職や相談窓口となる職員に対しハラスメント防止や対応の研修を促進します。</p> <p>2407 障がい者雇用及びその支援において、学内のステークホルダー及び外部の専門支援団体と協議して、諸設備や日常の指示・連絡方法など職場における合理的配慮</p>		<p>その他、新規採用者とその家族を対象としてオリエンテーションを2回開催。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 研修・能力開発： 採用プロセスにおける無意識バイアス、心理的安全性、LGBTQIに関するワークショップを実施。CDC、研究科職員を対象に、コミュニケーション及び対立解消（コンフリクト・マネジメント）研修を提供。 - 文化醸成・コミュニティとの連携： 学生、教職員とともに本学のコアバリュー策定に関する取組みを開始。支援サービスの早期周知のため、学生・インターン向けオリエンテーションにおける DEI プログラム参加を拡充。 <p>2405 PRP39 章「紛争の解決及びハラスメント防止」の改訂にあたり、学生及び教職員からフィードバックを収集するとともに、策定段階から規定の存在や通報手段の周知を図りました。新规定及び人事ウェブサイトにおける相談窓口の案内を学内ポータル (TIDA) を通じて行いました。</p> <p>2406 管理職研修において、部下とのコミュニケーションを通じたハラスメントの予防・対応に関する実務研修を実施しました。また、相談窓口を担当する職員は法務専門家と協働し、実務を通じた研修を実施しました。</p> <p>2407 当該年度は、新たに障害者雇用を行いました。また、支援を必要とする職員が安心して申し出ることができる環境の整備と適切な支援ニーズの把握を目的とし</p>	

令和7(2025)年度事業計画	指標	令和7(2025)年度業績	自己評価
<p>を検証・改善します。OIST 保健センターと協力し、障がい者向け支援のリクエストを一元管理する仕組みを整えます。</p> <p>2408 保健センターは、産業保健業務、健康診断やその結果に基づき指導、学生相談、ニーズにあった医療機関の紹介により、学内の職員及び学生への健康支援を引き続き提供し、コミュニティ全体が健康な状態で活動できるよう支援します。</p> <p>2409 クリニックは、日本の医療保険診療を実施し、学内と地域コミュニティ向けに診療や処方など医療サービスを提供します。</p>		<p>て、学園全体を対象とした調査の見直しを進めました。</p> <p>2408 産業保健及び臨床支援を通じて、学内コミュニティに対する包括的な健康支援を実施し、学生、教職員及びその家族が安心して教育・研究活動に従事できる環境を維持しました。健康診断の結果を受け、有所見者に対して医師による適切な指示・介入を実施したほか、OIST コミュニティからの健康相談、個々の症例及び言語・文化的背景に配慮した医療的対応、必要に応じて学内診療所や外部医療機関への紹介及び受診支援を行い、円滑な医療アクセスを確保した。</p> <p>2409 日本の医療保険制度に基づく診療を実施し、学内および地域コミュニティに対して診療および処方を含む医療サービスを提供しました。年間外来患者数は、延べ1,458名(レセプト件数ベース)、外部医療機関への紹介は約200件あり、地域医療との連携も図りました。また、時間外診療への柔軟な対応や処方薬デリバリー、精神科専門外来の開始、また院内処方の充実により、医療アクセスの向上を図り、多様な医療ニーズに対応しました。さらに、医師会への入会、難病指定医療機関の指定により、地域医療体制ならびに専門的医療体制の強化を図りました。</p>	
<p>(処遇・給与水準)</p> <p>2410 「独立行政法人及び特殊法人等における役職員の</p>		<p>(処遇・給与水準)</p> <p>2410 現任者の給与分析、採用・退職分析、異動・昇進・</p>	

令和 7 (2025) 年度事業計画	指標	令和 7 (2025) 年度業績	自己 評価
<p>給与について（令和 5 年 10 月 20 日総務省行政管理局長）」を考慮しつつ、昨今の円安環境等を踏まえた昇給及び、優秀な人材の流出阻止や確保のための業績連動給の更なる取組を実施します。</p> <p>（人材育成・管理体制の強化）</p> <p>2411 以下に列挙した制度の運用を強化し、本学の戦略に基づいて生産性の向上と次世代人材育成を推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 採用・人事異動制度 - 職務等級・給与制度 - 目標管理・人事考課制度 <p>2412 管理監督者向け研修体系を再構築するとともに、オンライン研修を含む個人別年間学習時間目標（40 時間）を設定して自己研鑽を活性化する。</p>		<p>配置転換の指導を通じ、適正な給与水準の維持に努めました。</p> <p>添付資料 2.4-2 令和 7 年度 職員の給与水準</p> <p>（人材育成・管理体制の強化）</p> <p>2411 次世代人材育成のため、引き続きサクセッションプランを管理しました。また、目標管理・人事考課の対面研修を管理職向けに実施しました。</p> <p>採用プロセスの一貫性向上および候補者体験の改善を目的として、統一した採用管理システム（ATS）を導入・運用しました。これにより、電子署名の活用等を含む採用手続の効率化を推進しました。</p> <p>外部コンサルティング会社と連携し、新たな職務等級制度および給与制度の導入に向けた制度設計案の検討を行いました。</p> <p>職員の実際のパフォーマンスをより適切に反映することを目的として、人事評価制度（評価グレード）の一部を見直し、組織全体の成果分布をより適切に把握できるよう改善しました。これにより、目標達成状況の可視性向上を図りました。</p> <p>2412 管理監督者向け研修体系を再構築に継続して取り組み、人材育成の各段階（タレントライフサイクル）に沿って、採用面接から目標設定・人事評価およびそのフィードバック方法に至る研修内容を見直し、強化しました。オンライン研修や他機関が行う自己研鑽研修を TIDA にて告知しました。</p>	

令和 7 (2025) 年度事業計画	指標	令和 7 (2025) 年度業績	自己評価
		添付資料 2.4-3 令和 7 年度 研修の受講職員数	
2.5 コンプライア ンスの確保 目標	大学経営の全ての面において、コンプライアンスが確保される体制を構築します。		
2.5 コンプライア ンスの確保 取組	<p>(コンプライアンスの確保)</p> <p>2501 予算執行状況、一定額以上の調達に係る契約、学園内規則類の制定・改正等について、コンプライアンスの観点から審査します。</p> <p>2502 学園内規則類を、関連法令の改正や諸状況の変化に応じ、統括弁護士オフィスと協力して適時適切に制定・改正するとともに、PRP 審査委員会を開催し、規則類全体の整合性を維持します。</p> <p>2503 業務運営上の意思決定及びその過程について、公文書等の管理に関する法律（平成 21 年法律第 66 号）及び同法に基づき整備した学園内規則に則り、適切に文書</p>	<p>(コンプライアンスの確保)</p> <p>2501 予算執行状況、500 万円以上の調達に係る契約、学園内規則類の制定・改正等について、コンプライアンスの観点から適正に審査しました。</p> <p>2502 関連法令の改正への対応や、現行 PRP と事業運営・運用実態との乖離の解消など、状況の変化に合わせて、必要に応じて統括弁護士オフィスに確認を取りつつ、学園内規則類の制定・改正を適時適切に実施しました。また、「各章をよりポリシー主体の構成とする」方針に基づき、当該年度は第 39 章「紛争の解決及びハラスメント防止」を改正しました。</p> <p>全学的なポリシー・規程類の体系的見直しと再構築を目的とする「PRP 総点検プロジェクト」の一環として、「Policy on Policies（ポリシー策定の手引き）」を制定し、新たなポリシー体系を確立しました。</p> <p>2503 業務運営上の意思決定及びその過程について、公文書等の管理に関する法律及び同法に基づき整備した学園内規則に則り、法人文書の作成、整理、保存及び廃棄</p>	

令和 7 (2025) 年度事業計画	指標	令和 7 (2025) 年度業績	自己評価
<p>管理するとともに、その管理・保護等を徹底します。</p> <p>2504 個人情報の保護に関する法律（平成 15 年法律第 57 号）や行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律（平成 25 年法律第 27 号）及びその関連法令、ならびにそれらに基づき整備した学園内規則にのっとり、個人情報の取扱いについて適切に対応します。また、保有個人情報を管理する台帳等の整備など、学園内規則を教職員に遵守させることにより、個人情報に対する意識の向上を図ります。</p> <p>2505 監事監査や内部監査による、規程類の実施状況を含むコンプライアンスの状況を厳格にチェックし、その結果に基づき見直します。</p> <p>2506 学園の全ての役員及び教職員が、利益の相反を生</p>		<p>について、研修教材の改良を図るなどしつつ、適切に管理しました。また、私学法改正に伴う登記について、遅滞なく適切に実施しました。</p> <p>2504 個人情報保護に関しては、個人情報の保護に関する法律および番号法ならびにそれらに基づく学園内規則に則り、個人情報の取扱いに関する問い合わせ対応や利用目的の適切性確認などについて、各部署に対して助言を行いました。</p> <p>また、各部署に対して個人情報の自己点検を実施するとともに、個人情報ファイル登録（PIPL）の更新を行い、保有個人情報の管理状況の確認を行いました。</p> <p>これらの取組を通じて、個人情報の適切な取扱いに関する職員の理解および意識の向上を図りました。</p> <p>2505 適切な契約・調達及び会計事務を行うため、最高内部監査責任者の下で内部監査計画に基づき内部監査を実施しました。随意契約については、150 万円以上 300 万円未満の購入案件は調達担当部署のセクション・リーダーが、500 万円以上の案件は、さらに調達審査委員会がその適切性を審査しました。</p> <p>コンプライアンスに関する理解促進のため、公費の適正使用に関する e ラーニング研修を提供しました。本研修は全職員を対象に毎年度受講を義務付けており、公的研究費の適正な執行および法令遵守に関する理解の促進を図りました。</p> <p>2506 PRP22 章に基づき、本学の役員及び教職員に対し</p>	

令和 7 (2025) 年度事業計画	指標	令和 7 (2025) 年度業績	自己 評価
<p>じさせる可能性のある状況の評価を容易にするため「利益及び責務相反の防止」ポリシーの規定に基づき、学園のすべての役員及び教職員から学園外での活動と責務について、毎年度、書面で開示を求めます。</p> <p>2507 各専門委員会において研究や実験計画を審査し、学園の研究活動を関連法令や規制に準拠して実施することを確保します。</p> <p>2508 研究インテグリティの確保のための確実なリスクマネジメントに関する取組を進めます。</p> <p>2509 公的研究費不正使用防止計画のウェブサイト上での公表など、継続的に科研費等の競争的資金等の適切な管理を研究者に徹底します。</p> <p>2510 研究費の不正使用防止のため、着任決定時から、教員、研究者に対し、研究費使用ルールの周知徹底・意識向上に関する取組等の対策を講じます。新規教員には、着任前の面談を通して研究費使用ルートを説明するほか、着任直後にも個別に詳細なオリエンテーションを実施します。</p> <p>2511 全ての研究員が受講必須とされている「責任ある</p>		<p>て学外活動および責務に関する年次開示および必要に応じた随時開示を求めました。</p> <p>提出された開示内容について確認・整理を行い、利益相反による懸念やリスクの有無を確認するとともに、必要に応じて当該活動に従事する際の留意事項を通知しました。</p> <p>また、兼業に該当する場合には兼業申請の提出を求めるなど、学園の規則に基づき適切な管理を行いました。</p> <p>2507 各専門委員会において研究や実験計画を審査し、学園の研究活動を関連法令や規制に準拠して実施しました。</p> <p>2508 研究インテグリティの確保のための確実なリスクマネジメントに関する取組を進めました。</p> <p>2509 公的研究費不正使用防止計画のウェブサイト上での公表など、継続的に科研費等の競争的資金等の適切な管理を研究者に徹底しました。</p> <p>2510 研究費の不正使用防止のため、新規教員及び研究者に対し、着任直後に個別に詳細なオリエンテーションを実施する等、研究費使用ルールの周知徹底・意識向上に関する取組を行いました。</p> <p>2511 教職員及び学生、短期滞在者を含むすべての構成</p>	

令和 7 (2025) 年度事業計画	指標	令和 7 (2025) 年度業績	自己評価
<p>研究行為」のオンライントレーニングを提供し、教員、学生及び研究員に研究不正の再発防止の改善を向上するために、学内でセミナーや教育を継続的に開催します。</p> <p>2512 不正の通報窓口を全職員に周知し、研究データの適切な記録と管理を徹底します。</p> <p>2513 野外活動安全委員会による野外活動計画の厳格な審査を継続し、安全衛生委員会による職場巡視などで研究室の安全衛生を確保し、構築された安全管理システムで安全の向上を図ります。</p>		<p>員が受講可能なオンライントレーニング「責任ある研究行為」を提供しました。また大学院生には必修科目の一部として対面での授業を提供しました。</p> <p>2512 不正の通報窓口や手続きについて、オンライン研修で周知しました。研究データマネジメントポリシーを策定・公開しました。</p> <p>2513 野外活動安全委員会による野外活動計画の厳格な審査を継続し、安全衛生委員会による職場巡視などで研究室の安全衛生を確保し、構築された安全管理システムで安全の向上を図ります。</p>	
<p>2.6 情報公開及び 広報活動 目標</p> <p>学園が急速な成長を遂げる中、教育研究や業務運営に関する透明性の確保、及び国民に対する説明責任の履行に向けた取組が非常に重要です。国内外から幅広い支援を得るとともに、国際的な認知度を高め、学園の知名度をよりあげるために、多様なステークホルダーとの間で積極的にコミュニケーションを図ります。</p>			
<p>2.6 情報公開及び 広報活動 取組</p> <p>(情報公開及び広報活動)</p> <p>2601 学校教育法(昭和22年法律第26号)や独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律(平成13年法律第140号)等により公開が義務付けられる情報は、ウェブサイト等に適切に公開します。</p> <p>2602 ニュース記事やマルチメディアの情報伝達のさらなる充実に努め、ウェブサイト全般を継続的に改善し、デザインやレイアウト及びユーザーエクスペリエン</p>		<p>(情報公開及び広報活動)</p> <p>2601 学校教育法や独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律等によって公開が義務付けられる情報について、ウェブサイトにおいて、適時適切に公開し、各ユーザーのアクセス向上を図りました。</p> <p>2602 ウェブサイトにおいては、ユーザビリティ向上とコンテンツの集約に向けた改善を継続的に実施しました。研究ユニットのウェブサイト機能の拡張や、J-</p>	

令和 7 (2025) 年度事業計画	指標	令和 7 (2025) 年度業績	自己 評価
<p>スが最高水準となるようにします。学園に関して継続的に肯定的な報道がされるよう、県内外の記者が参加できるような説明会や会見等の機会を積極的に持つよう努めます。</p> <p>2603 ソーシャルメディアやデジタルチャンネルなどの写真や動画を共有するサイト及びその他のマルチメディアの内容を引き続き強化します。</p>		<p>PEAKS・COI-NEXT 等の取組に対応したデザインモジュールの整備を行うとともに、学内の各種コンテンツを本体サイトへ集約し、利便性の向上と運用コストの削減を図りました。</p> <p>また、記者会見やブリーフィング、インタビュー対応等を通じて、県内外のメディアに対する取材機会の提供を行い、本学の取組に関する幅広い報道につなげました。</p> <p>2603 学内のさまざまな部署が主催する一般向けイベントを一元的に発信するチャンネルとして、イベント広報専用の Instagram アカウントを開設しました。</p> <p>SNS・デジタルメディアの運用実績：</p> <p>全ソーシャルメディアチャンネルにおいて合計 1,165 件の投稿を行いました。1 投稿あたりの平均エンゲージメント率は 6.05%となりました。(昨年より 2.2%減少)</p> <p>フォロワー数の増加率 (2025 年度 / 前年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> - Instagram : 24%増 (前年度 33%増) - LINE (日本語) : 31.2%増 (前年度 60%増) - Facebook (英語) : 6.6%増 (前年度 4%増) - Facebook (日本語) : 47.3%増 (前年度 25%増) - X (旧 Twitter・英語) : 15%増 (前年度 15%増) - X (旧 Twitter・日本語) : 5.8%増 (前年度 17%増) - LinkedIn : 35.4%増 (前年度 24%増) <p>その他のプラットフォーム実績</p> <ul style="list-style-type: none"> - YouTube : 83 本の動画を公開 (前年度 149 本) - Flickr : 約 121 のアルバム、約 10,107 枚の写真を公開 (前年度は 228 アルバム、約 12,900 枚) 	

令和 7 (2025) 年度事業計画	指標	令和 7 (2025) 年度業績	自己評価
<p>2604 学園への理解をさらに深めてもらえるよう、地元沖縄をはじめ国内外の幅広い層に向けて魅力を発信する広報活動を引き続き推進します。それぞれの対象者に合わせたキーメッセージを軸に、ブランディングの強化に取り組むとともに、パンフレットや展示物などの制作物の見直しを行い、内容の充実を図ります。また、広報活動及び外部資金獲得方策の一環として大学グッズの常設販売を行い、学園の認知向上や交流の促進を図り、広範な層への発信力を強化していきます。</p> <p>2605 学園内規則集をウェブサイトに掲載し、その維持と改善を図ります。</p> <p>2606 有事の場合、広報ディビジョンは統括弁護士オフィス、事務局長及び他役員に相談し、学園の評判や風評リスクに配慮した、適時適切な情報を発信します。</p>		<p>ニュースレター</p> <p>E メールニュースレター登録者は合計で 9,197 名となり、年間で 16.1%の増加（月平均約 100 名の増加）となりました。</p> <p>（主なニュースレターの実績）</p> <ul style="list-style-type: none"> - 「OIST Latest」英語版（登録者数 3,633 名）：2025 年度は 21.5%増加（前年度 8%減） - 「OIST Latest」日本語版（登録者数 4,220 名）：2024 年度は 12.5%増（前年度は 23%増） <p>2604 科学・文化イベントなどを積極的に実施し、広く本学の活動を紹介しました。</p> <p>研究内容をわかりやすく魅力的に伝えるために、昨年度に引き続き教員ポスターのデザインを見直しました。</p> <p>2605 学内規則集をウェブサイトに適時アップデートしました。</p> <p>2606 大学の信頼性の維持と緊急時における迅速な対応のため、国内外のメディアとの良好な関係構築に努めるとともに、報道動向の継続的な把握と体制の強化に取り組みました。緊急時には、ウェブサイトでの情報発信</p>	

令和 7 (2025) 年度事業計画	指標	令和 7 (2025) 年度業績	自己評価
	2607 ソフトウェアの脆弱性を利用したゼロデイ攻撃からウェブサイトを守るため、OIST のウェブサイトは、セキュリティアップデートが迅速に適用されるサポートのもと運営します。	に加え、プレスリリースの発出や記者会見の実施を通じて、透明性の確保と説明責任を果たせるよう体制を整備しました。 2607 ウェブサイトについて恒常的なモニタリングと、サイバー攻撃を受けた際に迅速に対応できる体制を整えました。	
第 3 章 財務に関する事項 ー外部資金			
3 財務に関する事項 目標:	外部資金中期戦略を踏まえ、将来の自立的経営に向けて、競争的研究資金、寄付金等の外部資金獲得額の増加を図り、財政基盤の強化に戦略的に取り組みます。		B
3 財務に関する事項 取組:	(競争的資金) 3101 競争的資金を戦略的・組織的に獲得するための体制強化を図ります。 3102 ウェブサイトや個別の訪問を通じて、外部資金情報、応募に係る支援、国内他機関とのネットワークの重要性等を学園の研究者に伝える機会を増やすとともに、外国人研究者や若手研究者への支援を強化します。 3103 国内及び国際的なネットワークを活用した組織間連携を基盤とする大型の研究プログラムへの共同応募に対し、研究担当ディーンのリダーシップの下、戦略的に取り組みます。	・競争的資金の採択状況 (件数及び獲得額) ・外部資金の伸び (総額) : 政府系受託研究と助成金、産業界からの受託研究及び共同研究、寄付金、受講料及びその他の収入の合計が 4,440 百万円 (補助金予算の経常経費の 23.8%) を目標とします ・施設整備に関する外	(競争的資金) 3101 海外グラントの獲得増に向けて、「国際外部研究資金セクション」を新たに設置しました。 3102 ウェブサイトと電子メールを通じて外部資金に係る情報提供をしました。また、個別に研究者に外部資金情報を説明することで、応募意欲を高め、さらに応募書類作成セミナーの開催などにより、支援強化を図りました。 3103 大型研究プログラムへの応募に向けて、パートナー大学と研究交流のためのワークショップを企画し、相手方を訪問しました。

令和 7 (2025) 年度事業計画	指標	令和 7 (2025) 年度業績	自己 評価
<p>3104 国内・国外のグラント情報を収集し、定期的に学園の研究者コミュニティに配信します。新規公募に係る情報収集のため、主要な資金提供機関とのコミュニケーションを図ります。</p> <p>3105 大型グラント申請を戦略的に進めるため、研究担当ディーンを中心とするサポートチームが中心となって情報収集や分析等を行い、グラント毎に最適と考えられるテーマ設定や PI 構成等を提案するなど、プロジェクト企画促進に向けた組織的取組を推進します。</p> <p>3106 研究者が企業と協力し、公共及び民間セクターのイノベーション助成金へ応募、契約することを奨励します。</p>	<p>部 資 金 申 請 件 数 (PPP/PFI 事業の活用を含む) : 1 件以上</p>	<p>3104 TIDA と電子メールを利用して、助成金情報を本学研究コミュニティに配信しました。オンライン開催の公募説明会や委員会に参加することに加え、資金提供機関への個別のコンタクトを図ることにより情報収集に努めました。</p> <p>3105 組織として応募する外部資金情報を収集しました。また、大型助成金を戦略的に獲得するための学内体制強化を継続しました。</p> <p>3106 当該年度は、研究者と企業の連携を促進するとともに、公共・民間セクターからの外部資金の獲得を通じて、研究成果の社会実装に向けた取組みを推進しました。これらの取組みにより、早期ステージの研究成果の事業化に向けた支援体制の強化を図るとともに、産学官連携のさらなる深化を推進しました。</p> <p>産学連携関連助成金獲得実績：</p> <ul style="list-style-type: none"> - 新たに 9 件の民間財団助成金を獲得 - 沖縄県から助成金獲得 <ul style="list-style-type: none"> ・ 9 年目（令和 8 年度）となる「OIST Innovation Accelerator」を支援する助成金 ・ その他 3 件の助成金 - 「九州沖縄大学発スタートアップエコシステム (PARKS)」を通じた追加資金 <p>その他、外部資金を活用した事業運営にも取り組み、企業研究者が量子コンピューターを活用できるスキルを</p>	

令和 7 (2025) 年度事業計画	指標	令和 7 (2025) 年度業績	自己評価
<p>3107 学園内におけるインセンティブ制度を通して外部資金の獲得を奨励することにより、外部資金の堅実な増加を図ります。</p>		<p>育成することを目的とした新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）事業の助成金を獲得・管理しました。</p> <p>3107 教員、サイエンス・テクノロジー・グループに所属する研究員に対するインセンティブとして、採択額に応じて一時金を受け取ることができるスキームの構築に向け検討を行いました。</p> <p>添付資料 3.1-1 外部資金・寄付金獲得状況</p>	
<p>(共同研究等)</p> <p>3108 産学連携を促進するための体制強化を図ります。企業との共同研究、スタートアップインキュベーション、起業家精神を促進するための取り組みを強化・支援します。</p>		<p>(共同研究等)</p> <p>3108 (3106再掲)</p> <p>当該年度は、研究者と企業の連携を促進するとともに、公共・民間セクターからの外部資金の獲得を通じて、研究成果の社会実装に向けた取組みを推進しました。これらの取組みにより、早期ステージの研究成果の事業化に向けた支援体制の強化を図るとともに、産学官連携のさらなる深化を推進しました。</p> <p>産学連携関連助成金獲得実績：</p> <ul style="list-style-type: none"> - 新たに 9 件の民間財団助成金を獲得 - 沖縄県から助成金獲得 <ul style="list-style-type: none"> ・ 9 年目（令和 8 年度）となる「OIST Innovation Accelerator」を支援する助成金 ・ その他 3 件の助成金 - 「九州沖縄大学発スタートアップエコシステム（PARKS）」を通じた追加資金 <p>その他、外部資金を活用した事業運営にも取り組み、企業研究者が量子コンピューターを活用できるスキルを</p>	

令和 7 (2025) 年度事業計画	指標	令和 7 (2025) 年度業績	自己評価
			<p>育成することを目的とした新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO) 事業の助成金を獲得・管理しました。</p> <p>包括契約 (フレームワーク契約) を活用し、産学連携における契約交渉の効率化を図ることで、7社のパートナー企業との共同研究及び関連活動の迅速な立ち上げを推進しました。</p> <p>既存パートナー (サントリー、NTT、東芝等) との関係を深化させ、統一された契約枠組みのもとで 10 件の共同研究プロジェクトへと展開しました。</p> <p>さらに、パートナー企業からの訪問研究者 13 名の受入れやポスターセッション、技術交流などを通じた多面的な連携を実施するとともに、本学学生と当該企業との接続を通じた人材育成を推進しました。</p> <p>加えて、商業化方針及び契約スキームに関する助言を行い、知的財産、ライセンス、スタートアップ創出の各プロセスについて、産学連携の枠組みとの整合を図りました。</p> <p>OIST×Sony CSL 共同ラボを実施し、以下の取組みを実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> - COI-NEXT のうち 1 件において、プロジェクトリーダーとして参画 - 大阪・関西万博と本学キャンパスにおいて、当該プロジェクトの展示を実施 - ワークショップの開催及び講演への登壇 - 論文 2 本発表

令和 7 (2025) 年度事業計画		指標	令和 7 (2025) 年度業績	自己評価
			<p>OIST×コランダム・システム・バイオロジー共同研究開発ラボを実施し、以下の取組みを実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> - ロボットと実験装置の設置、クラスター・システムのプロトコルの完成、サンプル処理の懸賞、実験プロトコルの最適化 - プロジェクトの第一段階から商業化を加速させるための計画を策定 <p>当該年度は、企業と 21 件の新規委託研究、共同研究契約を締結したほか、新規ライセンス／オプション契約 8 件を締結しました。</p>	
	<p>(寄付金)</p> <p>3109 令和 5 年度にまとめられた計画に基づき、新任のディレクターの下、定期寄付制度、法人サポーター制度、ネーミングライツによる寄付制度など、様々な手法を通じて積極的にフィランソロピーによる資金調達を行います。</p>		<p>(寄付金)</p> <p>3109 新たなリーダーシップの下、寄付者エンゲージメントに主眼をおいたファンドレイジング活動を推進しました。学生支援、研究推進、アウトリーチ活動等の重点分野において、多様な寄付機会を創出しました。個人・法人双方の寄付者から新規・継続の寄付を確保しました。OIST 財団との連携を強化し、重点施策への支援体制を拡充しました。長期的なフィランソロピーの成長を支えるため、体系的な寄付者パイプラインの構築とスチュワードシップ（寄付者との関係維持・深化）の構築に着手しました。</p>	
第 4 章 沖縄の自立的発展への貢献に関する事項				
4	<p>研究室から生まれた発明を社会的・経済的利益のため企業への技術移転を推進し、学園及び沖縄におけるイノベーションを発展させるため、以下の幅広い取組を行います。</p>			B

令和7(2025)年度事業計画	指標	令和7(2025)年度業績	自己評価
<p>目標</p> <p>a) イノベーションの促進及び技術移転を目指して発明の同定、保護及びマーケティング</p> <p>b) 革新的技術の研究支援とそれらの技術の商用化を推進するべく POC（概念実証）プログラムを運営</p> <p>c) 沖縄におけるイノベーション・エコシステムの形成を目指し、他機関との連携及び COI-NEXT を通じて、起業家精神の育成及びスタートアップ企業の創出・育成推進</p> <p>d) 新技術の開発、技術移転の促進、及び再生可能エネルギーテストベッド構築を推進するために、企業との連携を拡大</p> <p>e) 沖縄のイノベーション・エコシステム（R&D クラスタ）形成を目指し地域、国内、海外の革新的な官民機関との連携強化</p> <p>f) 科学技術におけるイノベーションの成功要素と指標を理解し、それらの社会経済への影響を測定・評価するとともに、これらの知見を日本国内の他地域と共有</p> <p>これらをより強力に進めるため、新たに整備したインキュベーター施設等を効果的に活用するとともに、新たに採択された内閣府地域中核大学イノベーション創出環境強化事業を着実に実行します。</p>			
<p>4</p> <p>沖縄の自立的発展への貢献に関する事項</p> <p>取組</p> <p>（技術移転及びイノベーションの促進）</p> <p>a) イノベーションの促進及び技術移転を目指して発明の同定、保護及びマーケティング</p> <p>4101 面談や啓発イベントを通じ、積極的に教員、研究者や学生に働きかけ、学園の知的財産を特定する機会を</p>	<p>・将来の連携及びライセンスを見込んだ企業とのコンタクト（120）</p> <p>・企業との連携事業数</p>	<p>（技術移転及びイノベーションの促進）</p> <p>a) イノベーションの促進及び技術移転を目指して発明の同定、保護及びマーケティング</p> <p>4101 「知財入門セミナー」の開催（2回）や教員や研究者との知的財産に関する会議（延べ100回以上）</p>	

令和 7 (2025) 年度事業計画	指標	令和 7 (2025) 年度業績	自己評価
<p>確保します。</p> <p>4102 知的財産の市場価値や競争環境を評価し、事業化戦略を強化します。</p> <p>4103 ソーシャルメディアなど新しいマーケティングプラットフォームを利用して技術移転成果の増加を目指します。</p>	<p>(連携協定、共同研究契約、特許活用件数等) (28)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知的財産の指標(発明の開示数(18)、知的財産の事業化(7)、特許ファミリーの累計数) ・イノベーション、技術開発、R&D クラスタ開発関連トピックにおいて学園が企画又は主催したシンポジウム、会議、ワークショップ、セミナーの数 (60) ・イノベーション、技術開発、R&D クラスタ開発関連トピックにおいて学園が企画又は主催したイベント、コース、シンポジウム、会 	<p>を行い、知的財産に関する助言を行いました。また、教員及び研究者への知的財産に関する積極的な働きかけにより、以下の成果を得ました。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 発明開示件数：21 件 - 新規特許出願件数：55 件 - 特許取得件数：15 件 <p>添付資料 4. 1-1 特許状況</p> <p>4102 AI を活用したプラットフォームの試行導入を通じて、事業機会分析の高度化に取り組みました。また、オンラインのマッチングプラットフォームの活用や、ライセンス可能な技術(112 件)に関する広報資料の作成、企業との 100 件の面談を通じて、産業界との連携を強化し、知的財産の市場性評価を進めました。</p> <p>4103 LinkedIn 等のソーシャルメディアを活用し、技術シーズの発信及び認知向上に取り組むとともに、X、Facebook、Instagram 等の新たなチャンネルの導入を進めました。</p> <ul style="list-style-type: none"> - LinkedIn フォロワー数：4,750 (前年度比 28%増) - 投稿の平均エンゲージメント率 (他機関比+65%) 	

令和 7 (2025) 年度事業計画	指標	令和 7 (2025) 年度業績	自己評価
<p>4104 特許プロセスと戦略を強化し、技術マーケットの魅力の向上を目指します。</p> <p>b) 革新的技術の研究支援とそれらの技術の商用化を推進するべく POC（概念実証）プログラムを運営</p> <p>4105 ハンズオンサポートを提供することで POC（概念実証）プログラムとテクノロジー・パイオニア・フェローシップを支援し、商業化の取組を確実にします。</p>	<p>議、ワークショップ、セミナーの参加者の数 (1200)</p> <p>・POCのプロジェクト、及びテクノロジーパイオニアフェローシップの採択件数 (21)</p> <p>・当該年度において支援するスタートアップ数、スタートアップ・アクセラレーター・プログラム、インキュベーター施設、起業家向けプログラムによって支援された起業プロジェクト件数 (60)</p> <p>・イノベーション・ネットワーク@OIST (INO) への登録企業数 (60)</p> <p>・視察や来訪者の数 (オープン・キャンパスの来訪者数を含む)</p> <p>・キャンパスを訪れた</p>	<p>4104 日本政策投資銀行との連携を強化し、技術及び市場動向の分析を活用することで、特許戦略及び事業化判断の高度化に取り組みました。知的財産の商業化件数については、8件を達成し、前年度に引き続き目標を上回る成果となりました。</p> <p>b) 革新的技術の研究支援とそれらの技術の商用化を推進するべく POC（概念実証）プログラムを運営</p> <p>4105 当該年度は、11件の新規 POC プロジェクトを採択し、既存の13件のプロジェクトを継続支援しました (計 24 件)。</p> <ul style="list-style-type: none"> - シードフェーズ：15 件 - フェーズ I：1 件 - フェーズ II：3 件 - テクノロジー・パイオニア・フェローシップ：5 件 <p>また、「ファストトラック」プロセスを通じて、通常の POC プログラム申請サイクルの枠外で 2 件採択し、有望な取り組みに対する迅速かつ柔軟な支援を実現しました。</p> <p>その他、以下の機会を提供し、技術商用化に向けサポートしました。</p> <ul style="list-style-type: none"> - POC プロジェクトの研究者に対して 203 時間のコンサルテーションを提供し、さらに研究者に対して各プロジェクト及び POC プログラムへの応募可能性に関する 40 時間のコンサルテーションを実施 - POC 技術に関心を持つ企業、ベンチャーキャピタ 	

令和 7 (2025) 年度事業計画	指標	令和 7 (2025) 年度業績	自己評価	
	<p>4106 POC (概念実証) プログラムのための産業界からのレビュアーや、エキスパート及びメンターのパネルメンバーを拡充、強化します。</p> <p>4107 POC (概念実証) プログラムの実施成果をスタートアップ設立などを含めた事業化へ着実につなげていくための新たなプログラムを構築します。</p> <p>4108 POC (概念実証) プログラムを商業化へ向けてより適切に導くために、起業家育成教育や指導を強化します。</p>	<p>県内児童・生徒数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内児童・生徒を対象とした講義やイベントの数 ・沖縄出身の職員数 ・年間の新規採用者数における沖縄県在住者採用割合 ・学園で開催された外部主催の国際会議及びワークショップの数、及びその参加者数 	<p>ル、専門家とのミーティングを70時間にわたり調整・実施</p> <p>添付資料 4.1-2 令和7年度 POC プロジェクト</p> <p>4106 新たに13名のレビュアーと4名のメンターを採用し、グローバルに活躍する専門家ネットワークを計130名に拡大しました。</p> <p>4107 POC プロジェクトの事業化に向けた取組みを強化し、情報発信、産業連携、プログラム整備を通じて、事業化への導線の構築を進めました。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 潜在的パートナー及び投資家向けのプロモーション動画を制作 - 企業との連携による POC トラックの検討を開始 - POC 支援から3件のスタートアップを創出、さらに3件が交渉中 - COI-NEXT における「若手研究者産学連携プログラム」の始動 <p>4108 POC プロジェクトの事業化に向けた支援を強化し、メンタリング、ライセンス契約の交渉・締結、企業創出等の各段階において取組みを推進しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 4件の POC チームに対し、ベンチャー・メンタリング・サービス (VMS) を提供 - 5件の POC プロジェクト事業化に至り、Chiore Medical、Nunoura、Surzen Biotherapeutics のスタートアップ企業を創出 	

令和 7 (2025) 年度事業計画	指標	令和 7 (2025) 年度業績	自己 評価
<p>c) 沖縄におけるイノベーション・エコシステムの形成を目指し、他機関との連携及び COI-NEXT を通じて、起業家精神の育成及びスタートアップ企業の創出・育成推進</p> <p>4109 起業家活動育成支援を強化し、COI-NEXT 等外部資金事業による取組及びバイオコンバージェンス形成に向けたスタートアップアクセラレータープログラムを拡充します。スタートアップコミュニティと OIST の研究及び沖縄のビジネスコミュニティとの繋がりを強化します。</p>		<ul style="list-style-type: none"> - 4 件の POC プロジェクトにおいて 5 件のライセンス契約を締結（さらに 4 件が交渉中） - 研究成果の社会実装を目的として、アントレプレナーシップ研修プログラム「Innovator’s Toolbox」を共同実施 <p>c) 沖縄におけるイノベーション・エコシステムの形成を目指し、他機関との連携及び COI-NEXT を通じて、起業家精神の育成及びスタートアップ企業の創出・育成推進</p> <p>4109 当該年度は、4 チームを「OIST Innovation Accelerator プログラム」の参加者として選出しました（2025 年度採択）：</p> <ul style="list-style-type: none"> - CancerFree Biotech：リキッドバイオプシー由来のオルガノイド技術を開発し、精密な薬剤評価を通じて個別化がん治療を可能にし、治療効果の向上および副作用の低減を実現 - Perceptive：大規模災害時におけるサービス継続性およびインフラのレジリエンスを向上させる動的ネットワーク管理システムを開発 - Strout：リアルタイムデータと予測分析を統合した陸上養殖向けデジタルプラットフォームを開発し、魚の健康管理の高度化および養殖運営の最適化を実現 - Tlaloc Blue：AI を活用した垂直統合型エコシステムを開発し、有機廃棄物を持続可能なタンパク質、栄養価の高い堆肥、カーボンクレジットなどの高付加 	

令和 7 (2025) 年度事業計画	指標	令和 7 (2025) 年度業績	自己評価
		<p>価値資源へ転換</p> <p>OIST Innovation Accelerator プログラム修了生の当該年度の業績：</p> <ul style="list-style-type: none"> - CancerFree Biotech (2025 年度採択)：精密医療プラットフォーム (TRL-7) を高度化し、臨床レポート作成時間の短縮、遺伝子検査サービスの統合、ISO 17025 認証の取得を実現。臨床試験の患者登録を完了し、査読付き論文の発表や国内外の研究機関・企業との連携を推進。B2B 展開を含む商用化を進めるとともに、AI を活用したラボドキュメンテーションシステムを開発。 - Perceptive (2025 年度採択)：TRL-3 から TRL-5 へ進展し、動的ネットワーク管理システムの MVP を開発・実証。産業パートナーとの実証実験や、ドローン・防衛分野における国内外の企業との連携を通じて、災害対応や重要インフラ分野への展開基盤を構築。 - Strout Inc. (2025 年度採択)：水産養殖プラットフォーム (TRL-7) のプロトタイプ開発および実証を推進。OIST 内外のパートナーシップを構築し、複数地域での事業開発を展開。今後のスケールアップに向けた実証計画および投資検討を進めた。2025 年度 J-Startup OKINAWA に選出。合計 1.5 億円の資金を複数の国内 VC より調達。 - Tlaloc Blue (2025 年度採択)：TRL-2 から TRL-4 へ進展し、有機廃棄物のアップサイクルに向けたハードウェアプロトタイプの開発・実証を実施。沖縄地 	

令和 7 (2025) 年度事業計画	指標	令和 7 (2025) 年度業績	自己評価
<p>4110 教員、研究者、学生、スタートアップのニーズを満たすために、起業家精神促進のための多様な支援と教育の機会を提供します。</p>		<p>域における供給網およびパートナーシップを構築し、実証導入および事業化に向けた基盤を整備。</p> <ul style="list-style-type: none"> - Veritus (2024 年度採択) : プレシードラウンド総額 3,750 万円を Lifetime Ventures より調達。 - HerLifeLab (2020 年度採択) : 2025 年度 J-Startup OKINAWA 選出された。経産省「フェムテック等サポートサービス実証事業費補助金」に採択。 - EF Polymer (2019 年度採択) : シリーズ B ラウンド総額で 26 億円を調達。 - 2025 年度沖縄県 Ryukyu LaunchPad (スタートアップ海外展開支援プログラム) に EF Polymer、Sage Sentinel (2020 年度採択)、Vyorius、Strout が選定 <p>添付資料 4.1-3 令和 7 年度スタートアップ数</p> <p>4110 セミナーとワークショップを 36 件開催し、1,799 名が参加しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> - OIST イノベーション・ネットワーク (INO) 関連イベント : 7 月 (東京)、新規アクセラレーターチームを紹介。11 月は、INO 会員向けに POC プロジェクトリーダーや学生が研究内容について発表。各回約 80 名参加。 - MTG Ventures と共催で VC 及び CVC を招いたイベントを開催し、同社の投資家ネットワークに対して OIST 発スタートアップを紹介。60 名が参加。 - AgVenture Lab と共催で、農業分野に焦点を当てたスタートアップイベント「From Field to Startup: Solving Okinawa's Agricultural Challenges」を開催。現 	

令和 7 (2025) 年度事業計画	指標	令和 7 (2025) 年度業績	自己評価
<p>4111 スタートアップや企業との共同研究ラボ用に割り当てられた学内施設及び新たな 2 棟のインキュベーター施設を適切に管理運営します。</p> <p>4112 OIST-Lifetime Ventures Fund 及びその他のベンチャーキャピタルと連携しスタートアップ支援の拡大を図ります。</p>		<p>地及びオンラインで 110 名以上が参加し、沖縄県、JA 沖縄、恩納村の関係者が主要な課題と機会について発信。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 新設インキュベーター施設見学、起業家育成トレーニング、イノベーション・エコシステムの関係者との情報交換会などを盛り込んだ「OIST Innovation Open House Week」(2026 年 7 月 14 日～18 日)を開催し、OIST 内外から 250 名以上が参加 - サントリーからの訪問研究者によるポスターセッションを開催。 <p>添付資料 4.1-4 産業関連コラボレーション及びイノベーション関連セミナー・イベント</p> <p>4111 スタートアップ及び企業向けの新インキュベーション施設 2 棟 (Core 1 及び Core 2) が完成し、令和 7 年 5 月に竣工式を開催しました。7 月より入居を開始し、施設運営を本格化しました。また、既存スタートアップのラボ拡張を進めるとともに、新規スタートアップおよび企業の入居誘致を推進しました。</p> <p>さらに、ギャザリングスペースを活用し、イベント開催やネットワーキング等を通じて、コミュニティ形成およびスタートアップ支援機能の強化を図るとともに、沖縄総合事務局から外部資金を獲得・確保活用し、施設運営およびスタートアップ支援体制の強化を進めました。</p> <p>4112 Lifetime Ventures と共催でスタートアップカンファレンス「Startup Elevate」を開催し、選定された投資家に対して OIST 発スタートアップを紹介しました。2 日</p>	

令和 7 (2025) 年度事業計画	指標	令和 7 (2025) 年度業績	自己評価
<p>4113 ベンチャーキャピタルパートナーと連携し、起業家を目指す人材の育成活動を展開します。</p> <p>4114 グローバルスタートアップキャンパス構想、PARKS、CIC Tokyo 及び渋谷スタートアップとの連携を含め、更なるスタートアップ創出・育成に向けて、共同研究や人材交流等の推進方策について検討を開始します。</p> <p>d) 新技術の開発、技術移転の促進、及び再生可能エネルギーテストベッド構築を推進するために、企業との連携を拡大</p> <p>4115 会議、展示会、再生可能エネルギーテストベッド、各種ネットワークを通じて、企業との共同研究を促進します。企業会員プログラムを運営して、県内、国内、及びグローバル企業との連携を拡大します。</p>		<p>間で 360 名以上が参加しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 60 時間の情報交換及び調整会議を実施 - 32 のスタートアップに投資し、うち 40%強は本学関連 <p>4113 7 件のプロジェクト (POC プロジェクト 3 件、スタートアップ 4 件) に対して、各プロジェクトの事業化の加速化を目指し、ベンチャー・モニタリング・サービス (VMS) をとおして、産業界やスタートアップ分野の専門家によるメンタリングセッションを提供しました。また、6 社のベンチャーキャピタルと連携して VC メンタリングセッションを実施し、起業家と投資家の直接的な接点を創出するとともに、投資家視点に基づく実践的なフィードバックを提供しました。</p> <p>4114 スタートアップ支援に向けて以下のような人材交流に取り組みました：</p> <ul style="list-style-type: none"> - 一橋大学より 3 名の MBA 学生インターンの受入れ (3 名) - 琉球大学より 2 名の学生インターンの受入れ (2 名) <p>d) 新技術の開発、技術移転の促進、及び再生可能エネルギーテストベッド構築を推進するために、企業との連携を拡大</p> <p>4115 本学の技術やスタートアップ企業創出を促進するため、産業界と 129 の会議を開催しましたほか、20 件の展示会に参加し研究及び技術を紹介しました。 OIST イノベーション・ネットワーク (INO) プログラム</p>	

令和 7 (2025) 年度事業計画	指標	令和 7 (2025) 年度業績	自己評価
	<p>4116 沖縄県、国、民間財団等からの革新的な研究のための助成金獲得に向けて支援を継続します。</p>	<p>の運営をしました。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 会員数:42社(プレミアム会員(12)、レギュラー(29)) - イベント:7月にアクセラレーターチームを紹介するイベントを東京で開催。11月にPOCの技術をショーケースするイベントを開催。 - インターンシップ・プログラム:サントリーから11名の研究員を迎えた(2年目) - 専属のプログラムマネジャーを配置。 <p>4116 (3106再掲) 当該年度は、研究者と企業の連携を促進するとともに、公共・民間セクターからの外部資金の獲得を通じて、研究成果の社会実装に向けた取組みを推進しました。これらの取組みにより、早期ステージの研究成果の事業化に向けた支援体制の強化を図るとともに、産学官連携のさらなる深化を推進しました。</p> <p>産学連携関連助成金獲得実績:</p> <ul style="list-style-type: none"> - 新たに9件の民間財団助成金を獲得 - 沖縄県から助成金獲得 <ul style="list-style-type: none"> ・ 9年目(令和8年度)となる「OIST Innovation Accelerator」を支援する助成金 ・ その他3件の助成金 - 「九州沖縄大学発スタートアップエコシステム(PARKS)」を通じた追加資金 <p>その他、外部資金を活用した事業運営にも取り組み、企業研究者が量子コンピューターを活用できるスキルを育成することを目的とした新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)事業の助成金を獲得・管理しました。</p>	

令和 7 (2025) 年度事業計画	指標	令和 7 (2025) 年度業績	自己評価
<p>4117 複雑な企業との契約交渉プロセスの効率化を図り、事業化戦略を構築します。</p> <p>4118 共同研究の成果拡大に向け、企業との共同研究ラボを実施します。</p>		<p>4117 包括契約（フレームワーク契約）を活用し、産学連携における契約交渉の効率化を図ることで、7社のパートナー企業との共同研究及び関連活動の迅速な立ち上げを推進しました。</p> <p>既存パートナー（サントリー、NTT、東芝等）との関係を深化させ、統一された契約枠組みのもとで 10 件の共同研究プロジェクトへと展開しました。</p> <p>さらに、パートナー企業からの訪問研究者 13 名の受入れやポスターセッション、技術交流などを通じた多面的な連携を実施するとともに、本学学生と当該企業との接続を通じた人材育成を推進しました。</p> <p>加えて、商業化方針及び契約スキームに関する助言を行い、知的財産、ライセンス、スタートアップ創出の各プロセスについて、産学連携の枠組みとの整合を図りました。</p> <p>4118 OIST×Sony CSL 共同ラボを実施し、以下の取り組みを実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> - COI-NEXT のうち 1 件において、プロジェクトリーダーとして参画 - 大阪・関西万博と本学キャンパスにおいて、当該プロジェクトの展示を実施 - ワークショップの開催及び講演への登壇 - 論文 2 本発表 <p>OIST×コランダム・システム・バイオロジー共同研究開発ラボを実施し、以下の取り組みを実施しました。</p>	

令和 7 (2025) 年度事業計画	指標	令和 7 (2025) 年度業績	自己 評価
<p>4119 ライセンス契約を強化するため、大学、企業、投資家、スタートアップを含めたマルチレベルパートナーシップ、コンソーシアム、イノベーションハブなど産業界との協力体制を強化します。</p>		<ul style="list-style-type: none"> - ロボットと実験装置の設置、クラスター・システムのプロトコルの完成、サンプル処理の懸賞、実験プロトコルの最適化 - プロジェクトの第一段階から商業化を加速させるための計画を策定 <p>4119 当該年度は、企業と 21 件の新規委託研究、共同研究契約を締結したほか、新規ライセンス／オプション契約 8 件を締結しました。</p>	
<p>e) 沖縄のイノベーション・エコシステム (R&D クラスター) 形成を目指し地域、国内、海外の革新的な官民機関との連携強化</p> <p>4120 地域、国内及び海外の機関との交流を行います。</p>		<p>e) 沖縄のイノベーション・エコシステム (R&D クラスター) 形成を目指し地域、国内、海外の革新的な官民機関との連携強化</p> <p>4120 学外機関との連携強化を図るため、以下の機関と協定・覚書を締結しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 琉球銀行： 産学連携、スタートアップ創出に向けて協力を推進する包括連携協定契約 - Startup Island TAIWAN： スタートアップ支援に関する覚書 - 国際電気通信基礎技術研究所： スタートアップ支援に関する協力に関する覚書 - Biz Research： スタートアップの経営人材の確保に関する覚書 - 未来医療推進機構、夢洲新産業・都市創造機構： 「未来医療」の発展に向けた覚書 	

令和 7 (2025) 年度事業計画	指標	令和 7 (2025) 年度業績	自己 評価
	<p>4121 沖縄、日本におけるイノベーション・エコシステムを強化する戦略アドバイスを取り入れるために、政府や産業界の専門家と交流します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> - Swissnex in Japan : イノベーション、起業家精神醸成、スタートアップ支援に関する覚書 その他、経済同友会と合同シンポジウムを開催しました。 4121 沖縄及び日本におけるイノベーション・エコシステムの強化に取り組み、政府及び産業界の関係者との連携や対話を通じて、政策や産業振興に関する知見の共有及び相互理解に取り組みました。 - 沖縄スタートアップ・エコシステム・コンソーシアム及び沖縄バイオコミュニティをはじめとする主要な地域・国家的イニシアティブに参画し、政策、産業振興、スタートアップ支援に関する議論に参加 - 沖縄県によるスタートアップ・エコシステム拠点の形成に向けたコンソーシアムや戦略検討に、関係機関とともに参画 - 経済同友会との連携のもと、本学にて「第3回 OIST-経済同友会シンポジウム(令和8年3月8日開催)」(参加者 150名)を共催するとともに、スタートアップ・エコシステム支援に関する意見交換・検討を実施 - 包括契約(フレームワーク契約)や戦略的パートナーシップを通じて、産業界との多層的な連携を推進 - 企業、金融機関、自治体を含む国内外 70 以上のパートナーとのネットワークを維持・活用し、多様な知見と視点を取り入れた連携を推進 	

令和 7 (2025) 年度事業計画	指標	令和 7 (2025) 年度業績	自己評価
<p>4122 COI-NEXT、再生可能エネルギーテストベッド、その他の取り組みを含め、産業界、政府、起業家、学术界などのイノベーション関係者を集めるための会議やイベントを開催します。</p>		<ul style="list-style-type: none"> - OIST Innovation Network (INO) を活用し、企業との接点形成から共同研究、スタートアップ支援、投資、テストベッド事業等への段階的な深化を目指す仕組みを構築 <p>4122 イノベーションに関わる多様なステークホルダー（産業界、学术界、政府、金融機関、スタートアップ等）の交流・連携の機会創出に向け、各種プログラムや取組等を開催・提供しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> - イノベーション関連イベントを 36 件開催し、産業界、学术界、政府機関、金融機関、スタートアップ関係者を含む計 1,799 名が参加 - COI-NEXT 等のプログラムを活用し、産学官金の多様なステークホルダーが参画する対話・連携の場を提供 - サステナブルエネルギー・テストベッド事業の一環として、「OIST テストベッドシンポジウム（令和 8 年 3 月 27 日）」を開催（参加者 114 名） - スタートアップ及び起業家支援プログラム（「Startup Elevate」（参加者 363 名）、「アクセラレーター・ブートキャンプ」、「リーンスタートアップ研修」等）を実施し、起業家と投資家・企業パートナーとの接続形成を促進 - 産業界向けイベント及びオープンイノベーション活動（INO イベント、CVC ミートアップ、企業セミナー等）を通じて、企業と研究者・スタートアップの交流機会を提供 - 琉球大学や沖縄高専等と連携し、学生向けミートア 	

令和 7 (2025) 年度事業計画	指標	令和 7 (2025) 年度業績	自己評価	
	<p>4123 琉球大学や沖縄高専等、県内関係機関と協力し、地域の経済発展に寄与するための産学官金連携を促進します。</p>		<p>ップ、iGEM 関連活動等の共同イベントを実施し、教育・研究・起業を統合した地域エコシステムの形成を推進</p> <ul style="list-style-type: none"> - AI、知的財産、ビジネスモデル開発、コミュニケーション等に関する能力強化プログラムを提供し、研究者及び起業家の活動を支援 - OIST Innovation Network (INO) や VC メンタリング、オフィスアワー等の仕組みを活用し、イベントを契機とした関係構築を継続的な連携につなげる取り組みを実施 <p>4123 琉球大学や沖縄高専等の県内機関と連携し、共同研究や人材育成、知識交流等を通じて、産学官金連携の推進に取り組みました。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 琉球大学との共同研究を推進し、海洋科学、生態学、環境科学などの分野における共著論文を通じて、本連携を本学における主要な地域連携研究の一つとして位置づけ - 学生インターンシップ、訪問学生プログラム、技術研修等を通じて人材育成に取り組み、沖縄の学生に対して本学の研究室、コアファシリティならびにイノベーションプログラムへのアクセス機会を提供 - iGEM 等の国際プログラムへの参加を通じて、本学、琉球大学、沖縄高専の学生チームが、地元の農家と連携し、課題解決に向けた取り組みを実施 - 県内の関連機関と共同で国際会議及びワークショップを開催し、知識交流の機会を提供 - スタートアップ関連イベントの共同開催や RyuLab 	

令和 7 (2025) 年度事業計画	指標	令和 7 (2025) 年度業績	自己 評価
		<p>等の取組みを通じて、県内の関連機関とのイノベーション分野における連携を促進</p> <ul style="list-style-type: none"> - コアファシリティへのアクセス機会の提供や、「おきなわオープンファシリティネットワーク」への参画を通じて、機関間の連携及びインフラ共有を推進 - サステナブルエネルギー・テストベッド事業の一環として、地域シンポジウムを開催し、産学官等の関係者が意見交換を実施 	
	<p>f) 科学技術におけるイノベーションの成功要素と指標を理解し、それらの社会経済への影響を測定・評価するとともに、これらの知見を日本国内の他地域と共有</p> <p>4124 学園や沖縄におけるイノベーション指標の分析を進めるために必要なパートナーシップ及び手法を構築します。</p>	<p>f) 科学技術におけるイノベーションの成功要素と指標を理解し、それらの社会経済への影響を測定・評価するとともに、これらの知見を日本国内の他地域と共有</p> <p>4124 本学及び沖縄におけるイノベーション活動の分析に向け、データ収集・管理体制の整備及び外部機関との連携を通じて、指標分析に必要な基盤及び手法の構築に取り組みました。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 体系的なデータ収集及び管理の仕組みを整備し、KPI の一貫した把握と政府機関への報告体制の確立 - 経済同友会（沖縄支部）と連携し、インパクト分析を実施するとともに、地域イノベーションの成果評価への産業界の視点の反映 - 日本政策投資銀行との連携により、本学の沖縄への影響に関する経済分析の実施及び社会経済的影響の把握 - おきなわスタートアップ・エコシステム・コンソ 	

令和 7 (2025) 年度事業計画	指標	令和 7 (2025) 年度業績	自己 評価
<p>(地域連携に関する取組)</p> <p>4125 知事等、沖縄県幹部、恩納村長・読谷村長など市町村自治体の長及び沖縄経済同友会代表幹事など沖縄経済界リーダーと学長レベルでの意見交換に加え、実務レベルでの意見情報交換の重層的取り組みにより連携を強化し、「新・沖縄 21 世紀ビジョン基本計画」などへの貢献や個別事業における一層の協力関係を構築・維持します。</p> <p>4126 外部コミュニケーションとアウトリーチをより効果的・効率的に展開できるよう所要の組織再編を行い、子どもから大人まで幅広い年齢層の県民を対象に、年間を通じて、キャンパス見学、科学普及プログラム、教育的アウトリーチなどを実施します。地域とのつながりを深めるため、沖縄の科学技術への理解に基づいて沖縄の文化や発展を紹介するイベントも提供します。離島を含む沖縄県全域の県民に学園の活動を知ってもらう機会を提供します。また、県内の全ての児童・生徒に学園キャンパスを訪問してもらうことを将来的な目標として、県内の小中高校生を対象とした学校訪問プログラムを一層充実させて、組織的な受入体制を強化するとともに、教育委員会や連携機関とも協力しながら、在学中に学園キャンパスを訪問できる機会をさらに増やしま</p>		<p>ーシウム等エコシステム基盤を活用し、スタートアップ創出や産業参画等に関する地域イノベーション活動に関するデータ収集及びベンチマーキングを実施</p> <p>(地域連携に関する取組)</p> <p>4125 沖縄県の科学技術振興課及び関連部署と定期及び不定期の情報交換や相互訪問を行い、より密接な協力関係を構築しました。</p> <p>4126 アウトリーチ活動の拡充により、幅広い年齢層への情報発信及び地域連携を促進し、科学体験施設の開設や教育プログラムの実施を通じて、地域社会との接点の拡大に取り組みました。</p> <p>OIST アウトリーチ活動リーチ数 (計 145,516 名)</p> <ul style="list-style-type: none"> - メインキャンパス来訪者数 : 47,566 名 - OIST サイエンススタジオ来訪者数 : 92,327 名 - 外部でのアウトリーチ参加者数 : 5,623 名 <p>主な来校者 :</p> <ul style="list-style-type: none"> - ガイド付キャンパスツアー : 1,149 名 - 自由見学 : 24,738 名 - 学校訪問 : 5,192 名 (うち、SEED プログラム 1,640 	

令和7(2025)年度事業計画	指標	令和7(2025)年度業績	自己評価	
す。		名) - 視察訪問：89 グループ 1,640 名 アウトリーチ活動： - イベント／プログラム、学校訪問等：151 件 33,052 名 主な開催イベント： - SCORE! サイエンス in 沖縄：起業のための研究 - 恩納村×OIST こども科学教室 - OIST サイエンストーク - OIST キッズレクチャー		
(その他の取組) 4127 コアファシリティ（共用研究施設）等で県内の学生がインターンシップをできる機会を提供し、学生の就業意識の向上や実地経験の獲得に協力します。		(その他の取組) 4127 奈良先端科学技術大学院大学（NAIST）から1名のインターン生をコアファシリティに受け入れ、共用研究施設における実地経験の機会を提供しました。		
第5章 キャンパス整備・大学コミュニティの形成、安全確保及び環境への配慮に関する事項				
5.1 キャンパス整備 目標	計画通りキャンパスの整備を進めます。			B
5.1 キャンパス整備 取組:	(キャンパス整備) 5101 シーサイドハウス改修の設計及び工事についてはコスト管理・削減を徹底するとともに、工期を厳守するよう工事の進捗について注意深くモニターしながら管理します。		(キャンパス整備) 5101 工事入札に向けた準備を進めており、市場価格を考慮しつつ、予算内に収めるため各工事項目および単価などの精査を行いました。	

令和 7 (2025) 年度事業計画	指標	令和 7 (2025) 年度業績	自己評価
	<p>5102 既存のキャンパスビルディング及び施設・設備について、現状を把握したうえで、中長期の視点で計画的に更新・修繕・維持管理し、長寿命化や省エネルギー化、スペースの有効活用を図るとともに、外部資金等も活用した施設整備にも取り組むことにより、持続性のある施設マネジメントを推進します。</p> <p>5103 既存施設における施設維持管理・更新（熱源、電力監視等）については、老朽化等の状況を踏まえ計画的に実行することとし、コスト管理・削減を徹底するとともに、工期を厳守するよう設計及び工事の進捗について注意深くモニターしながら管理します。</p> <p>5104 透明性確保のため、公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律（平成 12 年法律第 127 号）に基づき、入札スケジュールや結果等の入札前後の情報開示を推進します。</p>	<p>5102 中長期維持更新計画に基づき、施設の状態を毎年再確認するとともに、日常管理を通じて安定稼働および長寿命化を図りました。また、エネルギー使用量の削減については、エネルギーの使用の合理化等に関する法律に基づく省エネルギー活動の推進、ならびに更新時における高効率機器・設備（熱源機器、LED 照明等）の導入を進めました。</p> <p>5103 当初の中期維持更新計画を踏まえつつ、実際の維持管理は確保可能な予算の範囲内で優先順位を付して実施しました。</p> <p>5104 公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律（平成 12 年法律第 127 号）に基づく手続きを順守し、入札・契約の実施及び関連情報の公表を随時・適宜行いました。</p>	
<p>5.2 大学コミュニティの形成、子弟の教育・保育環境の向上 目標</p>	<p>OIST コミュニティは多様なバックグラウンドを持つメンバーで構成されているため、共通の体験や一体感を通してインクルーシブな学園文化を維持し、OIST コミュニティを活気づけるために、コミュニティの全てのメンバーに対して有意義でインパクトのある活動プログラムとサービスを提供します。</p>		
<p>5.2 大学コミュニ</p>	<p>(大学コミュニティの形成) 5201 教職員・学生及びその家族の日常生活をサポート</p>	<p>(大学コミュニティの形成) 5201 DEI (Diversity, Equity, and Inclusion) チームと連携</p>	

令和 7 (2025) 年度事業計画	指標	令和 7 (2025) 年度業績	自己評価
<p>ティの形成、子弟の教育・保育環境の向上 取組</p> <p>するための高品質のプログラムを充実させます。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 家族のためのオンボーディング（文化や仕事の進め方に慣れるための情報共有）を強化します。 - 学園内の関連部署との連携を維持し、新規採用者とその家族が赴任する前に必要な、生活等に関する情報を提供する早期受入れプログラムを導入します。 - 新しく赴任した教職員及び学生の家族が、既存教職員等の家族と交流し、互いに生活に必要な情報や地域のサービスを有効に活用できるための情報交換の方法を模索します。 - 学内の関連部門やセクションと連携し、住居、チャイルドケアサービス、家族サポート、医療サービス、そして日常生活のニーズに対し適切な情報を提供し、教職員とその家族の円滑かつ効率的な受入れサポート体制を確保します。 - 客員研究員、招聘ゲストの滞在中のサポートを行います。 <p>5202 多様な学園コミュニティに品質と費用効果の高いフードサービスを提供します。</p> <p>5203 引き続き、フードサービスを提供するベンダーの品質を確保するための手順を開発し、管理・監督します。</p>		<p>し、新しく OIST コミュニティに参加した家族向けに年 2 回実施するファミリーオリエンテーションプログラムを立ち上げました。</p> <ul style="list-style-type: none"> - ヘルスセンターと連携し、妊娠・出産、子育て期等、多様なライフステージにある OIST コミュニティに対し、有益な情報を共有するコミュニティ・ハブを設立し、定期的に関連イベントを開催しました。 - この取組みの一環として、チャイルドディベロップメントセンター（CDC）の保育士が、「愛着形成、親子の絆、遊び」をテーマとしたワークショップを企画・実施し、内部人材・専門知識を活用したアプローチで、OIST コミュニティを包括的に支援しました。 - その他、継続的な情報提供を可能にすべく、ソーシャルメディアを通じた情報発信を開始しました。 <p>5202 安定したサービス運営と継続的な改善により、利用者満足度の向上を図りました。</p> <p>5203 フードサービスを提供する事業者の品質を確保するための手順の整備を進めるとともに、その管理・監督を継続的に実施しました。各事業者との密接なコミュニケーションを通じて課題や改善点を適切に共有し、サービス品質の安定的な維持と向上に努めました。</p>	

令和 7 (2025) 年度事業計画	指標	令和 7 (2025) 年度業績	自己評価
<p>5204 がんじゅうサービスは、今後も質の高いエビデンスに基づくウェルビーイングの支援を学園コミュニティ全体（学生・職員・家族やその子ども）に提供し、全員が最善の状態で活動・活躍できるよう支援します。また、今後も全てのステークホルダーと連携し、学園コミュニティのニーズに合ったサービス提供をします。要請があれば、不平等な状況に関する問題提起などを代わりに働きかけます。</p> <p>5205 学園コミュニティのウェルビーイングを支援するためのワークショップ、個々のレジリエンスを高めるためのワークショップを引き続き提供し、ウェルビーイングへの取組支援を継続します。他のコミュニティーサービスと協力し、コミュニティのメンバーがサポートされ、大切にされていると感じられるような、つながりと協力の文化を築き続けていきます。</p> <p>5206 クラブ活動及びコミュニティがかかわる活動を促進し管理します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - ビレッジゾーン、フィットネスジム、シーサイドハウス（ラウンジ、デッキ、パティオ、テニスコート、サッカー場）、クレイファクトリー（製土工場）、新宿舍内ラウンジ等の学園のコミュニティスペースの使用を管理・監督します。 <p>5207 身体的、精神的な健康とコミュニティ全体のウェ</p>		<p>5204 がんじゅうサービスを通じて、高品質なウェルビーイング支援を提供し、OIST コミュニティのメンタルヘルスのニーズに応えることに取り組みました。10 月には、新たに臨床心理士が着任し、専門性のバランスをさらに強化するとともに、増加するサービス需要に対応できる体制構築を図りました。</p> <p>サービスに関するフィードバックを多く収集するため、QR コードを含むデジタル版フォームを導入しました。</p> <p>5205 組織内のニーズに基づき、部署ごとにカスタマイズした形でワークショップ及び研修を提供しました。あわせて、学生、研究者、職員等を対象とした各種セッションを展開しました。また、単発のセッションにとどまらず、研究科等と連携し、ニーズアセスメントに基づく継続的な研修、コンサルテーションを提供するなど、より協働的な支援を展開しました。さらに、コミュニティ全体へは、マインドフルネスセッションや各種オリエンテーションを実施しました。</p> <p>5206 シーサイドハウスの改修に伴い、クラブ団体の活動場所の調整を行いました。また、フィットネスジムに設置されている機器のメンテナンスを実施しました。</p> <p>5207 恩納村や沖縄県各機関と連携し、OIST コミュニ</p>	

令和7(2025) 年度事業計画	指標	令和7(2025) 年度業績	自己評価
<p>ルビーイングを促進するためのレクリエーション活動、イベント、クラス、セミナーの企画と補助を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> - イベント開催や施設の共同利用により、地域コミュニティと連携する機会を模索し提供します - 学園のコミュニティメンバーが参加できる沖縄のレジャー活動及び沖縄の文化的な機会を模索し提供します - 学園内外のレクリエーション及びスポーツ施設の利用可能性を調査し、利用を促進します 		<p>ティが地域社会と交流し、沖縄・日本文化への理解を深める機会を提供しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 4/16 アートマーケット開催 - 5/16 アクティビティフェア開催 - 5/30 前兼久ハーリー大会への参加 - 6/9 ゆかた着付け体験ワークショップ - 6/21 ビーチクリーニング&BBQ - 6/26 日本酒ワークショップ - 7/28 うちなーぐち（沖縄方言）ワークショップ及びソーシャルサンセット（OIST-KEIO インターナショナル・リサーチ・サマーキャンプ期間内） - 8/15 ガマ（戦跡）ツアー - 9/20 組踊二童敵打鑑賞バスツアー（国立劇場おきなわと連携） - 9/26 アクティビティフェア開催 - 11/7 組踊ワークショップ（国立劇場おきなわと連携） - 11/15 首里城・泡盛酒造バスツアー（沖縄国税事務所と連携） - 11/23 谷茶区5団体交流会 - 12/2 ホリデイマーケット開催 - 12/13 国立劇場おきなわ主催「ISLAND SONGS しまのうた」バスツアー（国立劇場おきなわと連携） - 1/30 アクティビティフェア開催 - 2/7 谷茶区ビーチクリーニング活動 - 2/14 首里城・泡盛酒造バスツアー（沖縄国税事務所と連携） - 2/17 瀬良垣漁港海岸清掃活動（恩納村漁協と連携） 	

令和 7 (2025) 年度事業計画	指標	令和 7 (2025) 年度業績	自己 評価
<p>5208 ニーズ調査結果に基づき、職員とその家族、県内コミュニティメンバー向けに提供される言語クラスのサービスの質を改善します。より柔軟な指導スケジュールと、より良いプログラムの提供について検討します。</p>		<p>5208 言語クラスの満足度について、80%以上の水準を維持しました。英語クラスでは新しい教材を導入し、また日英両クラスにおいて、オンラインツールを積極的に活用し質の向上を図るとともに、提供するコースの修了要件について明確なルールを整備しました。学習言語のさらなる上達を促進するため、広いコミュニティを対象としたイベントを開催しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 7/29 - 慶應サマーキャンプ 英語クラス - 9/18 - 第 60 回 沖縄県高等学校英語弁論大会 (OIST) - 10/18 - OIST・沖縄看護学校共同イベント - 2/15 - 第 34 回 外国人による日本語弁論大会 <p style="text-align: right;">他 8 件</p>	
<p>(子弟の教育・保育環境)</p> <p>5209 保育サービスにおいて、STEM 及び SEL (対人関係能力育成) プログラムを通じ、教職員及び学生の子弟の教育環境の向上を図ります。</p>		<p>(子弟の教育・保育環境)</p> <p>5209 統合型 STEM プログラムの拡充を通じて、教職員及び学生の子弟の教育環境を強化しました。当該年度は、継続的な保育プログラムであるガーデニングや科学探求活動に加え、本学研究者による体験型プログラムや組立式サイエンスキットを用いたプログラムを提供しました。</p> <p>また、保育スタッフの STEM 分野における基礎的な涵養を目的として、科学教育プログラムの内容を学ぶ取組の実施や、国際的な幼児教育機関を対象とした団体が主催するカンファレンスに参加し、感受性が高い子どもや意思の強い子どもへの支援方法、そしてインクルーシブな教室運営に関する研修を受講しました。</p>	

5210 質の高い、完全なバイリンガル（英語・日本語）の就学前及び就学児童（学童保育/長期休暇）のための保育プログラム/教室を、チャイルドディベロップメントセンター（CDC）及び小中学校プログラム（SAP）を通じて提供・開発します。これらのプログラムへの登録者数は今後も増加すると予想されています。

- 学童保育利用者の増加に対応するため、SAP 職員を増員するとともに、CDC 及び SAP の適切な人材配置モデルを再検討し、より一層質の高い保育サービスを提供します。
- CDC 及び SAP の収益と経費を見直し、適切な予算と料金を通じて持続可能な資金調達モデルを確立します。
- CDC 及び SAP のスペースのニーズについて検討します。
- CDC と SAP プログラムの管理及び職員のトレーニングプロセスを改善します。
- CDC 連絡委員会は、CDC 及び SAP プログラムを補助するために必要に応じて会合します。
- CDC 監督委員会は、CDC 及び SAP プログラムの運営をレビューし、必要に応じて助言・勧告します。
- CDC 保護者会は、CDC の管理部署と必要に応じて会合し、助言・勧告します。

5210 年次及び退園時のアンケートにおいて、保護者から高い満足度が示されました。定員については、CDC の 0 歳児および 3～4 歳児クラス、小中学校プログラム（SAP）の 6～12 歳クラスにおいて最大定員の状態を維持しました。待機リストは、卒園等による自然減により適切に管理・解消され、コミュニティの需要に対応しました。さらに、沖縄県が実施する年次検査において、すべての保育基準に適合する評価を受けました。

昨今の物価高騰の影響を受ける中であっても、料金を引き上げることなく財政的安定性を維持し、定員、イベント・プログラムを縮小することなく保育及び学童サービスを提供しました。地域の補助金制度を活用し、外部資金を 3 件獲得しました。

増加する子どもの人数に対応し、乳児用クッション壁の設置、遊び場の拡張、遊具の新規設置を行いました。また、これまでシーサイドハウスで実施していた学童プログラムをメインキャンパスに移動したことで、保育サービスとのスムーズな連携を実現できました。

保育及び学童のサービスを維持するため、業務の効率化と役割について整理し、入園手続き等に関する業務プロセスを改善しました。協働型のガバナンス体制を目指し、体制の見直しに着手し、家族とのエンゲージメント強化に取り組みました。

また、リクリエーションサービスと協力し、新しい課外授業（そろばん、読書クラブなど）の新しい教室を SAP 近くのスペースで実施することで、より多くの学びの機会を提供することが出来ました。

令和 7 (2025) 年度事業計画	指標	令和 7 (2025) 年度業績	自己評価
<p>5211 県内の公立学校に通う教職員・学生の子弟に適切な英語教育の機会を提供します。また、新たに配置するコーディネーターを中心に、優れた教職員及び学生の採用と確保のため、子弟教育に関する支援体制を強化して、学内ニーズの把握に努めるとともに、地域の学校等関係者との連携を強化します。加えて、家族が国際的にも認められる学校教育にアクセスできるよう、IB スクールやインターナショナルスクール等についての情報収集や情報提供、学校補助金プログラム支援等を行うなど、総合的な支援を実施します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - コーディネーター主導の下、子弟教育支援策の企画や地域自治体との協議、IB 認定校含む全学校種教育段階を通じた子弟教育支援の総合調整を行います。 - コーディネーター主導の下で、県内の IB 認定校、インターナショナルスクール、公私立の小中高等学校及び、国内海外の教育プログラム提供機関との連絡調整巡回支援などを行う担当者を配置します。 - 近隣の小中学校において、日本語習得が十分でない子弟に対する個別指導や保護者への通訳・翻訳作業を行う担当者を配置します。 - 教職員・学生の家族及び地域コミュニティのための国際バカロレア IB K-12 学校の実現可能性について検討します。 - インターナショナルスクールの保護者満足度調査を定期的実施し、教育・サポートサービスについ 		<p>5211 子弟教育に関する支援として、以下の取組を実施するとともに、教育オプションに関する調査・検討を行いました。</p> <p>地域の公立学校との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> - 子どもの学習支援及び保護者と学校とのコミュニケーションをサポートするため、朝の時間帯に言語サポートスタッフを恩納小学校に配置 - 恩納小学校における各種文書の翻訳支援 - 小学校入学を控えた子を持つ家庭向けに、本学で事前オリエンテーションを実施。また、恩納小学校及びうんな中学校の公式オリエンテーションに参加し、国際的なバックグラウンドを持つ保護者をサポート。 - コミュニティーの需要調査に基づき、恩納小学校へのスクールバスの運用を開始 <p>教育オプションに関する調査</p> <ul style="list-style-type: none"> - 公立、私立／インターナショナルスクール、オンライン、ボーディングスクール等、多様な教育進路に関する包括的調査に向けた外部コンサルタントお活用 - 学内ニーズを把握するため、30 名以上の教員へのインタビューを実施 - 家庭の教育選択肢を広げるため、オンラインスクールやボーディングスクールを紹介する「オンラインスクール・フェア」を開催 	

令和7(2025)年度事業計画	指標	令和7(2025)年度業績	自己評価
<p>て検証するプロセスを開発します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 県内だけでなく、オンラインスクールも含め、日本国内で受ける事が出来る様々な教育オプションについて調査し、情報をわかりやすく整理したうえで、保護者に提供します。 - 県内インターナショナルスクールへのシャトルバス運行の拡充を図るとともに、子弟や保護者等に対する日本語支援を強化します。引き続き、インターナショナルスクールに通う子弟に対する経済支援を提供します。 		<p>IB スクール実現可能性の検討及び専門家との協議</p> <ul style="list-style-type: none"> - IB 教育の実務者や学校設立者を含む国内外の複数の教育専門家から知見を収集 - ガバナンスモデル、資金調達の仕組み、入学者数の予測、カリキュラムの整合性等に関する分析 - ステークホルダーへのインタビューを実施するとともに、専門家からの助言を踏まえ、実現可能性の検討を実施 <p>インターナショナルスクール及び経済的支援</p> <ul style="list-style-type: none"> - インターナショナルスクールへの進学を支援するため、財政支援制度の運営を継続 - 沖縄及び日本国内の教育オプションに関する情報を整理し、体系的に提供 	
<p>(学生支援)</p> <p>5212 学生に安全で健全な環境を提供するため、学生が抱える問題の早期発見を積極的に推進し、部局内での円滑な連携を行うとともに、教員や関係部局間のコミュニケーション向上を図るなど、包括的な支援体制を講じます。</p> <p>5213 身体的、精神的な健康と学生のウェルビーイングを促進する学生のためのレクリエーション活動、イベント、クラス、セミナーの企画や支援をします。</p>		<p>(学生支援)</p> <p>5212 (1110 再掲) 個別の相談に応じ、解決策や必要なサポートを迅速に提供するなど、学生の福利厚生と学業の両面から積極的に支援しました。また、合理的配慮のフローに沿って保健センターやがんじゅうサービスとも連携しつつ、必要に応じて情報共有を行いました。</p> <p>5213 入学後、学生が円滑に学生生活を開始できるよう、入校時期に合わせ「アクティビティフェア」を企画・開催し、クラブ活動等の構成員との交流機会を設けました。また、OIST コミュニティが地域社会と交流し、沖縄・日本文化への理解を深めるため、独自のイベントを企画・開催しました。</p>	

令和 7 (2025) 年度事業計画	指標	令和 7 (2025) 年度業績	自己評価
		<ul style="list-style-type: none"> - 5/16 アクティビティフェア開催 - 6/9 ゆかた着付け体験ワークショップ - 6/26 日本酒ワークショップ - 8/15 ガマ（戦跡）ツアー - 9/26 アクティビティフェア開催 - 1/30 アクティビティフェア開催 	
5.3 安全の確保 目標 (1)	緊急対応計画、事業継続計画の実効性確認を進めるため運用及び実地訓練を実施するとともに、職場巡視を通じて各部署の安全及び緊急時対応を確保します。		
5.3 安全の確保 取組 (1)	<p>(安全の確保)</p> <p>5301 緊急対応計画、事業継続計画の運用及び実地訓練を進めます。</p> <p>5302 職場巡視を通じて各部署の安全及び緊急時の体制を確保します。</p>	<p>(安全の確保)</p> <p>5301 事業継続計画（BCP）の全面改訂作業を行い、新しいBCPのドラフトに基づいて幹部職員らによる危機管理の机上演習を実施しました。</p> <p>また、防火及び防災に関する研修教材を新たに開発し、全教職員及び学生に対してオンライントレーニングの受講を義務付けた他、消火器と消火栓を用いた定期的な初期消火訓練を継続実施しました。</p> <p>消防署との連携のもと総合的な火災避難訓練を実施し、避難行動をシミュレーションするとともに防災意識の向上を図りました。</p> <p>5302 安全衛生管理体制の維持・向上を目指し、安全衛生委員会、産業医（毎月）及び衛生管理者（毎週）による定期的な巡視を実施し、各研究室に対して、必要に応じ指導及び助言を行いました。その他、事故防止に関する取組みとして、発生した労災事故及びニアミスの事例に関する調査報告書（再発防止策を含む）を作成し、安全衛生委員会で関係専門家によるアドバイスも参照し</p>	

令和 7 (2025) 年度事業計画	指標	令和 7 (2025) 年度業績	自己 評価
	<p>5303 恩納村と協力しながら、災害に強いキャンパス作りを進め、災害の際にはキャンパス施設を近隣住民の避難場所として提供します。</p>	<p>つつレビューを行いました。その結果得られた知見は、学内における類似事故の再発防止を目的とした情報発信や、安全教育活動のために活用しました。</p> <p>さらに、新しい BCP の中で緊急時の危機管理体制及び各部署の緊急対応業務の内容を定めました。</p> <p>5303 恩納村の防災担当者と協議を行い、災害時に大学の施設を近隣住民の緊急避難場所として提供するための具体的な手順等について確認しました。</p> <p>非常用食料等の備蓄品を確保し、消費期限の過ぎた非常食は必要に応じて入替を行いました。また、災害時に使用する資機材の備蓄を増やしました。</p>	
<p>5.4 環境への配慮 目標</p>	<p>環境に配慮しながら事業を推進し、また、国連が掲げるSDGs の方針に沿った取り組みを行います。</p>		
<p>5.4 環境への配慮 取組</p>	<p>(環境への配慮)</p> <p>5401 リサイクル製品の使用を推進します。</p> <p>5402 温室効果ガス排出量とエネルギー消費を把握し、抑制に努めます。</p>	<p>(環境への配慮)</p> <p>5401 再生製品の利用やリサイクルを推進するとともに、新規購入に代えて再利用を優先しました。施設運営においては、特に学内住居施設において、軽微な修繕による長寿命化を図るほか、オフィス及び研究環境における既存家具等の再利用を推進しました。さらに、ヘリウムガスの再液化による再利用等、資源の有効活用にも取り組みました。</p> <p>5402 A 重油を使用した吸収式冷凍機から、電気式ターボ冷凍機に更新したことに伴い、エネルギー源が電力に転換されました。また、当該年度は建物増築により、延床面積が増加したため、電力使用量が増加しました。一</p>	

5403 水の再利用システムの適切な運用管理により、周辺水域への環境負荷の低減に努め、地下水への影響が無いようにします。

方、液化天然ガス（LNG）を燃料とするコージェネレーションシステム（CGS：熱電併給）は、電力購入を優先し運用したため、ガスの使用量が減少しました。水使用量については、再生水の管理改善により、またCO2 排出量は、省エネルギー活動や運用改善、燃料転換等により削減することができました。

測定項目	使用量量 (職員一人当・月)		削減量削減量 (%)
	2024 年度	2025 年度	
CO2 排出量 (tCO2)	0.200	0.186	-7.0%
電力使用量 (kwh)	0.240	0.249	3.8%
水道使用量(m3)	0.639	0.583	-15.8%
A 重油使用量 (Liter)	0.0076	0.0064	-15.8
ガス使用量(m3)	0.0035	0.0024	-31.4%

5403 水の再利用システムについては、適切な運用管理により全体として安定した運用を維持し、周辺水域への環境負荷の低減に努めました。一部の運用において調整を要する事象が確認されましたが、速やかに関係当局への報告及び必要な対応を行うとともに、運用面の見直しを通じて管理体制の適切な維持・向上を図りました。これにより、地下水への影響が生じないよう適切に管理し

令和 7 (2025) 年度事業計画	指標	令和 7 (2025) 年度業績	自己 評価
<p>5404 施設整備に伴う各種建設工事において発生した残土を適切に管理するため、濁水プラント施設を設置するなど、十分な赤土流出対策を講じます。</p> <p>5405 生態系の維持や固有生物種の保護に資するようキャンパス施設・敷地を管理します。</p> <p>5406 令和 5 年から令和 9 年までの 5 年間で合計 500kw 程度の太陽光発電システムの導入を計画し、実行します。令和 7 年度においては、新たなインキュベーター施設（2 棟）に 80kw 規模の太陽光発電システムを導入します。並行して、ガーデンズ駐車場、ビレッジセンター駐車場に合計で 100kw 規模の太陽光発電システム導入を検討します。</p>		<p>ました。</p> <p>5404 適切な赤土流出対策を講じ、良好な管理状態を維持しました。</p> <p>5405 当該年度に実施した第 2 データセンターの施設整備および基幹環境整備（第 6 工区東用地造成）工事（その 2）においては、沖縄県赤土等流出防止条例に基づき、必要に応じて濁水処理プラントの設置をはじめとする各種対策を講じ、施工期間を通じて適切な赤土流出防止措置を実施しました。これにより、周辺環境への影響を最小限に抑え、法令を遵守した円滑な工事の進行を図りました。</p> <p>また、建物の配置および規模については、在来の動植物への影響を回避するための外部調査報告に基づき決定しました。2024 年度の環境評価の結果、大きな問題は確認されておらず、引き続き調査を継続します。</p> <p>5406 当該年度は、インキュベーター施設への設置に向け技術的な検証を行いました。防水性・耐風性の確保など太陽光発電設備導入の技術的な課題を把握し、実現性の高い計画策定に向けた検討を開始しました。</p>	

令和7年度 業務実績報告 添付資料リスト

No.	File No.	資料名
1	1. 1-1	外部の奨学金等を獲得した学生数
2	1. 1-2	令和7年度 学術交流協定一覧
3	1. 1-3	学生に関する情報
4	1. 2-1	令和7年度 OIST 研究施設の外部利用者
5	1. 2-2	令和7年度 OIST論文・発表数
6	1. 3-1	令和7年度 研究に関する受賞実績
7	1. 3-2	令和7年度 アウトリーチ活動実績
8	1. 4-1	令和7年度 OIST主催によるワークショップ・ミニシンポジウム
9	2. 4-1	令和7年度 職位毎・国籍別職員数
10	2. 4-2	令和7年度 職員の給与水準
11	2. 4-3	令和7年度 研修の受講職員数
12	3. 1-1	外部資金・寄附金獲得状況
13	4. 1-1	特許出願状況
14	4. 1-2	令和7年度 POCプロジェクト
15	4. 1-3	令和7年度 スタートアップ・インキュベータ入居企業
16	4. 1-4	令和7年度 産業関連コラボレーション及びイノベーション関連セミナー・イベント

List of Attachment Documents to the FY2025 Performance Report

No.	File No.	Document Name
1	1. 1-1	Number of Students Receiving External Scholarships, etc.
2	1. 1-2	FY2025 List of Agreements with Other Universities
3	1. 1-3	Students Information
4	1. 2-1	FY2025 The Number of Use of our Research Facilities by External Organizations
5	1. 2-2	FY2025 OIST Publications and Presentations
6	1. 3-1	FY2025 Number of Research Honors/Awards
7	1. 3-2	FY2025 Outreach by Faculty and Researchers
8	1. 4-1	FY2025 List of OIST Funded Workshops/Mini-Symposia
9	2. 4-1	FY2025 Number of Employees
10	2. 4-2	FY2025 Salary Level of Employees
11	2. 4-3	FY2025 Number of Employees Taking Training Programs
12	3. 1-1	FY2025 External Grants and Donations Table
13	4. 1-1	Patent Status
14	4. 1-2	FY2025 POC Projects
15	4. 1-3	FY2025 Startups-Incubator Tenants
16	4. 1-4	FY2025 Industry-related Collaboration and Innovation Seminars and Events

1. 1-1 Number of external scholarship received in FY25/令和7年（2025）年度外部資金受給者数

External Fund	外部資金の名称	# of students receiving the fund/ 受給者数
FY2025 JSPS fellows (DC)	令和7年度中 日本学術振興会特別研究員（DC）	21
Osk. Huttunen Foundation Scholarship	Osk. Huttunen Foundation Scholarship(採用期間:2024/4/1-2026/3/31)	1
Taiwan Ministry of Education Tuition Scholarship	Taiwan Ministry of Education Tuition Scholarship	1
Tobe Maki Scholarship Foundation 学部からの継続	2025年度（令和7年度） 公益財団法人 戸部真紀財団(採用期間:2025/4/2026/3) 学部からの継続	1
Heiwa Nakajima Foundation scholaraship	2025年度平和中島財団奨学金(2025/4-2026/3)	1
2025 Google PhD Fellowship (East Asia)	2025 Google PhD フェロシップ(東アジア地区)(採用期間:2025/9-2026/6)	1
Yamada Foundation Scholarship	令和7年度山田育英会奨学金(採用期間:2025/4/1-2027/3/31)	1

2. Number of grant applications supported and success ratio in FY25/令和7（2025）年度外部資金申請者数

External Fund	外部資金の名称	# of application/申請者数	# of Acceptance/獲得数	Success Ratio/獲得率
FY26 JSPS fellows (DC)	令和8年度採用分日本学術振興会特別研究員（DC）	69	5	7%
JSPS Ikushi Prize	令和7年度日本学術振興会育志賞	5	0	0%
2025 Google PhD Fellowship (East Asia)	2025 Google PhD フェロシップ(東アジア地区)(採用期間:2025/9-2026/6)	3	1	33%
Heiwa Nakajima Foundation scholaraship	2026(令和8年度 平和中島財団奨学金(2026/4-2027/3)	1	1	100%
Yamada Foundation Scholarship	令和7年度山田育英会奨学金(採用期間:2025/4/1-2027/3/31)	1	1	100%
Japanese Association of University Women (JAWU) Scholarship	2025年募集（令和7年度） 大学女性協会奨学金	1	0	0%
Omori Shozo Memorial Foundation Scholarship	大森昌三記念財団 奨学金(2025年度採用)	1	0	0%
Tobe Maki Scholarship Foundation	2025年度（令和7年度） 公益財団法人 戸部真紀財団	1	0	0%
FY2026 Japan-Taiwan Exchange Association Scholarship Program	2025年度日本台湾交流協会日本奨学金留学生（国内採用）(採用期間：2025/4-2027/8)	1	1	100%

Attachment 1. 1-2 FY2025 List of Student Exchange Agreements with Other Universities

添付資料1. 1-2 令和7年度 学生交流協定一覧

University / Institution	大学・機関	Country	国	Type of Agreement	協定のタイプ	New / Continue	新規/継続
University of the Ryukyus	琉球大学	Japan	日本	Agreement of Cooperation	連携協力に関する協定書	Continue	継続
Okinawa National College of Technology	沖縄工業高等専門学校	Japan	日本	Agreement of Cooperation	連携協力に関する協定書	Continue	継続
Graduate School of Medicine, Osaka University	大阪大学大学院医学系研究科	Japan	日本	Special Research Student	特別研究学生	Continue	継続
Okinawa Churashima Foundation	沖縄美ら島財団	Japan	日本	Agreement on Scientific and Academic Cooperation	科学・学術協力に関する基本協定書	Continue	継続
School of Science, The University of Tokyo	東京大学理学部	Japan	日本	Memorandum of Understanding on Student Exchange	学生交流に関する覚書	Continue	継続
The University of Tokyo	東京大学	Japan	日本	Agreement on Scientific and Academic Cooperation	科学・学術協力に関する基本協定書	Continue	継続
RIKEN	理化学研究所	Japan	日本	Agreement on Scientific and Academic Cooperation	科学・学術協力に関する基本協定書	Continue	継続
National Chiao Tung University	国立交通大学	Taiwan	台湾	Agreement on Acceptance of Student	学生受け入れに関する合意書 特別研究学生	Continue	継続
Okinawa City Board of Education	沖縄市教育委員会	Japan	日本	Agreement on Mutual Collaboration and Cooperation on Academic Research and Human Resource Development	学術研究及び人材育成に係る相互連携・協力協定書	Continue	継続
The Graduate University for Advanced Studies, SOKENDAI	総合研究大学院大学	Japan	日本	Agreement on Acceptance of Student	学生受け入れに関する合意書 特別研究学生	Continue	継続
University of Texas Health Science Center at San Antonio	テキサス大学サンアントニオ校健康科学センター	USA	米国	Agreement on External Co-supervision of an OIST Student	エクスターナルスタディアドリサーチ及び協定締結の承認について	Continue	継続
Keio University	学校法人慶應義塾（慶應義塾大学）	Japan	日本	Agreement on Scientific and Academic Cooperation	科学・学術協力に関する基本協定書	Continue	継続
University of Tokyo	東京大学	Japan	日本	Agreement on External Co-supervision of an OIST Student	学外副研究指導のための契約締結について	Continue	継続
Naha Coast Guard Office	那覇海上保安部	Japan	日本	Comprehensive Collaboration Agreement	包括業務協力に関する協定書	Continue	継続
Nara Institute of Science and Technology (NAIST)	奈良先端科学技術大学院大学	Japan	日本	Agreement on Special Research Students Exchange	特別研究学生交流に関する協定書	Continue	継続
Universidad Politécnica de Madrid (UPM)	ポリテクニカ・デ・マドリード大学	Spain	スペイン	Agreement on External Co-supervision of an OIST Student	学外副研究指導のための契約締結について	Continue	継続
Institute of Theoretical Physics and Astronomy, Vilnius University	ヴィリニュス大学理論物理学・天文学研究所	Lithuania	リトアニア	Request for approval on External Study and Research of a PhD student and conclusion of the agreement	エクスターナルスタディアドリサーチ及び協定締結の承認について	Continue	継続
The Helmholtz Institute Mainz	ハルムホルツ研究所マインツ	Germany	ドイツ	Request for approval on External Study and Research of a PhD student and conclusion of the agreement	エクスターナルスタディアドリサーチ及び協定締結の承認について	Continue	継続
University of Cyprus	キプロス大学	Cyprus	キプロス	Request for approval on External Study and Research of a PhD student and conclusion of the agreement	エクスターナルスタディアドリサーチ及び協定締結の承認について	Continue	継続
University of Bristol	ブリストル大学	UK	英国	Agreement on External Co-supervision of an OIST Student	学外副研究指導のための契約締結について	New	新規
Tohoku University Graduate School of Life Sciences	東北大学大学院生命科学系研究科	Japan	日本	Agreement on Special Research Student Exchange	特別研究学生交流に関する協定書	New	新規
The Swedish Foundation for International Cooperation in Research and Higher Education (STINT)	スウェーデン研究・高等教育国際協力財団	Sweden	スウェーデン	Agreement of collaboration on Teaching Sabbatical Program	教員サバティカルプログラムに関する連携協定書	New	新規
Suntory Holdings Limited	サントリーホールディングス株式会社	Japan	日本	Agreement on Internship Program	インターンシッププログラムに関する協定書	New	新規
Kyushu University	九州大学	Japan	日本	Memorandum of Understanding on the Implementation of Traineeships	研修生受け入れ実施に関する覚書	New	新規
University of Tsukuba	筑波大学	Japan	日本	Agreement on the Acceptance of Special Auditing Students for Japanese Language Course	日本語科目履修のための特別聴講学生受入協定書	New	新規
University of Hawaii at Manoa	ハワイ大学マノア校	USA	米国	Agreement on External Co-supervision of an OIST Student	学外副研究指導のための契約締結について	New	新規

Attachment 1. 1-3 Students Information

添付資料1. 1-3 学生に関する情報

	Metrics	指標	Number / 数値
1	Number of applications for the PhD program (AY2025)	国内外からの博士課程志願者数 (令和7学年度)	1288
	Japanese	国内	46
	International	海外	1242
	Male	男性	863
	Female	女性	425
2	Number of admitted PhD students (Class 2025)	国内外からの博士課程入学者数 (令和7学年度入学生)	57
	Japanese	国内	17
	International	海外	40
	Male	男性	31
	Female	女性	26
3	Number of graduates (Total)	博士課程修了者数 (合計)	236
	AY2016	平成28学年度	7
	AY2017	平成29学年度	13
	AY2018	平成30学年度	15
	AY2019	令和元学年度	25
	AY2020	令和2学年度	17
	AY2021	令和3学年度	23
	AY2022	令和4学年度	30
	AY2023	令和5学年度	34
	AY2024	令和6学年度	40
	AY2025*	令和7学年度*	32
4	PhD student retention rate (%)*	博士課程学生の定着率*	
	Class 2012	平成24学年度入学生	85
	Class 2013	平成25学年度入学生	85
	Class 2014	平成26学年度入学生	85
	Class 2015	平成27学年度入学生	88
	Class 2016	平成28学年度入学生	89
	Class 2017	平成29学年度入学生	81
	Class 2018	平成30学年度入学生	88
	Class 2019	令和元学年度入学生	85
	Class 2020	令和2学年度入学生	84
	Class 2021	令和3学年度入学生	91
	Class 2022	令和4学年度入学生	92
	Class 2023	令和5学年度入学生	93
	Class 2024	令和6学年度入学生	96
	Class 2025	令和7学年度入学生	100
5	Average number of students per faculty member*	教員1人あたりの平均学生数*	3
6	Average year for graduation*	卒業までに要した平均年数*	5.9
7	Number of applications for the RI program (GS fund and Unit fund)	リサーチインターンシップ・プログラム応募者数 (研究科オフィス及びユニットの予算負担)	
	AY2019	令和元学年度	2,894
	AY2020	令和2学年度	3,723
	AY2021	令和3学年度	3,118
	AY2022	令和4学年度	2,947
	AY2023	令和5学年度	6,617
	AY2024	令和6学年度	6,589
	AY2025*	令和7学年度*	3,992
8	Number of Research Interns (GS fund and Unit fund)	リサーチインターンの人数 (研究科オフィス及びユニットの予算負担)	
	AY2019	令和元学年度	52
	AY2020	令和2学年度	57
	AY2021	令和3学年度	117
	AY2022	令和4学年度	193
	AY2023	令和5学年度	184
	AY2024	令和6学年度	188
AY2025*	令和7学年度*	95	
9	Number of student exchange agreements with other universities* (List of FY2025 separately attached)	学生交流協定締結数* (令和7年度の締結分は「学生交流協定一覧」に別途記載)	26

*As of 2026/3/31

*令和8年3月31日現在

1. 2-1 令和7年度 OIST 研究施設の外部利用者

組織	機器	セッション数	請求金額 (税込み)
大学 A	電子ビーム加熱真空装置	2	225,000
大学 B	電子ビーム加熱真空装置	2	130,000
会社 A	ICP-MS	1	92,720

1.2.27

サポートプラットフォーム	共同研究件数	訪問者
BINDS	10	6
MRI platform	2	4

1.2.28

コース名称	参加者数
沖縄海洋科学ワークショップ	46
沖縄顕微鏡ワークショップ	45
環境科学ワークショップ	15
BINDS クライオ電子顕微鏡ワークショップ	25
BINDS 社内トレーニング	6

添付資料1.2-2 令和7年度 OIST論文・発表数

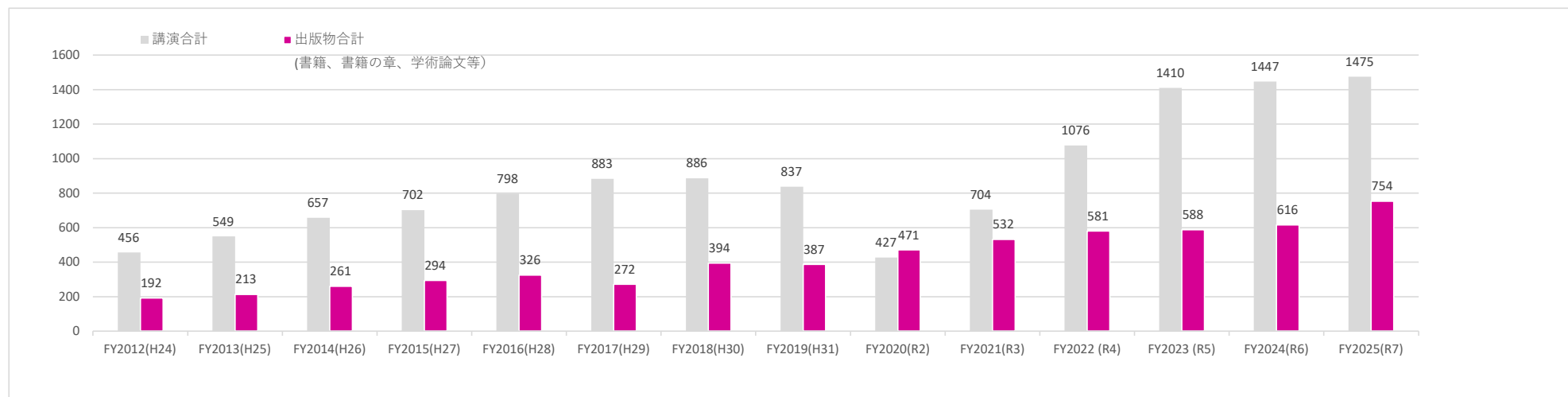
Attachment 1.2-2 FY2025 OIST Publications and Presentations

OIST 論文数・講演数 (ユニット別) 令和7年度
 OIST Scientific Productivity (by unit) FY2025

	Unit Name	Books and edited books	Book Chapter and Journal Articles (incl. conference proceedings)	Seminars and Presentations at conferences including poster presentations	Dissertations, Online Databases, etc.	Unit Total
	ユニット名	書籍の執筆・編集の数	書籍の章及び学術 論文の数(国際会議論文含む)	セミナー、学会でのプレゼンの数 (ポスタープレゼン含む)	博士論文、オンラインデータ ベース等の数	ユニット別合計
	Total	2	686	1450	56	2194
1	Aaraj	0	0	0	0	0
2	Abdulla	0	1	15	1	17
3	Armitage	0	13	14	0	27
4	Bandi	0	6	16	1	23
5	Bourguignon	0	15	20	1	36
6	Busch	0	14	26	4	44
7	Chabchoub	0	2	17	0	19
8	Chakraborty	0	2	5	0	7
9	Christine Luscombe	0	13	46	0	59
10	Cid	1	2	3	0	6
11	Dani	0	8	27	1	36
12	Daniel	0	1	3	0	4
13	De Schutter	0	4	7	0	11
14	Dieckmann	0	6	0	0	6
15	Doya	1	10	41	2	54
16	Economo	0	20	8	2	30
17	Ekert	0	1	0	0	1
18	Elkouss	0	14	28	0	42
19	Esposito	0	2	2	0	4
20	Feng	0	3	5	1	9
21	Fried	0	9	24	1	34
22	Froese	0	13	16	3	32
23	Fujiwara	0	5	7	0	12
24	Fukai	0	7	19	1	27
25	Fukunaga	0	4	6	2	12
26	Gioia	0	0	1	0	1
27	Goda	0	5	11	0	16
28	Hoehn	0	10	6	0	16
29	Husnik	0	9	30	1	40
30	Ishikawa	0	0	0	0	0
31	Kabe	0	5	25	1	31
32	Kazu	0	2	6	0	8
33	Khusnutdinova	0	8	19	1	28
34	Kitano	0	3	20	0	23
35	Kiyomitsu	0	0	5	0	5
36	Kondrashov	0	4	8	0	12
37	Kono	0	6	32	3	41
38	Konstantinov	0	7	9	0	16
39	Kuhn	0	4	3	2	9
40	Kusumi	0	7	25	0	32
41	Laudet	0	10	7	1	18
42	Laurino	0	2	20	2	24
43	Liu	0	4	12	0	16
44	Luscombe	0	5	13	0	18
45	Masai	0	2	10	2	14
46	Meitinger	0	5	12	0	17
47	Miller	0	6	8	0	14
48	Mitarai	0	3	2	0	5
49	Miyahara	0	1	13	0	14
50	Munro	0	17	0	0	17
51	Myers	0	3	0	1	4
52	Nakayama	0	0	12	0	12
53	Narita	0	16	46	0	62
54	Neiman	0	6	33	0	39
55	Nemoto	0	10	0	0	10
56	Nic Chormaic	0	20	39	1	60
57	Okada	0	5	19	0	24
58	Pääbo	0	3	3	0	6
59	Pao	0	2	27	0	29
60	Pigolotti	0	10	4	1	15
61	Qi	0	1	0	0	1
62	Ravasi	0	21	18	1	40
63	Reiter	0	9	41	0	50
64	Rokhsar	0	9	13	0	22
65	Rosti	0	10	45	0	55

	Unit Name	Books and edited books	Book Chapter and Journal Articles (incl. conference proceedings)	Seminars and Presentations at conferences including poster presentations	Dissertations, Online Databases, etc.	Unit Total
	ユニット名	書籍の執筆・編集の数	書籍の章及び学術 論文の数(国際会議論文含む)	セミナー、学会でのプレゼンの数 (ポスタープレゼン含む)	博士論文、オンラインデータ ベース等の数	ユニット別合計
66	Sallan	0	28	29	0	57
67	Satoh	0	16	7	1	24
68	Saze	0	3	11	2	16
69	Shannon	0	11	34	1	46
70	Shen	0	21	51	0	72
71	Shintake	0	2	6	0	8
72	Sitsel	0	2	11	0	13
73	Speyer	0	15	36	0	51
74	Stephens	0	2	9	1	12
75	Szöllösi	0	13	3	0	16
76	Takahashi	0	2	20	2	24
77	Tanaka	0	4	6	2	12
78	Tani	0	6	16	0	22
79	Tatsumi	0	0	11	0	11
80	Terenzio	0	2	7	0	9
81	Toriumi	0	17	47	0	64
82	Touber	0	0	0	0	0
83	Tripp	0	4	25	1	30
84	Twamley	0	12	11	1	24
85	Uusisaari	0	5	10	3	18
86	Watanabe	0	0	9	2	11
87	Wickens	0	4	5	2	11
88	Wolf	0	4	15	0	19
89	Yamada	0	6	12	0	18
90	Yamamoto	0	4	15	0	19
91	Yazaki-Sugiyama	0	1	9	1	11
92	Yokobayashi	0	6	11	0	17
93	Yoshida	0	5	0	0	5
94	Zhang	0	5	22	0	27
95	Zhou	0	9	10	0	19
96	Science and Technology Group	0	35	25	0	60
97	Buribushi	0	17	15	0	32

	書籍の 執筆・編集	書籍の章及び 学術論文	学会での講演 (ポスタープレゼンを含む)	セミナー	博士論文, オンラインデータベー ス等	講演合計	出版物合計 (書籍、書籍の章、学術論文等)
	Books and edited books	Book Chapters and Journal Articles	Presentations at conferences including poster presentations	Seminars	Dissertations, online databases, etc	Presentations and seminars	Publications (including books and book chapters)
FY2012(H24)	0	192	309	147	0	456	192
FY2013(H25)	2	211	430	119	0	549	213
FY2014(H26)	0	261	491	166	0	657	261
FY2015(H27)	2	292	535	167	1	702	294
FY2016(H28)	2	324	616	182	4	798	326
FY2017(H29)	2	270	692	191	7	883	272
FY2018(H30)	1	393	703	183	3	886	394
FY2019(H31)	7	380	641	196	16	837	387
FY2020(R2)	1	470	302	125	33	427	471
FY2021(R3)	3	529	487	217	33	704	532
FY2022 (R4)	2	579	783	293	62	1076	581
FY2023 (R5)	4	584	1065	345	56	1410	588
FY2024(R6)	2	614	953	494	28	1447	616
FY2025(R7)	1	753	1168	307	3	1475	754



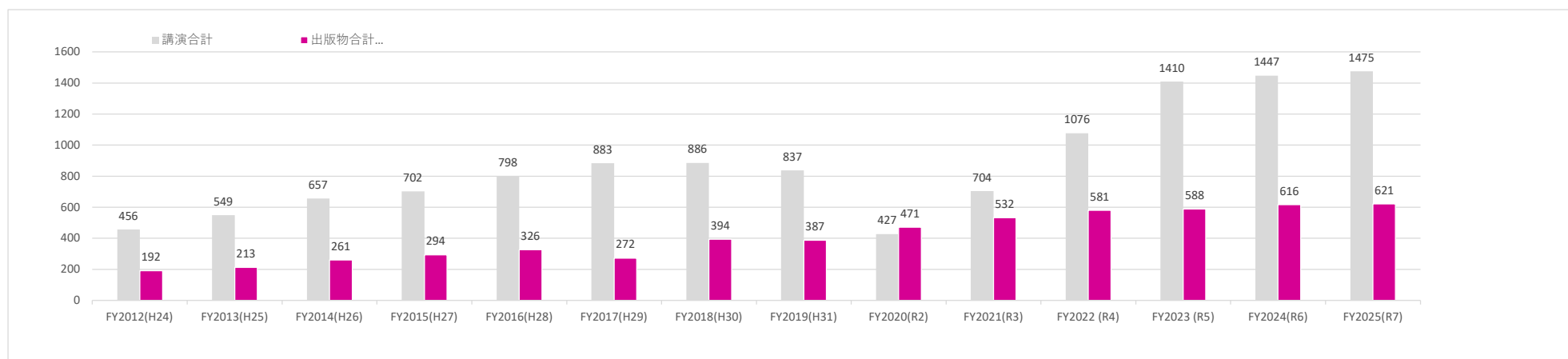
OIST論文数・講演数

(平成24-令和7年度)

OIST Scientific Productivity

(FY2012-2025)

	書籍の 執筆・編集	書籍の章及び 学術論文	学会での講演 (ポスタープレゼンを含む)	セミナー	博士論文、オンラインデータベース等	講演合計	出版物合計 (書籍、書籍の章、学術論文等)
	Books and edited books	Book Chapters and Journal Articles	Presentations at conferences including poster presentations	Seminars	Dissertations, online databases, etc	Presentations and seminars	Publications (including books and book chapters)
FY2012(H24)	0	192	309	147	0	456	192
FY2013(H25)	2	211	430	119	0	549	213
FY2014(H26)	0	261	491	166	0	657	261
FY2015(H27)	2	292	535	167	1	702	294
FY2016(H28)	2	324	616	182	4	798	326
FY2017(H29)	2	270	692	191	7	883	272
FY2018(H30)	1	393	703	183	3	886	394
FY2019(H31)	7	380	641	196	16	837	387
FY2020(R2)	1	470	302	125	33	427	471
FY2021(R3)	3	529	487	217	33	704	532
FY2022 (R4)	2	579	783	293	62	1076	581
FY2023 (R5)	4	584	1065	345	56	1410	588
FY2024(R6)	2	614	953	494	28	1447	616
FY2025(R7)	2	619	960	490	56	1450	621



複数教員による共同出版数（令和7年度）

Number of joint publications between different faculty members (FY2025)

FY2025 OIST Internal Collaborative Publications

(1) Rose, F.; Michaluk, M.; Blindauer, T.; Ignatowska-Jankowska, B. M.; O'Shaughnessy, L.; Stephens, G. J.; Pereira, T. D.; Uusisaari, M. Y.; Bozek, K.

Deep Imputation for Skeleton data (DISK) for behavioral science. *Nature Methods* **2025**, 23, 236–247

<https://dx.doi.org/10.1038/s41592-025-02893-y>

(2) Bouloumis, T. D.; Zhao, H.; Kokkinidis, N.; Hu, Y.; Truong, V. G.; Narita, A.; Nic Chormaic, S.

Disruptive Forces in Metamaterial Tweezers for Trapping Nanoparticles Containing Molecular Graphene Quantum Dots. *Advanced Optical Materials* **2025**, 13(31), e01916

<https://doi.org/10.1002/adom.202501916>

(3) Adiwira, H.; Yasunaka, S.; Kass, J. M.; Açıkbaş, A. H. O.; Adiningsih, S.; Gairin, E.; Ilham, H. B. C.; Lahcene, E.; Li, Y.; Nishihira, G.; Peñalver-Pereira, P.; Sie, F. M. P.; Amedo-Repollo, C. L.; Ames, C. L.; Armitage, D.; Brännström, Å.; Dieckmann, U.; Fujii, T.; Husnik, F.; Kawamiya, M.; Masuda, T.; Plessy, C.; Sallan, L.; Shimada, T.; Lan Smith, S.; Strutton, P. G.; Wirasatriya, A.; Suga, T.

Pathways to an integrated understanding of marine environments and ecosystems in the Asia-Pacific Region. *Frontiers in Marine Science* **2025**

<https://doi.org/10.3389/fmars.2025.1680145>

(4) Huerlimann, R.; Wee, H. B.; Alves dos Santos, M.; Kise, H.; Mizuyama, M.; Dudoit, A.; Jamodiong, E.; Satoh, N.; Soong, G. Y.; Kurihara, H.; Toonen, R. J.; Husnik, F.; Iguchi, A.; Ravasi, T.; Reimer, J. D.

Shifts in coral reef holobiont communities in the high-CO₂ marine environment of Iōtorishima Island. *Frontiers in Marine Science* **2025**

<https://doi.org/10.1371/journal.pclm.0000665>

(5) Zhou, P.; Kasai, R. S.; Fujita, W.; Tsunoyama, T. A.; Neyama, H.; Ueda, H.; Yokoyama, T.; Sakamoto, M.; Pigolotti, S.; Fujiwara, T. K.; Kusumi, A.

Single-molecule characterization of opioid receptor heterodimers reveals soluble μ - δ dimer blocker peptide alleviates morphine tolerance. *Nature Communications* **2025**, 16, 9859.

<https://doi.org/10.1038/s41467-025-64695-2>

(6) Gavriouchkina, D.; Tan, Y.; Parey, E.; Ziadi-Künzli, F.; Hasegawa, Y.; Piovani, L.; Zhang, L.; Sugimoto, C.; Luscombe, N.; Marlétaz, F.; Rokhsar, D. S.

A single-cell atlas of the bobtail squid visual and nervous system highlights molecular principles of convergent evolution. *Nature Ecology & Evolution* **2025**, 9, 1245–1262.

<https://doi.org/10.1038/s41559-025-02720-9>

(7) Hsu, M.-T.; Akamine, Y.; Kurima, K.; Tanaka, K. Z.; Wickens, J. R.

Cholinergic interneurons of the dorsomedial striatum mediate winner-loser effects on social hierarchy dynamics in male mice. *iScience* **2025**, 28, 113581.

<https://doi.org/10.1016/j.isci.2025.113581>

(8) Ross, R. J. H.; Masucci, G. D.; Lin, C. Y.; Iglesias, T. L.; Reiter, S.; Pigolotti, S.

Hyperdisordered Cell Packing on a Growing Surface. *Physical Review X* **2025**, 15, 021064.

<https://doi.org/10.1103/PhysRevX.15.021064>

(9) Gupta, S.; Munro, W. J.; Cid, C.

Threshold (Q, P) Distillation of Multipartite Quantum Correlations. *Physical Review Research* **2026**, 8, L012036.

<https://doi.org/10.1103/6zdc-j51g>

(10) Dias, J.; Wang, H.; Nemoto, K.; Nori, F.; Munro, W. J.

Efficient Charging of Multiple Open Quantum Batteries through Dissipation and Pumping. *Physical Review A* **2026**, 113, 012617.

<https://doi.org/10.1103/PhysRevA.113.012617>

(11) Kersten, W.; de Zordo, N.; Diekmann, O.; Redchenko, E. S.; Kanagin, A. N.; Angerer, A.; Munro, W. J.; Nemoto, K.; Mazets, I. E.; Rotter, S.; Pohl, T.; Schmiedmayer, J.

Self-Induced Superradiant Masing. *Nature Physics* **2026**, 22, 158–163.

<https://doi.org/10.1038/s41567-025-03123-0>

(12) Bastidas, V. M.; Nourse, H. L.; Sakurai, A.; Hayashi, A.; Nishio, S.; Nemoto, K.; Munro, W. J.

Equilibration of Noninteracting Photons and Quantum Signatures of Chaos. *Physical Review B* **2025**, 112, 134304.

<https://doi.org/10.1103/PhysRevB.112.134304>

(13) Azuma, H.; Munro, W.J.; Nemoto, K.

Quantum phase transitions in the multiphoton Jaynes-Cummings-Hubbard model. *Physical Review A* **2025**, 112, 033709

<https://doi.org/10.1103/ypts-6z4p>

(14) Lo Piparo, N.; Munro, W.J.; Nemoto, K.

Quality of service in aggregated quantum networks. *Physical Review A* **2025**, 112, 022611

<https://doi.org/10.1103/ph6d-qqwk>

(15) Sakurai, A.; Hayashi, A.; Munro, W.J.; Nemoto, K.

Quantum optical reservoir computing powered by boson sampling. *Optica Quantum* **2025**, 3(3), 238-245

<https://doi.org/10.1364/OPTICAQ.541432>

(16) Li, P.-Z.; Munro, W.J.; Nemoto, K.; Lo Piparo, N.

Continuous-variable multiplexed quantum repeater networks. *Quantum Science and Technology* **2025**, 10, 025057

<https://doi.org/10.1088/2058-9565/adc500>

(17) Sakurai, A.; Hayashi, A.; Munro, W.J.; Nemoto, K.

Simple Hamiltonian dynamics as a powerful resource for image classification. *Physical Review A* **2025**, 111, 052432

<https://doi.org/10.1103/PhysRevA.111.052432>

(18) Khalid, Md. I.; Bojanowski, N. M.; De Febrer, R. S.; Onishi, T.; Xu, X.; Okada, Y.; Narita, A.

Synthesis and Two-Dimensional Chiral Self-Assembly of Oxygen-Incorporated Dibenzo[hi,st]ovalene. *Organic Letters* **2025**, 27(42), 11837–11842

<https://doi.org/10.1021/acs.orglett.5c03676>

(19) Bakry, A.; Yadav, P.; Khelifi, W.; Khusnutdinova, J.; Luscombe, C.

Uncovering a radical-mediated mechanism in the Kumada catalyst transfer polymerization of glycolated polythiophenes. *Polymer Chemistry* **2026**, 17(5), 584-592

<https://doi.org/10.1039/D5PY01139F>

(20) Mano, T.; Tsaridis, K.; Kojima, Y.; Masucci, G.D.; Dinh, T.T.V.; Tong, R.; Glykos, V.; Dolezalova, L.; Asada, K.; Shumkova, D.; Rogers, L.S.; Hamon, M.; Santon, M.; Hiroi, M.; Iglesias, T.L.; Bellono, N.W.; How, M.J.; Goda, Y.; Meshulam, L.; Reiter, S.

Hierarchical processing and polarization encoding in the cephalopod visual system. *BioRxiv* **2026**

<https://doi.org/10.64898/2026.01.08.698312>

(21) Deligkaris, K.; Neiman, R.; Hiroi, M.; Izawa, T.; O'Shaughnessy, L.; Carretero, L.; Masai, I.; Stephens, G.

A dataset of fine-grained zebrafish interactions in health and disease. *Scientific Data* **2026**, 6953

<https://doi.org/10.1038/s41597-026-06953-6>

(22) Yadav, P.; Yamamoto, S.; Yamanaka, K.; Wang, H.; Bonnet, N.; Qi, Y.; Osaka, I.; Luscombe, C.K.

Chloroform outperforms chlorobenzene for enhanced mobility in amphiphilic polymer OFETs. *RSC Applied Polymers*, **2026**, 4, 716-724

<https://doi.org/10.1039/D5LP00320B>

(23) Maeda, K.; Kobayashi, H.; Uchida, T.; Shinzato, C.; Koyanagi, R.; Nagano, A.J.; Satoh, N.; Laudet, V.

Genetic isolation of an amphidromous goby species, *Luciogobius ryukyuensis*, highlights limited gene flow in small island populations. *Scientific Reports* **2025**, 15, 24193

<https://doi.org/10.1038/s41598-025-09050-7>

(24) Miyake, M.; Chen, H.-C.; Salis, P.; Hall, M.; Humbel, B.M.; Miura, S.; Reiter, S.; Laudet, V.; Klann, M.

Anemonefish Chromatophore Distribution and Organization Revealed by TEM Studies. *Zoological Science* **2025**, 42(4).

<https://doi.org/10.2108/zs240092>

(25) Sun, S.; Li, Q.; Onishi, T.; Goudappagouda; Zhou, H.; Gao, L.; Okada, Y.; Lu, J.; Narita, A.; Cai, J.

On-Surface Synthesis of Nanographenes Through Domino Cyclization Reactions. *Angewandte Chemie International Edition* **2025**.

<https://doi.org/10.1002/anie.202425167>

(26) Lacava, S. A.; Isilak, N.; Ranawat, N.; Katzke, J.; Hoedemaker, J. F. H.; Yoshida, Y.; Uusisaari, M. Y.

A Vestibulospinal Pathway for Context-Dependent Motor Control of the Mouse Tail. *Cell Reports* **2025**.

<https://doi.org/10.1016/j.celrep.2025.115957>

(27) Liu, C.; Hellemans, S.; Kinjo, Y.; Mikhailova, A. A.; Aumont, C.; Weng, Y.-M.; Buček, A.; Husnik, F.; Šobotník, J.; Harrison, M. C.; McMahon, D. P.; Bourguignon, T.

Recurrent Horizontal Gene Transfers Across Diverse Termite Genomes. *Evolution* **2026**.

<https://doi.org/10.1093/evolut/qpag003>

(28) Ju, X.-C.; Lee, S.-Y.; Ågren, R.; Machado, L. C.; Xing, J.; Azama, C.; Roy, M. C.; Endo, T.; Huttner, W.; Siepel, A.; Fukunaga, I.; Zeberg, H.; Pääbo, S.

The Activity and Expression of Adenylosuccinate Lyase Were Reduced During Modern Human Evolution, Affecting Brain and Behavior. *Proc. Natl. Acad. Sci.* **2025**, 122(32), e2508540122.

<https://doi.org/10.1073/pnas.2508540122>

(29) Zhou, P.; Tsunoyama, T. A.; Kasai, R. S.; Hirose, K. M.; Kalay, Z.; Aladag, A.; Fujiwara, T. K.; Yokoyama, T.; Sakamoto, M.; Kise, R.; Yanagawa, M.; Inoue, A.; Pigolotti, S.; Kusumi, A.

Single-Molecule Methods for Characterizing Receptor Dimers Reveal Metastable Opioid Receptor Homodimers That Induce Functional Modulation. *Nat. Commun.* **2025**, 16, 9858.

<https://doi.org/10.1073/pnas.2508540122>

(30) Mercader, M.; Ziadi-Künzli, F.; Olivieri, S.; Komoto, S.; Rosti, M. E.; Frédérix, B.; Laudet, V.

Integrative Phenotyping Reveals New Insights into the Anemonefish Adaptive Radiation. *Curr. Biol.* **2025**.

<https://doi.org/10.1016/j.cub.2025.06.041>

The above collaborative publications were published by the following units:

- (1) Stephens, Uusisaari
- (2) Narita, Nic Chormaic
- (3) Armitage, Dieckmann, Husnik, Sallan,
- (4) Husnik, Ravasi
- (5) Kusumi, Pigolotti
- (6) Nicholas Luscombe, Rokhsar
- (7) Kazumasa Tanaka, Wickens
- (8) Pigolotti, Reiter
- (9) Cid, Munro
- (10) Munro, Nemoto
- (11) Munro, Nemoto
- (12) Munro, Nemoto
- (13) Munro, Nemoto
- (14) Munro, Nemoto
- (15) Munro, Nemoto
- (16) Munro, Nemoto
- (17) Munro, Nemoto
- (18) Narita, Okada

- (19) Khusnutdinova, Christine K. Luscombe
- (20) Goda, Reiter
- (21) Masai, Stephens
- (22) Christine K. Luscombe, Qi
- (23) Laudet, Satoh
- (24) Laudet, Reiter
- (25) Narita, Okada
- (26) Uusisaari, Yoshida
- (27) Bourguignon, Husnik
- (28) Fukunaga, Pääbo
- (29) Kusumi, Pigolotti
- (30) Laudet, Rosti

添付資料1.3-1 令和7年度研究に関する受賞実績

受賞実績(教員)

No.	研究ユニット	受賞者	賞名等	受賞理由	URL	受賞日
1	ロスティユニット(複雑流体・流動ユニット)	マルコ・エドアルド・ロスティ	フランソワ・フレンキエル賞(流体力学部門)	ロスティ教授は、乱流中の球体や繊維に関する研究など、流体力学分野への顕著な貢献により、アメリカ物理学会流体力学部門からフランソワ・フレンキエル賞を受賞しました。	https://engage.aps.org/dfd/honors/prizes-awards/frenkiel-award	2025年12月1日
2	ロスティユニット(複雑流体・流動ユニット)	マルコ・エドアルド・ロスティ	アンドレア・プロスペレッティ賞	ロスティ教授は、複雑流体や粒子流の研究への貢献により、アンドレア・プロスペレッティ賞を受賞しました。		2025年12月1日
3	ロスティユニット(複雑流体・流動ユニット)	マルコ・エドアルド・ロスティ	優秀査読者賞	ロスティ教授は、流体力学分野における査読活動の質と影響力が評価され、優秀査読者賞を受賞しました。	https://promo.aps.org/Reviewer-Excellence?gl=1*125cprk*gcl_au*MjA5Njg4MzI1Mv4xNzU4NzA3MzA0*_ga*NzU5OTczNDU3LjE3NTg3MDczMDQ.*_ga_ZS5V2B2DR1*czE3NTg5MjUyNzAkBzQkZzAkdDE3NTg5MjUvNzAkaYwJGwwjGgxQDQ2NzFvMTM5	2025年12月1日
4	深井ユニット(神経情報・脳計算ユニット)	深井 朋樹	2025年度 日本神経回路学会 最優秀論文賞	深井教授は、日本神経回路学会より2025年度最優秀論文賞を受賞し、神経ネットワーク科学における優れた研究業績が評価されました。		2025年11月20日
5	ペーボユニット(ヒト進化ゲノミクスユニット)	スバンテ・ペーボ	タルトゥ大学から名誉博士号を授与	ペーボ教授は、タルトゥ大学より名誉博士号を授与され、人類進化ゲノミクス研究への顕著な貢献が評価されました。	https://ut.ee/en/content/svante-paabo	2025年11月1日
6	クスヌディノフユニット(錯体化学・触媒ユニット)	ジュリア・クスヌディノフ	トーマス・ハシウェダー賞(研究感謝月間)ポスター発表部門 第1位	クスヌディノフ教授は、トーマス・ハシウェダー賞(研究感謝月間、ポスター発表部門第1位)を受賞し、「Celiteを用いた機械化学的C-H結合のトリフルオロメチル化およびベンタフルオロエチル化」に関する研究の発表と革新性が評価されました。		2025年10月1日
7	ペーボユニット(ヒト進化ゲノミクスユニット)	スバンテ・ペーボ	スヴァンテ・ペーボ氏、2025年ブラッドフォード・ワッシュバーン賞を受賞	ペーボ教授は、2025年度ブラッドフォード・ワッシュバーン賞を受賞しました。本賞は博物館の最高栄誉であり、ネアンデルタール人ゲノムの解読や絶滅したホミニンと現生人類の深い遺伝的つながりの発見など、ヒト進化研究への画期的な貢献が評価されたものです。彼の業績は、新たな研究分野の開拓だけでなく、人間とは何かという理解を科学・歴史・文化の視点から根本的に再構築するものとして高く評価されています	https://www.mos.org/events/2025-bradford-washburn-award	2025年9月1日
8	ラウリーノユニット(タンパク質工学・進化ユニット)	パオラ・ラウリーノ	フォーリング・ウォールズ 生命科学部門 ファイナリスト(世界トップ10)	ラウリーノ教授は、フォーリング・ウォールズ 生命科学部門2025で世界トップ10のファイナリストに選出され、海洋微生物の生存メカニズムに関する研究が評価されました。	https://falling-walls.com/foundation/people/paola-laurino	2025年7月17日
9	北野ユニット(統合オープンシステムユニット)	北野 宏明	日本毒性学会 特別賞(第52回学術年会)	北野教授は、2025年に開催された第52回日本毒性学会年会において特別賞を受賞し、人工知能を活用したシステム毒性学の先駆的開発と推進における貢献が評価されました。		2025年7月3日

No.	研究ユニット	受賞者	賞名等	受賞理由	URL	受賞日
10	新竹ユニット(量子波光学 顕微鏡ユニット)	新竹 積	半導体・オブ・ザ・イヤー2025, 半導体製造装置部門 グランプリ、産業タイムズ社	新竹教授は、産業タイムズ社主催「半導体・オブ・ザ・イヤー2025 半導体製造装置部門 グランプリ」を受賞し、半導体製造技術および次世代デバイス開発への顕著な貢献が評価されました。		2025年6月4日
11	ラウリーノユニット(タンパク質工学・進化ユニット)	パオラ・ラウリーノ	フロンティアズ・プラネット賞 日本優勝者(ナショナル・チャンピオン)	ラウリーノ教授は、フロンティアズ・プラネット賞 2025 日本代表(ナショナル・チャンピオン)に選出され、海洋細菌の超高親和性輸送タンパク質に関する研究が地球規模の健康と持続可能性への貢献として評価されました。	https://www.frontiersplanetprize.org/news/meet-the-frontiers-planet-prize-2025-national-champions-driving-planetary-solutions	2025年4月22日
12	龍見ユニット(微生物・生態系生態学ユニット)	龍見 史恵	UJA論文賞	龍見教授は、UJA論文賞を受賞し、国際的に活動する日本人研究者としての優れた論文業績が評価されました。	https://cheironinitiative.wixsite.com/uja-award/copy-of-2024%E5%B9%B4%E5%8F%97%E8%B3%9E%E8%80%85	2025年4月20日
13	河野ユニット(膜生物学ユニット)	河野 恵子	教員メンタリング優秀賞 受賞	河野教授は、教員メンタリング優秀賞を受賞し、学生や博士研究員、スタッフの成長を支援する包括的なメンタリングへの貢献が評価されました。		2025年4月11日
14	清光ユニット(細胞分裂動態ユニット)	清光 智美	ニコン最優秀JOICO賞	清光ユニット(細胞分裂動態ユニット)に所属する清光智美教授は、ニコン主催の顕微鏡画像コンテストにおいて、清光愛氏と共同で2025年ニコン最優秀JOICO賞(Nikon JOICO Award)を受賞した。本賞は2025年4月1日に公表された。		2025年4月1日
15	ペーボユニット(ヒト進化ゲノミクスユニット)	スバンテ・ペーボ	スヴァンテ・ペーボ氏、2025年にボローニャ科学アカデミー会員に選出	ペーボ教授は、2025年にボローニャ科学アカデミーの会員に選出され、人類進化ゲノミクスへの貢献が評価されました。		2025年4月1日
16	ペーボユニット(ヒト進化ゲノミクスユニット)	スバンテ・ペーボ	スヴァンテ・ペーボ氏、第5回ヒュパティア賞を受賞	ペーボ教授は、第5回ヒュパティア賞を受賞し、絶滅した人類種のゲノム解析における画期的な研究成果が評価されました。	https://www.barcelona.cat/barcelonaciencia/en/actualitat/noticies/barcelona-will-grant-the-5th-hypatia-award-to-biologist-and-geneticist-svante-paabo-1459528	2025年4月1日

受賞実績(研究員・学生)

No.	研究ユニット	受賞者	賞名等	受賞理由	URL	受賞日
1	河野ユニット(膜生物学ユニット)	ラザリ スルハナニ ビンティ	ポスター賞、Geromedicine: Unlock Healthy Longevity Conference、シンガポール	ポストドクトラルスカラー ラザリ スルハナニ ビンティは、シンガポールで開催された Geromedicine: Unlock Healthy Longevity Conference においてポスター賞を受賞しました。	https://geromedicine.sg/	2026年3月2日
2	河野ユニット(膜生物学ユニット)	ラザリ スルハナニ ビンティ	シンガポール国立大学コン・ルー・リン医学校 健康長寿アカデミー 最優秀ポスター展示賞	ポストドク研究員のラザリ スルハナニ ビンティは、シンガポール国立大学コン・ルー・リン医学校 健康長寿アカデミーより最優秀ポスター展示賞を受賞しました。		2026年2月27日
3	テレンツィオユニット(分子神経科学ユニット)	エミリ マリア	感覚ニューロンにおける加齢に伴うATPレベル低下による軸索翻訳障害	博士課程学生 エミリ マリア は、感覚ニューロンにおける加齢に伴うATPレベル低下による軸索翻訳障害 に関する研究で表彰されました。	https://events.faseb.org/event/Phase-Transitions-In-Cellular-Signaling/agenda	2026年1月14日
4	杉山(矢崎)ユニット(臨界期の神経メカニズム研究ユニット)	諸橋 雄一	ポスター賞(KAKENHI変革的脳研究領域(A)「ダイナミックブレイン」助成)	研究ユニット技術者の諸橋雄一は、KAKENHI変革的脳研究領域(A)「ダイナミックブレイン」によりポスター賞を受賞しました。	https://plaza.umin.ac.jp/dynamic-brain/%E7%AC%AC2%E5%9B%9E%E9%A0%98%E5%9F%9F%E4%B%9A%E8%AD%B0-%E5%BC%86-%E3%83%A%E3%83%BC%E3%82%AF%E3%82%B7%E3%83%A	2025年12月9日
5	サラーノユニット(大進化ユニット)	岡部 菜々子	日本古生物学会 学生ポスター賞	博士課程学生の岡部菜々子は、日本古生物学会より学生ポスター賞を受賞しました。	https://www.palaeo-soc-japan.jp/events/PS1175.SatsumasendaiProgram.pdf	2025年12月6日

No.	研究ユニット	受賞者	賞名等	受賞理由	URL	受賞日
6	マイティンガーユニット(細胞増殖・ゲノム編集ユニット)	ハムザ ムハンマド	EMBO分子医学ポスター賞	博士課程学生 ハムザ ムハンマド は、EMBO分子医学ポスター賞を受賞しました。		2025年12月5日
7	ロスティユニット(複雑流体・流動ユニット)	フォッジ ロタ ジュリオ	2024年JFM (Journal of Fluid Mechanics) 若手研究者最優秀論文賞 準優勝	博士課程学生 フォッジ ロタ ジュリオ は、2024年JFM (Journal of Fluid Mechanics) 若手研究者最優秀論文賞 準優勝 に選ばれました。	https://www.cambridge.org/core/journals/journal-of-fluid-mechanics/announcements/prizes-and-awards/emerging-scholar-best-paper-2024	2025年12月1日
8	ロスティユニット(複雑流体・流動ユニット)	小関 森恵	優秀発表若手研究者賞	博士課程学生 小関 森恵 は、優秀発表若手研究者賞を受賞しました。	https://www2.nagare.or.jp/nenkai2025/	2025年12月1日
9	ブーギニオンユニット(進化ゲノムユニット)	萩原 和平	MAMORI:現場での迅速な害虫同定のためのモジュール式農業モニタリング	博士課程学生 萩原 和平 は、MAMORI:現場での迅速な害虫同定のためのモジュール式農業モニタリング で表彰されました。	https://teams.igem.org/5702	2025年11月25日
10	ニコーマックユニット(量子技術のための光・物質相互作用ユニット)	ブラミタ ブラビーン カマトゥ	リサーチアーブリーシエーションマンズ(RAM) ポスター賞	博士課程学生のブラミタ ブラビーン カマトゥは、リサーチアーブリーシエーションマンズ(RAM) の一環としてポスター賞を受賞しました。		2025年10月2日
11	北野ユニット(統合オープンシステムユニット)	城間 博紹	最優秀ポスター賞(ラボラトリー・オートメーション・サブライヤーズ・アソシエーション)	ポスドク研究員である城間裕嗣氏は、ラボラトリー・オートメーション・サブライヤーズ・アソシエーションからベストポスター賞を受賞しました。		2025年9月25日
12	嘉部ユニット(有機光エレクトロニクスユニット)	吉岡 蓮吾	Journal of Photochemistry and Photobiology C: Photochemistry Reviews (Elsevier) における発表賞受賞	博士課程学生 吉岡 蓮吾 は、Journal of Photochemistry and Photobiology C: Photochemistry Reviews (Elsevier) における発表賞を受賞しました。	https://photochemistry.jp/award/gakusei.html	2025年9月6日
13	トゥワムリーユニット(量子マシンユニット)	ハドジェス アレックス ヘンリー	量子光学 XI ポスター賞	博士課程学生アレクサンダー・ハドジェスは、量子光学 XI にてポスター賞を受賞しました。		2025年9月5日
14	エルコウスユニット(ネットワーク型量子デバイスユニット)	チェン カクン	量子イノベーション 2025 若手研究者ポスター発表賞	博士課程学生のチェン・カクンは、量子イノベーション 2025 2025 において若手研究者ポスター発表賞を受賞しました。		2025年9月1日
15	シェンユニット(マイクロ・バイオ・ナノ流体ユニット)	サリヴァン マーク	バイオ電気化学学会 第2回国際ワークショップ 最優秀発表賞	スタッフサイエンティストのサリヴァン マークは、2025年9月24日～26日に開催された第2回バイオ電気化学学会国際ワークショップにおいて、最優秀発表賞を受賞しました。		2025年9月1日
16	杉山(矢崎)ユニット(臨界期の神経メカニズム研究ユニット)	コモロスカ ムラー ヨアンナ	研修生専門能力開発賞	ポスドクトラルスカラー コモロスカ ムラー ヨアンナ は、Trainee Professional Development Awardを受賞しました。		2025年8月23日
17	ラウリーノユニット(タンパク質工学・進化ユニット)	グウチ エイミー スタントン	第15回ヨーロッパ生物物理学会議 (EBSA 2025) ポスター賞(大会議長およびプロテイン学会会長承認)	博士課程学生のグウチ エイミー スタントンは、第15回ヨーロッパ生物物理学会議 (EBSA 2025) においてポスター賞を受賞しました。受賞証明書には大会議長およびプロテイン学会会長の署名が記されています。		2025年7月4日
18	ラスカムユニット(ゲノム・遺伝子制御システム科学ユニット)	プレシ シャルル	第15回国際先端ゲノムワークショップ(東京)ポスター賞	シニアスタッフサイエンティストのプレシ シャルルは、東京で開催された第15回国際先端ゲノムワークショップの運営委員会よりポスター賞を受賞しました。		2025年7月2日
19	バンディユニット(非線形・非平衡物理学ユニット)	フェザストーン ジャック	生物物理学分野におけるポスター賞	博士課程学生 フェザストーン ジャック は、生物物理学分野におけるポスター賞を受賞しました。		2025年7月1日
20	ラウリーノユニット(タンパク質工学・進化ユニット)	普久原 エリカ	プロテイン学会 ポスター賞	博士課程学生の普久原 エリカは、プロテイン学会よりポスター賞を受賞しました。		2025年6月28日
21	河野ユニット(膜生物学ユニット)	ラザリ スルハナニ ビンティ	若手国際細胞老化学会 (yICSA) ストックホルム会議委員会 口頭発表賞	ポスドク研究員のスルハナニ・ビンティ・ラザリは、若手国際細胞老化学会 (yICSA) ストックホルム会議委員会より口頭発表賞を受賞しました。		2025年5月6日
22	ラバシユニット(海洋気候変動ユニット)	尾崎 里佳子	PADIアンバサダイバー2026	博士課程学生 尾崎 里佳子 は、PADI AmbassaDiver 2026 に選ばれました。		2025年4月1日

1. 3-2令和7年度アウトリーチ活動実績

延数	イベント数	日付/Date	プログラム名/参加者	Name of the Event/Visitor	Collaborator Name	研究ユニット/セクション、所属 Unit/Section, Affiliation	内容/Contents	会場/Venue	グループ/ Group	参加者数 Participants number
1	1	2025/04/05	動物はどうやって声を出している？ 息を止めても声が出る！	How Do Animals Make Sound?	Coen Elemans	TSVP Visiting Researcher グリサーチャー	Science Event/科学イベント	OIST	一般 / General Visitors	350
2	2	2025/04/14	お茶の水女子大学附属高等学校(東京都)	Ochanomizu University Senior High School(Tokyo)	Gavrilova Aleksandra	Optical Neuroimaging Unit 光学ニューロイメージングユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	59
3		Maya Agata			Integrative Community Ecology Unit統合 群集生態学ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School		
4		Nicole yap			Marine Eco-Evo-Devo Unit海洋生態進化 発生生物学ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School		
5		Alexandra Berenice Barbosa Gonzalez			Quantum Engineering and Design Unit 量子工学ユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼン テーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School		
6		Yuliya Osika			Nonlinear and Non-equilibrium Physics Unit非線形・非平衡物理学ユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼン テーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School		
7		Olha Sur			Model-Based Evolutionary Genomics Unitモデルベース進化ゲノミクスユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼン テーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School		
8		Sharon Babar			Synapse Biology Unitシナプス生物学ユ ニット	Presentation&Feedback Session/プレゼン テーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School		
9		Muhammad Hamzah			Cell Proliferation and Gene Editing Unit 細胞増殖・ゲノム編集ユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼン テーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School		
10		Arina Mazurova			Evolutionary and Synthetic Biology Unit 進化・合成生物学ユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼン テーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School		
11		Amirhossein Naseri Golestani			Biological Nonlinear Dynamics Data Science Unit生物の非線形力学データサ イエンス研究ユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼン テーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School		
12		Milena Dobronos			Protein Engineering and Evolution Unit タンパク質工学・進化ユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼン テーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School		
13		3			2025/04/17	兵庫県立龍野高等学校	Hyogo Tatsuno High School Visit	Mazurova Arina	Evolutionary and Synthetic Biology Unit 進化・合成生物学ユニッ	
14	Mayuko Suwabe		Marine and Terrestrial Science Section 海洋・陸域科学セクション	Research outline/研究紹介	OIST			県外高校 / High School		
15	Johannes Wibisana		Genomics and Regulatory Systems Unit ゲノム・遺伝子制御システム科学ユニッ ト	Presentation&Feedback Session/プレゼン テーション&フィードバックセッション	OIST			県外高校 / High School		
16	Amirhossein Naseri Golestani		Biological Nonlinear Dynamics Data Science Unit生物の非線形力学データサ イエンス研究ユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼン テーション&フィードバックセッション	OIST			県外高校 / High School		
17	Olha Sur		Model-Based Evolutionary Genomics Unitモデルベース進化ゲノミクスユニッ ト	Presentation&Feedback Session/プレゼン テーション&フィードバックセッション	OIST			県外高校 / High School		
18	4	2025/04/18	沖縄県立開邦中学校	Okinawa Prefectural Kaiho Junior High School	Tara Yuki	Cell Signal Unit 細胞シグナルユニット	Career education/キャリア教育	OIST	県内中学校 / Okinawa Junior High School	79
19	5	2025/04/19	～発見！やんばるから広がる科学の世界～「カガジカン」	KAGAKUJIKAN2025 (Science Week 2025)	Lewis Jake	Environmental Science & Informatics Sec. 環境科学・インフォマティクスセ クション	Science Event/科学イベント	名護博物館	一般 / General Visitors	200
20	6	2025/04/26	名護博物館OIST標本展（4月26日～5月18日開催）	Exhibition at Nago Museum	Suwabe Mayuko	Exhibition of OKEON insect Environmental Science & Informatics Sec. 環境科学・インフォマティクスセ クション	Science Event/科学イベント	名護博物館	一般 / General Visitors	1945
21	7	2025/04/28	恩納村立恩納小学校（沖縄県）	Onna Municipal Onna Elementary School (Okinawa Pref.)	Ryuh Kataoka	Science and Technology Group サイエ ンス・テクノロジー・グループ	Career education/キャリア教育	OIST	県内小学校 / Okinawa Elementary school	90
22					Moriyama Yohsuke	Science and Technology Group サイエ ンス・テクノロジー・グループ	Research outline/研究紹介	OIST	県内小学校 / Okinawa Elementary school	
23	8	2025/05/09	山脇学園高等学校(東京都)	Yamawaki Gakuen High School Visit(Tokyo)	Babar Sharon	Synapse Biology Unit シナプス生物学 ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	32
24		Amirhossein Naseri Golestani			Biological Nonlinear Dynamics Data Science Unit生物の非線形力学データサ イエンス研究ユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼン テーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School		
25		Pranshu Malik			Information Theory, Probability, and Statistics Unit情報理論、確率、統計学ユ ニット	Presentation&Feedback Session/プレゼン テーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School		
26		Kacper Nowak			Quantum Engineering and Design Unit 量子工学ユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼン テーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School		
27		Sharon Babar			Synapse Biology Unitシナプス生物学ユ ニット	Presentation&Feedback Session/プレゼン テーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School		
28		Marcelo Steven Guzman Vallejos			Synapse Biology Unitシナプス生物学ユ ニット	Presentation&Feedback Session/プレゼン テーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School		
29		Mauricio Andres Rios Maciel			Micro/Bio/Nanofluidics Unitマイクロ・ バイオ・ナノ流体ユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼン テーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School		
30		Vera Emelianenko			Evolution, Cell Biology, and Symbiosis Unit進化・細胞・共生の生物学ユニッ ト	Presentation&Feedback Session/プレゼン テーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School		
31		Nivedha Velmurugan			pi-Conjugated Polymers Unit/バイ共役ポ リマーユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼン テーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School		
32		Saswato Sen			Gravity, Quantum Geometry and Field Theory Unit重力、量子幾何と場の理論ユ ニット	Presentation&Feedback Session/プレゼン テーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School		
33		Geoffrey Acoba Garcia			Mechanics and Materials Unit力学と材 料科学ユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼン テーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School		
34		Jiangming Wu			Micro/Bio/Nanofluidics Unitマイクロ・ バイオ・ナノ流体ユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼン テーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School		

延数	イベント数	日付/Date	プログラム名/参加者	Name of the Event/Visitor	Collaborator Name	研究ユニット/セクション、所属 Unit/Section, Affiliation	内容/Contents	会場/Venue	グループ/Group	参加者数 Participants number
35					Pramitha Praveen Kamath	Light-Matter Interactions for Quantum Technologies Unit量子技術のための光・物質相互作用ユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School	
36					Arisa Yokokoji	Micro/Bio/Nanofluidics Unitマイクロ・バイオ・ナノ流体ユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School	
37					Margarita Dronova	Electronic and Quantum Magnetism Unit電子・量子磁性ユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School	
38					Yuto Yokoyama	Micro/Bio/Nanofluidics Unitマイクロ・バイオ・ナノ流体ユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School	
39	9	2025/05/22	The American School in Japan (東京都/高校)	The American School in Japan (Tokyo Metro./High School)	Turkki Tara Helmi	Neuronal Rhythms in Movement Unit神経リズムと運動実行ユニット	Career education/キャリア教育	OIST	県外高校 / High School	16
40	10	2025/05/22			Timothy Ravasi	Marine Climate Change Unit 海洋気候変動ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	
41	11	2025/05/26	トライ式高等学院 小禄キャンパス (沖縄県)	Try Gakuin High School Oroku Campus (Okinawa Pref.)	Paula Andrea Murcia Zambrano	Marine Biophysics Unit 海洋生態物理学ユニット	Career education/キャリア教育	OIST	県外高校 / Okinawa High School	43
42	12	2025/06/06	沖縄県立北山高等学校	Okinawa Prefectural Hokuzan High School	Ilatovskii Daniil	Coordination Chemistry and Catalysis Unit 錯体化学・触媒ユニット	Career education/キャリア教育	OIST	県外高校 / Okinawa High School	25
43	13	2025/06/18	学校法人武蔵学園 西武台高校 (埼玉県)	Seibudai Senior High School, Buyo Gakuen Educational Corporation (Saitama Pref.)	Delacou Clement	Organic and Carbon Nanomaterials Unit有機・炭素ナノ材料ユニット	Career education/キャリア教育	OIST	県外高校 / High School	18
44		2025/06/25			Winaya Aurellia Ramara	Cell Division Dynamics Unit 細胞分裂動態ユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School	
45		2025/06/25			Amirhossein Naseri Golestani	Biological Nonlinear Dynamics Data Science Unit 生物の非線形力学データサイエンス研究ユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School	
46		2025/06/25			Bruna Fernanda Fistorol	Model-Based Evolutionary Genomics Unit モデルベース進化ゲノミクスユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School	
47	14	2025/06/25	清真学園高等学校(茨城県)	Seishin Gakuen High School(Ibaraki Prefecture)	Breno De Moura Calderoni	Experimental Quantum Information Physics Unit 量子情報物理実験ユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School	6
48		2025/06/25			Muhammad Hamzah	Cell Proliferation and Gene Editing Unit細胞増殖・ゲノム編集ユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School	
49		2025/06/25			Yulia Shcherbakova	Microbial and Ecosystem Ecology Unit微生物・生態系生態学ユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School	
50		2025/06/25			Arina Mazurova	Evolutionary and Synthetic Biology Unit進化・合成生物学ユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School	
51					Guan Xi Liu	Organic Optoelectronics Unit有機光エレクトロニクスユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School	
52					Christophe Pin	Light-Matter Interactions for Quantum Technologies Unit量子技術のための光・物質相互作用ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	
53		2025/06/25			Marco Edoardo Rosti	Complex fluids and flows Unit 複雑流体・流動ユニッ	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	
54	15	2025/06/25	恩納村立うんな中学校職場体験	Unna JHS Work Experience Program	Takenouchi Mari	Translation and Interpretation Team 翻訳・通訳チーム	Science program/科学プログラム	OIST	県内中学校 / Okinawa Junior High School	4
55		2025/06/25			Bogna Ada Baliszewska	Strategic Communication Section 戦略コミュニケーションセクション	Science program/科学プログラム	OIST	県内中学校 / Okinawa Junior High School	
56		2025/06/25			David-Michael Orion Peterson	Science and Technology Group サイエンス・テクノロジー・グループ	Science program/科学プログラム	OIST	県内中学校 / Okinawa Junior High School	
57		2025/06/25			Henrique Carlos Oyama	Cognitive Neurorobotics Research Unit認知脳ロボティクス研究ユニット	Science program/科学プログラム	OIST	県内中学校 / Okinawa Junior High School	
58		2025/06/25			Jeffrey Queisser	Cognitive Neurorobotics Research Unit認知脳ロボティクス研究ユニット	Science program/科学プログラム	OIST	県内中学校 / Okinawa Junior High School	
59		2025/07/02			Mitra Amrita	Femtosecond Spectroscopy Unit フェムト秒分光法ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	
60	16	2025/07/02	佐賀県立致遠館高等学校	Saga Prefectural Chienkan High School Visit	Amirhossein Naseri Golestani	Biological Nonlinear Dynamics Data Science Unit 生物の非線形力学データサイエンス研究ユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School	19
61		2025/07/02			Sharon Babar	Synapse Biology Unit シナプス生物学ユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School	
62		2025/07/02			Alexander Henry Hodges	Quantum Machines Unit 量子マシンユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School	
63		2025/07/02			Angela Ares Pita	Technology Development Section 技術開発セクション	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	
64		2025/07/02			Samantha Phan	pi-Conjugated Polymers Unit バイ共役ポリマーユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	
65		2025/07/02			Era Kassa	Experimental Quantum Information Physics Unit 量子情報物理実験ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	
66		2025/07/02			Karim Honein	OIST Innovation Accelerator イノベーションアクセラレーター	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	

延数	イベント数	日付/Date	プログラム名/参加者	Name of the Event/Visitor	Collaborator Name	研究ユニット/セクション、所属 Unit/Section, Affiliation	内容/Contents	会場/Venue	グループ/Group	参加者数 Participants number
67	17	2025/07/02	読谷村立読谷中学校職場体験	Yomitan JHS Work Experience Program	Mizuno Riou	Biodiversity and Biocomplexity Unit 生物多様性・複雑性研究ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県内中学校 / Okinawa Junior High School	5
68					Mari Takenouchi	Translation and Interpretation Team 翻訳・通訳チーム	Career education/キャリア教育	OIST	県内中学校 / Okinawa Junior High School	
69					Julia Nabholz	Child Development Center チャイルドディベロップメントセンター	Career education/キャリア教育	OIST	県内中学校 / Okinawa Junior High School	
70	18	2025/07/08	沖縄県立那覇高等学校	Okinawa Prefectural Naha High School	Robin Troville Cazillac	pi-Conjugated Polymers Unit バイ共役ポリマーユニット	Career education/キャリア教育	OIST	県内高校 / Okinawa High School	12
71	19	2025/07/11	沖縄県立糸満高等学校	Okinawa Prefectural Itoman High School	Perrine Lasserre	Micro/Bio/Nanofluidics Unit マイクロ・バイオ・ナノ流体ユニット	Career education/キャリア教育	OIST	県内高校 / Okinawa High School	160
72	20	2025/07/16	沖縄県立南風原高等学校	Okinawa Prefectural Haeburu High School	Roger Huerlimann	Marine Climate Change Unit 海洋気候変動ユニット	Career education/キャリア教育	OIST	県内高校 / Okinawa High School	30
73	21	2025/07/17	サレジオン国際学園中学校高等学校 (東京都/高校)	Salesian International School Junior and Senior High School (Tokyo Metro./HS)	Ryohei Yoshida	Technology Licensing Section 技術移転セクション	Career education/キャリア教育	OIST	県外高校 / High School	16
74	22	2025/07/18	沖縄県立球陽高等学校	Okinawa Prefectural Kyuyo High School	Oya Shuma	Experimental Quantum Information Physics Unit 量子情報物理実験ユニット	Research outline/研究紹介	球陽高校	県内高校 / Okinawa High School	33
75	23	2025/07/18	沖縄県立名護高等学校	Okinawa Prefectural Nago High School	Ryuhō Kataoka	Science and Technology Group サイエンス・テクノロジーズ・グループ	Career education/キャリア教育	OIST	県内高校 / Okinawa High School	80
76	24	2025/07/22	沖縄県立知念高等学校	Okinawa Prefectural Chinen High School	Yuki Tara	Marine Eco-Evo-Devo Unit 海洋生態進化発生生物学ユニット	Career education/キャリア教育	OIST	県内高校 / Okinawa High School	80
77	25	2025/07/22	沖縄県立読谷高等学校	Okinawa Prefectural Yomitan High School	Tomoya Noma	Nucleic Acid Chemistry and Engineering Unit 核酸化学・工学ユニット	Career education/キャリア教育	OIST	県内高校 / Okinawa High School	78
78	26	2025/07/23	神奈川県立厚木高等学校	Kanagawa Prefectural Atsugi Senior High School	Mitra Amrita	Femtosecond Spectroscopy Unit フェムト秒分光法ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	15
79		2025/07/23			Tatsunosuke Hanano	Femtosecond Spectroscopy Unit フェムト秒分光法ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	
80		2025/07/23			Prajakta Kokate	Femtosecond Spectroscopy Unit フェムト秒分光法ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	
81		2025/07/23			Alexander Henry Hodges	Quantum Machines Unit 量子マシンユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	
82	27	2025/07/28	沖縄県立開邦高等学校	Okinawa Prefectural Kaiho High School	Chinen Riko	Evolution, Cell Biology, and Symbiosis Unit 進化・細胞・共生の生物学ユニット	Research outline/研究紹介	開邦高校	県内高校 / Okinawa High School	240
83					Nonno Hasegawa	Integrative Community Ecology Unit 統合群集生態学ユニット	Research outline/研究紹介	開邦高校	県内高校 / Okinawa High School	
84					Tomoya Noma	Nucleic Acid Chemistry and Engineering Unit 核酸化学・工学ユニット	Research outline/研究紹介	開邦高校	県内高校 / Okinawa High School	
85					Daniel Gutierrez Del Rio	Molecular Cryo-Electron Microscopy Unit 生体分子電子顕微鏡解析ユニット	Research outline/研究紹介	開邦高校	県内高校 / Okinawa High School	
86	28	2025/07/29	沖縄県立向陽高等学校	Okinawa Prefectural Koyo High School	Shuma Oya	Experimental Quantum Information Physics Unit 量子情報物理実験ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県内高校 / Okinawa High School	81
87		2025/07/29			Rikako Ozaki	Marine Climate Change Unit 海洋気候変動ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県内高校 / Okinawa High School	
88		2025/07/29			Geoffrey Acoba Garcia	Mechanics and Materials Unit 力学と材料科学ユニット	Campus Tour/キャンパスツアー	OIST	県内高校 / Okinawa High School	

延数	イベント数	日付/Date	プログラム名/参加者	Name of the Event/Visitor	Collaborator Name	研究ユニット/セクション,所属 Unit/Section, Affiliation	内容/Contents	会場/Venue	グループ/Group	参加者数 Participants number
89		2025/07/29			Aditya Singh	Nonlinear and Non-equilibrium Physics Unit 非線形・非平衡物理学ユニット	Campus Tour/キャンパスツアー	OIST	県内高校 / Okinawa High School	
90	29	2025/08/04	恩納村XOISTこどもかがく教室(8月4日-8月8日開催)	Onna X OIST Children's School of Science (8/4-8/8)	Hitomi Miyazato	Conferences, Workshops and Symposia Section カンファレンス・ワークショップ・シンポジウム セクション	Science Event/科学イベント	恩納村ふれあい体験学習センター	県内小学校 / Okinawa Elementary school	101
91					Elizabeth Speyer	Internal Communications and Events Section インターナルコミュニケーション&イベントセクション	Science Event/科学イベント	恩納村ふれあい体験学習センター	県内小学校 / Okinawa Elementary school	
92					Kate Whitfield	OIST Family Member OISTファミリーメンバー	Science Event/科学イベント	恩納村ふれあい体験学習センター	県内小学校 / Okinawa Elementary school	
93					Ken Maeda	Marine Eco-Evo-Devo Unit海洋生態進化発生生物学ユニット	Science Event/科学イベント	恩納村ふれあい体験学習センター	県内小学校 / Okinawa Elementary school	
94					Marleen Klann	Marine Eco-Evo-Devo Unit海洋生態進化発生生物学ユニット	Science Event/科学イベント	恩納村ふれあい体験学習センター	県内小学校 / Okinawa Elementary school	
95					Rikako Ozaki	Marine Climate Change Unit 海洋気候変動ユニット	Science Event/科学イベント	恩納村ふれあい体験学習センター	県内小学校 / Okinawa Elementary school	
96					Ryosuke Kimbara	Molecular Genetics Unit 分子遺伝学ユニット	Science Event/科学イベント	恩納村ふれあい体験学習センター	県内小学校 / Okinawa Elementary school	
97					Kazuo Mori	Optical Neuroimaging Unit 光学ニューロイメージングユニット	Science Event/科学イベント	恩納村ふれあい体験学習センター	県内小学校 / Okinawa Elementary school	
98					Kohgaku Eguchi	Neuronal Rhythms in Movement Unit 神経活動リズムと運動遂行ユニット	Science Event/科学イベント	恩納村ふれあい体験学習センター	県内小学校 / Okinawa Elementary school	
99					Pablo Sanchez Ocal	Representation Theory and Algebraic Combinatorics Unit 表現論と代数的組合せ論ユニット	Science Event/科学イベント	恩納村ふれあい体験学習センター	県内小学校 / Okinawa Elementary school	
100					Yohsuke Moriyama	Science and Technology Group サイエンス・テクノロジー・グループ	Science Event/科学イベント	恩納村ふれあい体験学習センター	県内小学校 / Okinawa Elementary school	
101					Sarah Morson	Marine and Terrestrial Science Section 海洋・陸域科学セクション	Science Event/科学イベント	恩納村ふれあい体験学習センター	県内小学校 / Okinawa Elementary school	
102					Hiroko Miyahara	Solar-Terrestrial Environment and Climate Unit太陽地球環境・気候ユニット	Science Event/科学イベント	恩納村ふれあい体験学習センター	県内小学校 / Okinawa Elementary school	
103					Ricardo Arturo Lopez de la Cruz	Micro/Bio/Nanofluidics Unitマイクロ・バイオ・ナノ流体ユニット	Science Event/科学イベント	恩納村ふれあい体験学習センター	県内小学校 / Okinawa Elementary school	
104	Saurabh Singh	Quantum Dynamics Unit 量子ダイナミクスユニット	Science Event/科学イベント	恩納村ふれあい体験学習センター	県内小学校 / Okinawa Elementary school					
105	30	2025/08/06	学校法人角川ドワンゴ学園(オンラインスクール)	Kadokawa Dwango(Online School)	Gutierrez Del Rio Daniel	Molecular Cryo-Electron Microscopy Unit 生体分子電子顕微鏡解析ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	31
106					Jianning Chen	Neural Computation Unit神経計算ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	
107					Yuji Kanagawa	Neural Computation Unit神経計算ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	
108					Ryuhō Kataoka	Science and Technology Groupサイエンス・テクノロジー・グループ	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	
109					Kenji Doya	Neural Computation Unit神経計算ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	
110					Sharon Babar	Synapse Biology Unitシナプス生物学ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	
111					Leonardo Tozetto	Marine Structural Biology Unit海洋構造生物学ユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School	
112					Lada Dolezalova	Computational Neuroethology Unit計算行動神経科学ユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School	
113					Arina Mazurova	Evolutionary and Synthetic Biology Unit進化・合成生物学ユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School	
114					Sahar Abdelhay Ali Farrag	Biological Nonlinear Dynamics Data Science Unit生物の非線形力学データサイエンス研究ユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School	
115					Rikako Ozaki	Marine Climate Change Unit海洋気候変動ユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School	
116	Yuliya Osika	Nonlinear and Non-equilibrium Physics Unit非線形・非平衡物理学ユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School					
117	31	2025/08/06	霧が関見学デー	Kasumigaseki Observation Day	Aleksandra Gavrilova	Optical Neuroimaging Unit 光学ニューロイメージングユニット	Science Event/科学イベント	内閣府中央合同庁舎	一般 / General Visitors	100
118	32	2025/08/09	サイエンステックフェス夏	Science Tech Festival in Summer	Suwabe Mayuko	Marine and Terrestrial Science Section 海洋・陸域科学セクション	Science Event/科学イベント	コンベンションセンター	一般 / General Visitors	1500
119					Takumi Uchima	Marine and Terrestrial Science Section 海洋・陸域科学セクション	Science Event/科学イベント	コンベンションセンター	一般 / General Visitors	
120					Ten Fujikawa	Marine and Terrestrial Science Section 海洋・陸域科学セクション	Science Event/科学イベント	コンベンションセンター	一般 / General Visitors	
121					Masako Ogasawara	Marine and Terrestrial Science Section 海洋・陸域科学セクション	Science Event/科学イベント	コンベンションセンター	一般 / General Visitors	
122	33	2025/08/15	子ども科学技術人材育成事業ボトムアップ型プログラム	Bottom-Up Program for Fostering HR in Science and Technology for Children	Yuki Yoshioka	Marine Genomics Unit マリンゲノミクスユニット	Science program/科学プログラム	OIST	その他 / Other	30
123	34	2025/08/18	恩納村XOISTジュニアサイエンスプログラム(8月18日-8月20日開催)	Onna X OIST Junior Science Program (8/18-8/20)	Nicholas Connolly	Quantum Architecture Unit 量子アーキテクチャユニット	Science Event/科学イベント	OIST	県内中学校 / Okinawa Junior High School	8
124					Yayoi Hongo	Evolutionary Neurobiology Unit進化神経生物学ユニット	Science Event/科学イベント	OIST	県内中学校 / Okinawa Junior High School	

延数	イベント数	日付/Date	プログラム名/参加者	Name of the Event/Visiter	Collaborator Name	研究ユニット/セクション、所属 Unit/Section, Affiliation	内容/Contents	会場/Venue	グループ/Group	参加者数 Participants number
125	35	2025/08/20	SHIMA 2025	SHIMA 2025	Rodrigues Jamila	COI-NEXT Fellow COI-NEXT フェロー	Science Event/科学イベント	OIST	県内高校 / Okinawa High School	17
126		Shun Kageyama			Complexity Science and Evolution Unit 複雑性科学と進化ユニット	Science Event/科学イベント	OIST	県内高校 / Okinawa High School		
127		Kyogo Nakao			EF Polymer (OIST Innovation) EFポリマー (OISTイノベーション)	Science Event/科学イベント	OIST	県内高校 / Okinawa High School		
128		Maekawa Christopher Kai			EF polymer Co. EFポリマー株式会社	Science Event/科学イベント	OIST	県内高校 / Okinawa High School		
129		Takeshi Noda			Marine Genomics Unitマリンゲノミクスユニット	Science Event/科学イベント	OIST	県内高校 / Okinawa High School		
130		Kenichiro Arakaki			Integrated Open Systems Unit統合オープンシステムユニット	Science Event/科学イベント	OIST	県内高校 / Okinawa High School		
131	36	2025/08/22	キッズキャンパスツアー	Kids Campus Tour	Ryuhu Kataoka	Science and Technology Group サイエンス・テクノロジー・グループ	Science Event/科学イベント	OIST	県外小学校 / Elementary School	100
132	37	2025/08/27	沖縄県立浦添高等学校	Okinawa Prefectural Urasoe High School	Brian Mitsuki Ishii	Marine Eco-Evo-Devo Unit 海洋生態進化発生生物学ユニット	Career education/キャリア教育	OIST	県内高校 / Okinawa High School	12
133	38	2025/10/01	三重県立四日市高等学校	Mie Prefectural Yokkaichi Senior High School	Shahrabifarahani Zohreh	Light-Matter Interactions for Quantum Technologies Unit 量子技術のための光・物質相互作用ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	12
134		Maya Agata			Integrative Community Ecology Unit統合群集生態学ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School		
135		Eiichi Sakaguchi			Evolution, Cell Biology, and Symbiosis Unit進化・細胞・共生の生物学ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School		
136		Kwan, Khloe Shuk-Ying			pi-Conjugated Polymers Unitパイ共役ポリマーユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School		
137		Arina Mazurova			Evolutionary and Synthetic Biology Unit進化・合成生物学ユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School		
138		Alsu Shagieva			Computational Neuroethology Unit計算行動神経科学ユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School		
139		Taisuke Higuchi			Optical Neuroimaging Unit光学ニューロイメージングユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School		
140	39	2025/10/02	神奈川県立相模高等学校	Kanagawa Prefectural Hakuyo Senior High School	Oya Shuma	Experimental Quantum Information Physics Unit 量子情報物理実験ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	67
141		Akimitsu Narita			Organic and Carbon Nanomaterials Unit有機・炭素ナノ材料ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School		
142		Rikako Ozaki			Marine Climate Change Unit海洋気候変動ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School		
143		Arina Mazurova			Evolutionary and Synthetic Biology Unit進化・合成生物学ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School		
144		Hannah Nonoguchi (Pullen)			Synapse Biology Unitシナプス生物学ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School		
145		Lada Isakova			Evolutionary and Synthetic Biology Unit進化・合成生物学ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School		
146		Yulia Shcherbakova			Microbial and Ecosystem Ecology Unit微生物・生態系生態学ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School		
147		Dmitry Kovalevskiy			Organic Optoelectronics Unit有機光エレクトロニクスユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School		
148		Sharon Babar			Synapse Biology Unit シナプス生物学ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School		
149		Paula Andrea Murcia Zambrano			Marine Biophysics Unit海洋生物物理学ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School		
150		Hong Xin Yue			Marine Eco-Evo-Devo Unit 海洋生態進化発生生物学ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School		
151		Georgii Karelin			Embodied Cognitive Science Unit身体性認知科学ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School		
152		Tsung-Hsuan Hung			Biological Nonlinear Dynamics Data Science Unit生物の非線形力学データサイエンス研究ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School		
153		Irina Korshok			Nonlinear and Non-equilibrium Physics Unit非線形・非平衡物理学ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School		
154		Shagufta Qamar			Evolutionary Neurobiology Unit進化神経生物学ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School		
155		Samuel Cyrus Cure			Biological Complexity Unit生物複雑性ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School		
156		Jiangming WU			Micro/Bio/Nanofluidics Unitマイクロ・バイオ・ナノ流体ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School		
157		Nanako Seki			Evolutionary Genomics Unit進化ゲノミクスユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School		
158		Vera Emelianenko			Evolution, Cell Biology, and Symbiosis Unit進化・細胞・共生の生物学ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School		
159		Shin Sun			Networked Quantum Devices Unitネットワーク型量子デバイスユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School		
160		Saswato Sen			Gravity, Quantum Geometry and Field Theory Unit重力、量子幾何と場の理論ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School		
161	Aditya Singh	Nonlinear and Non-equilibrium Physics Unit非線形・非平衡物理学ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School					
162	40	2025/10/05	OISTサイエンストークシリーズ 「生命の起源」	OIST Science Talk Series "The Origin of Life"	Satoshi Mitarai	Marine Biophysics Unit海洋生物物理学ユニット	Science talk/サイエンストーク	沖縄県立図書館/OK Prefectural Library	一般 / General Visitors	80

延数	イベント数	日付/Date	プログラム名/参加者	Name of the Event/Visitor	Collaborator Name	研究ユニット/セクション、所属 Unit/Section, Affiliation	内容/Contents	会場/Venue	グループ/Group	参加者数 Participants number
163		2025/10/08			Shin Sun	Networked Quantum Devices Unit ネットワーク型量子デバイスユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	
164					Radim Zahradnick	Engineering Section エンジニアリングセクション	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	
165					Alexey Vylegzhanin	Technology Development Section 技術開発セクション	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	
166					Stoffel Janssens	Mechanics and Materials Unit 力学と材料科学ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	
167					Christophe Pin	Light-Matter Interactions for Quantum Technologies Unit 量子技術のための光・物質相互作用ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	
168					Amrita Mitra	Femtosecond Spectroscopy Unit フェムト秒分光法ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	
169					Aditya Singh	Nonlinear and Non-equilibrium Physics Unit 非線形・非平衡物理学ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	
170					Perrine Lasserre	Micro/Bio/Nanofluidics Unit マイクロ・バイオ・ナノ流体ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	
171					Daria Sherstukova	Coordination Chemistry and Catalysis Unit 錯体化学・触媒ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	
172					Dan Kehila	Protein Engineering and Evolution Unit タンパク質工学・進化ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	
173					Tomoya Noma	Nucleic Acid Chemistry and Engineering Unit 核酸化学・工学ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	
174					Daniel Gutierrez Del Rio	Molecular Cryo-Electron Microscopy Unit 生体分子電子顕微鏡解析ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	
175	41		神奈川県立小田原高校	Kanagawa Prefectural Odawara High School	Konstantinos Tsaridis	Computational Neuroethology Unit 計算行動神経科学ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	90
176					Sharon Babar	Synapse Biology Unit シナプス生物学ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	
177					Yumiko Akamine	Neurobiology Research Unit 神経生物学研究ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	
178					Oya Shuma	Experimental Quantum Information Physics Unit 量子情報物理実験ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	
179					Kyoto Kurima	Neurobiology Research Unit 神経生物学研究ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	
180					Alexander Henry Hodges	Quantum Machines Unit 量子マシンユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	
181					Giulio Foggi Rota	Complex fluids and flows Unit 複雑流体・流動ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	
182					Julio Manuel Barros Junior	Fluid Mechanics Unit 流体力学ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	
183					Daria Sherstukova	Coordination Chemistry and Catalysis Unit 錯体化学・触媒ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	
184					Margarita Dronova	Electronic and Quantum Magnetism Unit 電子・量子磁性ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	
185					Erika Fukuhara	Protein Engineering and Evolution Unit タンパク質工学・進化ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	
186					Callum Hudon	Marine Climate Change Unit 海洋気候変動ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	
187					Jan Grašič	Membranology Unit 膜生物学ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	
188					Munissa Sadykova	Plant Epigenetics Unit 植物エピジェネティクスユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	
189	42	2025/10/08	福井県立武生東高等学校	Fukui Prefectural Takefu Higashi Senior High School	Ivana Kurecic	Technology Development Section 技術開発セクション	Career education/キャリア教育	OIST	県外高校 / High School	12
190	43	2025/10/10	広島なぎさ高等学校 (広島県)	Hiroshima Nagisa Senior High School (Hiroshima Pref.)	Mitchell Owen de Vries	Quantum Machines Unit 量子マシンユニット	Career education/キャリア教育	OIST	県外高校 / High School	15
191		2025/10/14			Maekawa Christopher Kai	EF polymer Co. EFポリマー株式会社	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	
192					Kwan, Khloe Shuk-Ying	pi-Conjugated Polymers Unit パイ共役ポリマーユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	
193					Hannah Nonoguchi (Pullen)	Synapse Biology Unit シナプス生物学ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	
194					Lada Isakova	Evolutionary and Synthetic Biology Unit 進化・合成生物学ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	
195					Dmitry Kovalevskiy	Organic Optoelectronics Unit 有機光エレクトロニクスユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	
196					Paula Andrea Murcia Zambrano	Marine Biophysics Unit 海洋生態物理学ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	
197					Taisuke Higuchi	Optical Neuroimaging Unit 光学ニューロイメージングユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	
198					Georgii Karelin	Embodied Cognitive Science Unit 身体性認知科学ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	
199					Nanako Seki	Evolutionary Genomics Unit 進化ゲノミクスユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	
200					Amy Gooch	Protein Engineering and Evolution Unit タンパク質工学・進化ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	
201					Samuel Cyrus Cure	Biological Complexity Unit 生物複雑性ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	
202					Jiangming WU	Micro/Bio/Nanofluidics Unit マイクロ・バイオ・ナノ流体ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	
203					Maya Agata	Integrative Community Ecology Unit 統合群集生態学ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	
204	44		京都府立桃山高等学校	Kyoto Prefectural Momoyama High School	Shin Sun	Networked Quantum Devices Unit ネットワーク型量子デバイスユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	273
205					Nozomi Matsudaira	Molecular Neuroscience Unit 分子神経科学ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	

延数	イベント数	日付/Date	プログラム名/参加者	Name of the Event/Visitor	Collaborator Name	研究ユニット/セクション、所属 Unit/Section, Affiliation	内容/Contents	会場/Venue	グループ/Group	参加者数 Participants number
206					Monte Tan Jia Ying	Organic and Carbon Nanomaterials Unit 有機・炭素ナノ材料ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	
207					Saswato Sen	Gravity, Quantum Geometry and Field Theory Unit 重力、量子幾何と場の理論ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	
208					Arina Mazurova	Evolutionary and Synthetic Biology Unit 進化・合成生物学ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	
209					Yulia Shcherbakova	Microbial and Ecosystem Ecology Unit 微生物・生態系生態学ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	
210					Alsu Shagieva	Computational Neuroethology Unit 計算行動神経科学ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	
211					Aleksandra Gavrilova	Optical Neuroimaging Unit 光学ニューロイメージングユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	
212					Yoshiki Ochiai	Protein Engineering and Evolution Unit タンパク質工学・進化ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	
213					Vera Emelianenko	Evolution, Cell Biology, and Symbiosis Unit 進化・細胞・共生の生物学ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	
214					Rengo Yoshioka	Organic Optoelectronics Unit 有機光エレクトロニクスユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	
215					Alice Register	Professional & Career Development Team プロフェッショナルキャリア開発チーム	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	
216					Shiori Kanemoto	Professional & Career Development Team プロフェッショナルキャリア開発チーム	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	
217					Tobias Hrovat	Biological Design Unit 生物デザインユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	
218					Rengo Yoshioka	Organic Optoelectronics Unit 有機光エレクトロニクスユニット	Campus Tour/キャンパスツアー	OIST	県外高校 / High School	
219	45	2025/10/16	沖縄県立前原高等学校	Okinawa Prefectural Maehara Senior High School	Yutaka Kojima	Computational Neuroethology Unit 計算行動神経科学ユニット	Career education/キャリア教育	OIST	県内高校 / Okinawa High School	40
220		2025/10/22			Okabe Nanako	Marine Eco-Evo-Devo Unit 海洋生態進化発生生物学ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	
221					Riko Chinen	Evolution, Cell Biology, and Symbiosis Unit 進化・細胞・共生の生物学ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	
222					Shin Sun	Networked Quantum Devices Unit ネットワーク型量子デバイスユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School	
223					Jiangming Wu	Micro/Bio/Nanofluidics Unit マイクロ・バイオ・ナノ流体ユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School	
224					Nozomi Matsudaira	Molecular Neuroscience Unit 分子神経科学ユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School	
225					Hania Altabbaa	Light-Matter Interactions for Quantum Technologies Unit 量子技術のための光・物質相互作用ユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School	
226					Steven Jeffrey Marz	Experimental Quantum Information Physics Unit 量子情報物理実験ユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School	
227					Dmitrii Shipkov	Neural Circuit Unit 神経回路ユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School	
228					Georgii Karelin	Embodied Cognitive Science Unit 身体性認知科学ユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School	
229					Milena Dobronos	Protein Engineering and Evolution Unit タンパク質工学・進化ユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School	
230	46		横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校(神奈川県)	Yokohama City Yokohama Science Frontier High School(Kanagawa Prefecture)	Sharada Govinda	Mechanics and Materials Unit 力学と材料科学ユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School	224
231					Jorge Emiliano Herrero	Toledo Patino Group トレドパティノグループ	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School	
232					Fathy Hassan	pi-Conjugated Polymers Unit パイ共役ポリマーユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School	
233					Harry Wilson	Curriculum Development Specialist/Team Leader カリキュラム開発スペシャリスト/チームリーダー	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School	
234					Mohammad Azim Rasuli	Education Coordinator 教育コーディネーター	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School	
235					Sahar Abdelhay Ali Farrag	Biological Nonlinear Dynamics Data Science Unit 生物の非線形力学データサイエンス研究ユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School	
236					Pin-Ju Chou	Computational Neuroethology Unit 計算行動神経科学ユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School	
237					Kishin Inoue	Evolutionary Genomics Unit 進化ゲノミクスユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School	
238					Alexander Henry Hodges	Quantum Machines Unit 量子マシンユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School	
239					Paula Andrea Murcia Zambrano	Marine Physics and Engineering Unit 海洋物理・工学ユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School	
240					Laura Elizabeth Super	Integrative Community Ecology Unit 統合群集生態学ユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School	
241					Heidi Teppola	Optical Neuroimaging Unit 光学ニューロイメージングユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School	
242					Jamila Rodrigues	COI-NEXT Fellow COI-NEXT フェロー	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School	
243	47	2025/10/26	キッズレクチャー「ゾウにいていぬいさつするには？」	Kids Lecture "How to Greet an Elephant"	Ilya Kolmanovsky	TSVP Visiting Researcher ヴィジティングリサーチャー	Science Event/科学イベント	OIST Science Studio	一般 / General Visitors	80

延数	イベント数	日付/Date	プログラム名/参加者	Name of the Event/Visitor	Collaborator Name	研究ユニット/セクション、所属 Unit/Section, Affiliation	内容/Contents	会場/Venue	グループ/Group	参加者数 Participants number
244	48	2025/10/28	金武中学校職業体験（10月28日-29日開催）	Kin Junior High School Work Experience Program (10/28~10/29)	Mari Takenouchi	Translation and Interpretation Team 翻訳・通訳チーム	Science program/科学プログラム	OIST	県内中学校 / Okinawa Junior High School	4
245		Kurato Mohri			Evolutionary Neurobiology Unit 進化神経生物学ユニット	Science program/科学プログラム	OIST	県内中学校 / Okinawa Junior High School		
246		Yumiko Akamine			Neurobiology Research Unit 神経生物学研究ユニット	Science program/科学プログラム	OIST	県内中学校 / Okinawa Junior High School		
247	49	2025/10/30	徳之島町立手々小中学校（鹿児島県／出前授業）	Tokunoshima Municipal Tete Elementary and JHS (Kagoshima Pref./Outreach Class)	Ayşe Haruka Oshima Açıkbaş	Marine Climate Change Unit 海洋気候変動ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外小学校 / Elementary School	7
248	50	2025/10/30	サレジアン学院高等学校（東京都）	Salesian High School (Tokyo Metro.)	Jann Zwahlen	Marine Eco-Evo-Devo Unit 海洋生態進化発生生物学ユニット	Career education/キャリア教育	OIST	県外高校 / High School	52
249	51	2025/10/31	徳之島町立亀津中学校（鹿児島県／出前授業）	Tokunoshima Municipal Kametsu JHS (Kagoshima Pref./Outreach Class)	Ayşe Haruka Oshima Açıkbaş	Marine Climate Change Unit 海洋気候変動ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外中学校 / Junior High School	60
250	52	2025/11/04	福岡県立修猷館高等学校	Fukuoka Prefectural Shuyukan High School	Yuichi Morohashi	Neuronal Mechanism for Critical Period Unit 臨界期の神経メカニズム研究ユニット	Career education/キャリア教育	OIST	県外高校 / High School	46
251	53	2025/11/08	STELLAプログラム	STELLA Program	Stantho Lenard	Model-Based Evolutionary Genomics Unitモデルベース進化ゲノミクスユニット	Science program/科学プログラム	OIST	県内中学校 / Okinawa Junior High School	31
252		Oliver Schick			Model-Based Evolutionary Genomics Unitモデルベース進化ゲノミクスユニット	Science program/科学プログラム	OIST	県内中学校 / Okinawa Junior High School		
253	54	2025/11/08	科学者によるキャリアトークシリーズ No. 1「私が科学者になるまで」	Career Talks by Scientists Series No. 1 "How I Became a Scientist"	Tomonaga Sutashu	Neural Computation Unit 神経計算ユニット	Science Event/科学イベント	OIST Science Studio	一般 / General Visitors	90
254	55	2025/11/20	Okinawa Christian School International（沖縄県／高校）	Okinawa Christian School International (Okinawa Pref./High School)	Masunaga Aki	Genomics and Regulatory Systems Unit ゲノム・遺伝子制御システム科学ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県内高校 / Okinawa High School	24
255	56	2025/11/21	恩納村立恩納小学校（沖縄県／出前授業）	Onna Village Onna Elementary School (Okinawa Pref./Outreach Class)	Toshihiro Kinjo	Marine and Terrestrial Science Section 海洋・陸域科学セクション	Research outline/研究紹介	恩納小学校	県外小学校 / Elementary School	50
256	57	2025/11/28	九州大学学務部学務企画課 QFC-SP (福岡県)	Academic Planning Division, Kyushu University (QFC-SP)(Fukuoka Prefecture)	Koseki Morie	Complex fluids and flows Unit 複雑流体・流動ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	11
257		Yuji Kanagawa			Neural Computation Unit 神経計算ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School		
258		Callum Hudson			Marine Climate Change Unit 海洋気候変動ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School		
259		Arina Mazurova			Evolutionary and Synthetic Biology Unit 進化・合成生物学ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School		
260		Mauricio Andres Rios Maciel			Micro/Bio/Nanofluidics Unit マイクロ・バイオ・ナノ流体ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School		
261		58			2025/11/29	第14回SCORE!	The 14th SCORE!	Ha Lauren	OIST Innovation OISTイノベーション	
262	Amy Shen		Micro/Bio/Nanofluidics Unit マイクロ・バイオ・ナノ流体ユニット	Science Event/科学イベント	OIST			県内高校 / Okinawa High School		
263	59	2025/12/02	市立札幌旭丘高等学校(北海道)	Sapporo Asahigaoka Senior High School(Hokkaido)	Kovalevskiy Dmitry	Organic Optoelectronics Unit 有機光エレクトロニクスユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	16
264		Sharon Babar			Synapse Biology Unit シナプス生物学ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School		
265		Jack Featherstone			Nonlinear and Non-equilibrium Physics Unit 非線形・非平衡物理学ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School		
266		Dmitrii Shipkov			Neural Circuit Unit 神経回路ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School		
267		Aleksandra Gavrilova			Optical Neuroimaging Unit 光学ニューロイメージングユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School		

延数	イベント数	日付/Date	プログラム名/参加者	Name of the Event/Visitor	Collaborator Name	研究ユニット/セクション、所属 Unit/Section, Affiliation	内容/Contents	会場/Venue	グループ/Group	参加者数 Participants number				
268	60	2025/12/05	福岡県立筑紫丘高等学校	Fukuoka Prefectural Chikushigaoka High School	Ricardo Arturo Lopez de la Cruz	Micro/Bio/Nanofluidics Unit マイクロ・バイオ・ナノ流体ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	40				
269	61	2025/12/06	OIST Book club_Vol1	OIST Book club_Vol1	Kataoka Ryuho	Science and Technology Group サイエンス・テクノロジー・グループ	Science Event/科学イベント	OIST Science Studio	県内小学校 / Okinawa Elementary school	30				
270	62	2025/12/09	坂町立坂中学校 (広島県)	Saka Municipal Saka Junior High School (Hiroshima Pref.)	Tomoyuki Mano	Computational Neuroethology Unit 計算行動神経科学ユニット	Career education/キャリア教育	OIST	県外中学校 / Junior High School	97				
271	63	2025/12/10	茗溪学園中学校高等学校 (茨城県)	Meikei Gakuen Junior and Senior High School (Ibaraki Pref.)	Narisoko Haruhi	Marine Genomics Unit マリンゲノミクスユニット	Career education/キャリア教育	OIST	県外高校 / High School	45				
272	64	2025/12/11	長崎県立長崎南高等学校	Nagasaki Minami High School	Babar Sharon	Synapse Biology Unit シナプス生物学ユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School	35				
273		Alsu Shagieva			Computational Neuroethology Unit 計算行動神経科学ユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School						
274		Paula Andrea Murcia Zambrano			Marine Biophysics Unit 海洋生態物理学ユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School						
275		Yui Tateyama			Neural Computation Unit 神経計算ユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School						
276		Taro Yasuhi			Computational Neuroscience Unit 計算脳科学ユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School						
277		Arina Mazurova			Evolutionary and Synthetic Biology Unit 進化・合成生物学ユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School						
278		Lada Isakova			Evolutionary and Synthetic Biology Unit 進化・合成生物学ユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School						
279		65			2025/12/13	学生向けサイエンストークシリーズ「未来をつくる沖縄の科学者たち」	Science Talk Series for Students "Okinawan Scientists who Make the Future"	Tomonaga Sutashu	Neural Computation Unit 神経計算ユニット		Science talk/サイエンストーク	糸満市中央図書館	一般 / General Visitors	65
280	66	2025/12/14	サイエンステックフェス in那覇	Science-Tech Fest in Naha	Gavrilova Aleksandra	Optical Neuroimaging Unit 光学ニューロイメージングユニット	Science Event/科学イベント	サンエー那覇メインプレイス 日時: 12月14日 (日)	一般 / General Visitors	100				
281	67	2025/12/17	鳥取県立米子東高等学校	Tottori Prefectural Yonago Higashi High School	Mizuno Riou	Biodiversity and Biocomplexity Unit 生物多様性・複雑性研究ユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School	26				
282		Lada Isakova			Evolutionary and Synthetic Biology Unit 進化・合成生物学ユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School						
283		Anastasia Belashova			Evolution, Cell Biology, and Symbiosis Unit 進化・細胞・共生の生物学ユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School						
284		Alsu Shagieva			Computational Neuroethology Unit 計算行動神経科学ユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School						
285		Hirokazu Maruoka			Nonlinear and Non-equilibrium Physics Unit 非線形・非平衡物理学ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School						
286		Gideon Sarpong			Neurobiology Research Unit 神経生物学研究ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School						
287		Jack Featherstone			Nonlinear and Non-equilibrium Physics Unit 非線形・非平衡物理学ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School						
288		Yulia Shcherbakova			Microbial and Ecosystem Ecology Unit 微生物・生態系生態学ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School						
289		Dmitriy Sakharuk			Neuronal Rhythms in Movement Unit 神経活動リズムと運動遂行ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School						
290		68			2025/12/18	宮崎県立都城泉ヶ丘高等学校・附属中学校	Miyazaki Prefectural Miyakonojo Izumigaoka High school	Noma Tomoya	Nucleic Acid Chemistry and Engineering Unit 核酸化学・工学ユニット		Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	8
291					Alsu Shagieva			Computational Neuroethology Unit 計算行動神経科学ユニット	Research outline/研究紹介		OIST	県外高校 / High School		
292	Hong Xin Yue		Marine Eco-Evo-Devo Unit 海洋生態進化発生生物学ユニット	Research outline/研究紹介	OIST			県外高校 / High School						
293	Nestor Sequeira Kamath		Biological Complexity Unit 生物複雑性ユニット	Research outline/研究紹介	OIST			県外高校 / High School						
294	Arina Mazurova		Evolutionary and Synthetic Biology Unit 進化・合成生物学ユニット	Research outline/研究紹介	OIST			県外高校 / High School						
295	Shin Sun		Networked Quantum Devices Unit ネットワーク型量子デバイスユニット	Research outline/研究紹介	OIST			県外高校 / High School						
296	Dmitry Kovalevskiy		Organic Optoelectronics Unit 有機光エレクトロニクスユニット	Research outline/研究紹介	OIST			県外高校 / High School						
297	Okay CEM		IT Division	Research outline/研究紹介	OIST			県外高校 / High School						

延数	イベント数	日付/Date	プログラム名/参加者	Name of the Event/Visitor	Collaborator Name	研究ユニット/セクション、所属 Unit/Section, Affiliation	内容/Contents	会場/Venue	グループ/Group	参加者数 Participants number
298	69	2025/12/19	沖縄県立美里高等学校	Okinawa Prefectural Misato High School	Niina Harano	元OISTインターン生 former OIST intern	Career education/キャリア教育	OIST	県内高校 / Okinawa High School	35
299	70	2025/12/20	OISTキッズレクチャー「ちょうちよの目玉もよのひみつ」	OIST Kids lecture "The Evolution of the Butterflies Eyespot Patterns"	Nakayama Naomi	Biological Design Unit 生物デザインユニット	Science Event/科学イベント	OIST Science Studio	一般 / General Visitors	45
300					Antónia Monteiro	TSVP Visiting Researcher	Science Event/科学イベント	OIST Science Studio	一般 / General Visitors	
301	71	2025/12/23	沖縄県立南都商業高等学校	Okinawa Prefectural Nanbu Commercial High School	Moriyama Yohsuke	Science and Technology Group サイエンス・テクノロジー・グループ	Career education/キャリア教育	OIST	県内高校 / Okinawa High School	33
302	72	2026/01/08	神奈川県立新栄高等学校	Kanagawa Prefectural Shinei High School	Yi Huang	Complexity Science and Evolution Unit 複雑性科学と進化ユニット	Career education/キャリア教育	OIST	県外高校 / High School	20
303	73	2026/01/19	宮城県立宮崎西高等学校	Miyazaki Prefectural Miyazaki nishi high school	Liu Chien-chia	Nonlinear and Non-equilibrium Physics Unit非線形・非平衡物理学ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	6
304					Niclas Paul Theo Bornschein		Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション			
305					Arina Mazurova	Evolutionary and Synthetic Biology Unit 進化・合成生物学ユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School	
306					Alexander Henry Hodges	Quantum Machines Unit 量子マシンユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School	
307					Aditya Singh	Nonlinear and Non-equilibrium Physics Unit 非線形・非平衡物理学ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	
308					Hirokazu Maruoka	Nonlinear and Non-equilibrium Physics Unit 非線形・非平衡物理学ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	
309	74	2026/01/24	OIST Book club_Vol2	OIST Book club_Vol2	Aysen Gurkan Ozer	Science Education Team 科学教育チーム	Science Event/科学イベント	OIST Science Studio	県内小学校 / Okinawa Elementary school	11
310	75	2026/01/27	Innovative Festa 高槻高校(大阪府)	Innovative Festa Takatsuki High School (Osaka)	Kacper Nowak	Quantum Engineering and Design Unit 量子工学ユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School	79
311					Arina Mazurova	Evolutionary and Synthetic Biology Unit 進化・合成生物学ユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School	
312					Biswaranjan panda	Quantum Engineering and Design Unit 量子工学ユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School	
313					Sahar Abdelhay Ali Farrag	Biological Nonlinear Dynamics Data Science Unit 生物の非線形力学データサイエンス研究ユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School	
314					Amrita Mitra	Femtosecond Spectroscopy Unit フェムト秒分光学ユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School	
315					Niclas Paul Theo Bornschein	Networked Quantum Devices Unit ネットワーク型量子デバイスユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School	
316					Lusi Harini	Mechanics and Materials Unit 力学と材料科学ユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School	
317					Hong Xin Yue	Marine Eco-Evo-Devo Unit 海洋生態進化発生生物学ユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School	
318					Nozomi Matsudaira	Molecular Neuroscience Unit 分子神経科学ユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School	
319					Wirawat Kokaew	Quantum Systems Unit 量子システム研究ユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School	
320					Marina Chikaraishi	Model-Based Evolutionary Genomics Unitモデルベース進化ゲノミクスユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School	
321					Monte Tan Jia Ying	Organic and Carbon Nanomaterials Unit 有機・炭素ナノ材料ユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School	
322					Nanako Seki	Evolutionary Genomics Unit 進化ゲノミクスユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School	
323					Sharon Babar	Synapse Biology Unit シナプス生物学ユニット	Campus Tour/キャンパスツアー	OIST	県外高校 / High School	
324					Dmitry Kovalevskiy	Organic Optoelectronics Unit 有機光エレクトロニクスユニット	Campus Tour/キャンパスツアー	OIST	県外高校 / High School	
325					Jiangming Wu	Micro/Bio/Nanofluidics Unitマイクロ・バイオ・ナノ流体学ユニット	Campus Tour/キャンパスツアー	OIST	県外高校 / High School	
326					76	2026/01/30	沖縄県立中部農林高等学校	Okinawa Prefectural Chubu Agricultural High School	Takada Kazuma	
327	77	2026/02/04	石川県立七尾高等学校	Ishikawa Prefectural Nanao High School	Yijin Lee	Marine Climate Change Unit 海洋気候変動ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	9
328					Arina Mazurova	Evolutionary and Synthetic Biology Unit 進化・合成生物学ユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School	
329					Niclas Paul Theo Bornschein	Networked Quantum Devices Unit ネットワーク型量子デバイスユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School	
330					Alsu Shagieva	Computational Neuroethology Unit 計算行動神経科学ユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School	
331					Xin Yue Hong	Marine Eco-Evo-Devo Unit 海洋生態進化発生生物学ユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School	
332					Paula Andrea Murcia Zambrano	Marine Biophysics Unit 海洋生体物理学ユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School	
333					Yulia Shcherbakova	Microbial and Ecosystem Ecology Unit 微生物・生態系生態学ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	

延数	イベント数	日付/Date	プログラム名/参加者	Name of the Event/Visitor	Collaborator Name	研究ユニット/セクション、所属 Unit/Section, Affiliation	内容/Contents	会場/Venue	グループ/Group	参加者数 Participants number
334	78	2026/02/06	東京都立立川高等学校	Tokyo Metropolitan Tachikawa High School	Hall Malgorzata	Scientific Imaging Section イメージングセクション	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	8
335	79	2026/02/09	沖縄県立那覇商業高等学校	Okinawa Prefectural Naha Commercial High School	Chen Hsiao-Chian	Marine Eco-Evo-Devo Unit 海洋生態進化発生生物学ユニット	Career education/キャリア教育	OIST	県内高校 / Okinawa High School	44
336	80	2026/02/14	OIST x アポロサイエンス キッズレクチャー「虫たちのかくれた美しさと科学」	OIST x Apollo Science: Discovering the Hidden Beauty and Science of Insects	Aumont Cedric	Evolutionary Genomics Unit 進化ゲノミクスユニット	Science Event/科学イベント	OIST	一般 / General Visitors	450
337					Yi Ming Weng	Evolutionary Genomics Unit 進化ゲノミクスユニット	Science Event/科学イベント	OIST	一般 / General Visitors	
338	81	2026/02/14	OIST x アポロサイエンス展示「アートと虫の美しい世界」2月14日～3月29日実施	OIST x Apollo Science Exhibition "The Wonderful World of Bugs" Held 2/14-3/29	Mayuko Suwabe	Marine and Terrestrial Science Section 海洋・陸域科学セクション	Science Event/科学イベント	OIST	一般 / General Visitors	6239
339	82	2026/02/14	OIST Book club_Vol3	OIST Book club_Vol3	Kataoka Ryuho	Science and Technology Group サイエンス・テクノロジー・グループ	Science Event/科学イベント	OIST Science Studio	県内小学校 / Okinawa Elementary school	20
340	83	2026/02/18	沖縄県立直野湾高等学校	Okinawa Prefectural Ginowan High School	Tomoki Moriya	TSVP Visiting Researcher ヴィジティングリサーチャー	Career education/キャリア教育	OIST	県内高校 / Okinawa High School	47
341	84	2026/02/19	鹿児島市立玉龍高等学校(鹿児島県)	Kagoshima Gyokuryu High School(Kagoshima Prefecture)	Alexander Henry Hodges	Quantum Machines Unit 量子マシンユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	8
342					Niclas Paul Theo Borschein	Networked Quantum Devices Unit ネットワーク型量子デバイスユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School	
343					Hong Xin Yue	Marine Eco-Evo-Devo Unit 海洋生態進化発生生物学ユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School	
344					Monte Tan Jia Ying	Organic and Carbon Nanomaterials Unit 有機・炭素ナノ材料ユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School	
345					Ayman Alashkar	Marine Physics and Engineering Unit 海洋物理・工学ユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School	
346					Hania Altabbaa	Light-Matter Interactions for Quantum Technologies Unit 量子技術のための光・物質相互作用ユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School	
347	85	2026/02/21	HiSci-Lab 2026	HiSci-Lab 2026	Kono Keiko	Membranology Unit 膜生物学ユニット	Science Event/科学イベント	OIST	県内高校 / Okinawa High School	17
348					Samuel Ross	Integrative Community Ecology Unit 統合群衆生態学ユニット	Science Event/科学イベント	OIST	県内高校 / Okinawa High School	
349					Riko Chinen	Evolution, Cell Biology, and Symbiosis Unit 進化・細胞・共生の生物学ユニット	Science Event/科学イベント	OIST	県内高校 / Okinawa High School	
350					Sharon Babar	Synapse Biology Unit シナプス生物学ユニット	Science Event/科学イベント	OIST	県内高校 / Okinawa High School	
351					Shuma Oya	Experimental Quantum Information Physics Unit 量子情報物理実験ユニット	Science Event/科学イベント	OIST	県内高校 / Okinawa High School	
352					Shin Sun	Networked Quantum Devices Unit ネットワーク型量子デバイスユニット	Science Event/科学イベント	OIST	県内高校 / Okinawa High School	
353					Kikuchi Kensei	Evolutionary Genomics Unit 進化ゲノミクスユニット	Research outline/研究紹介	OIST	海外高校 / Overseas High School	
354					Alexander Henry Hodges	Quantum Machines Unit 量子マシンユニット	Research outline/研究紹介	OIST	海外高校 / Overseas High School	
355	Sharon Babar	Synapse Biology Unit シナプス生物学ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	海外高校 / Overseas High School					
356	Shin Sun	Networked Quantum Devices Unit ネットワーク型量子デバイスユニット	Research outline/研究紹介	OIST	海外高校 / Overseas High School					
357	86	2026/02/24	DoDEA Pacific Regional Research Symposium	DoDEA Pacific Regional Research Symposium	Kacper Nowak	Quantum Engineering and Design Unit 量子工学ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	海外高校 / Overseas High School	24
358					Zohreh Shahrbafarahani	Light-Matter Interactions for Quantum Technologies Unit 量子技術のための光・物質相互作用ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	海外高校 / Overseas High School	
359					Higor Alves Iha	Occupational Health and Safety Section 安全衛生セクション	Research outline/研究紹介	OIST	海外高校 / Overseas High School	
360					Christophe Pin	Light-Matter Interactions for Quantum Technologies Unit 量子技術のための光・物質相互作用ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	海外高校 / Overseas High School	
361	87	2026/02/25	恩納村立うんな中学校 (沖縄県)	Onna Municipal Unna Junior High School (Okinawa Pref.)	Tomoki Moriya	TSVP Visiting Researcher	Career education/キャリア教育	OIST	県内中学校 / Okinawa Junior High School	112
362	88	2026/02/27	沖縄AMICUSインターナショナル小学校 (沖縄県/出前授業)	Okinawa AMICUS International Elementary School (Okinawa Pref./Outreach Class)	Yohsuke Moriyama	Science and Technology Group サイエンス・テクノロジー・グループ	Research outline/研究紹介	AMICUS	県外小学校 / Elementary School	40
363	89	2026/03/06	Okinawa Christian School International (沖縄県/高校)	Okinawa Christian School International (Okinawa Pref./High School)	Lada Dolezalova	Computational Neuroethology Unit 計算行動神経科学ユニット	Career education/キャリア教育	OIST	県内高校 / Okinawa High School	23
364	90	2026/03/07	パブリックレクチャー：和音の科学	Public Lecture: The Science of Harmony	Naomichi Hatano	TSVP Visiting Researcher ヴィジティングリサーチャー	Science Event/科学イベント	OIST Science Studio	一般 / General Visitors	55

延数	イベント数	日付/Date	プログラム名/参加者	Name of the Event/Visitor	Collaborator Name	研究ユニット/セクション、所属 Unit/Section, Affiliation	内容/Contents	会場/Venue	グループ/ Group	参加者数 Participants number					
365	91	2026/03/09	神奈川県立鎌倉高等学校	Kanagawa Prefectural Kamakura Senior High School	Ozaki Rikako	Marine Climate Change Unit 海洋気候変動ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	7					
366	92	2026/03/09	福井県立若狭高等学校	Fukui Prefectural Wakasa High School	Kajihara Yuma	Neural Computation Unit 神経計算ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	65					
367					Yuji Kanagawa	Neural Computation Unit 神経計算ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School						
368					Niclas Paul Theo Bornschein	Networked Quantum Devices Unit ネットワーク型量子デバイスユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School						
369					Alsu Shagleva	Computational Neuroethology Unit 計算行動神経科学ユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School						
370					Arina Mazurova	Evolutionary and Synthetic Biology Unit 進化・合成生物学ユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School						
371					Dmitry Kovalevskiy	Organic Optoelectronics Unit 有機光エレクトロニクスユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School						
372					Hania Altabbaa	Light-Matter Interactions for Quantum Technologies Unit 量子技術のための光・物質相互作用ユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School						
373					Xin Yue Hong	Marine Eco-Evo-Devo Unit 海洋生態進化発生生物学ユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School						
374					Shuk Ying Kwan	pi-Conjugated Polymers Unit π共役ポリマーユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School						
375					Paula Andrea Murcia Zambrano	Marine Biophysics Unit 海洋生態物理学ユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School						
376	Johannes Wibisana	Genomics and Regulatory Systems Unit ゲノム・遺伝子制御システム科学ユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School										
377	Mauricio Andres Rios Maciel	Micro/Bio/Nanofluidics Unit マイクロ・バイオ・ナノ流体ユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School										
378	Anastasia Borodina	Evolution, Cell Biology, and Symbiosis Unit 進化・細胞・共生の生物学ユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School										
379	Yiu Wang Jason Tang	Marine Physics and Engineering	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School										
380	Marcelo Steven Guzman Vallejos	Micro/Bio/Nanofluidics Unit マイクロ・バイオ・ナノ流体ユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School										
381	93	2026/03/11	岡山県立津山高等学校	Okayama Prefectural Tsuyama Senior High School	Wiranata Made Benny Prasetya	Geometric Partial Differential Equations Unit 幾何学的偏微分方程式ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School	20					
382					Yulia Shcherbakova	Microbial and Ecosystem Ecology Unit 微生物・生態系生態学ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School						
383					Niclas Paul Theo Bornschein	Networked Quantum Devices Unit ネットワーク型量子デバイスユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School						
384					Jiajun Chen	Networked Quantum Devices Unit ネットワーク型量子デバイスユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School						
385					Marcelo Steven Guzman Vallejos	Synapse Biology Unit シナプス生物学ユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School						
386					Amrita Mitra	Femtosecond Spectroscopy Unit フェムト秒分光学ユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School						
387					Yutei Takahashi	Cell Division Dynamics Unit 細胞分裂動態ユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School						
388					Dmitry Kovalevskiy	Organic Optoelectronics Unit 有機光エレクトロニクスユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School						
389					Amirhossein Naseri Golestani	Biological Nonlinear Dynamics Data Science Unit 生物の非線形力学データサイエンス研究ユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School						
390					Ayman Alashkar	Marine Physics and Engineering Unit 海洋物理・工学ユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School						
391	Aditya Singh	Nonlinear and Non-equilibrium Physics Unit 非線形・非平衡物理学ユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School										
392	Malgorzata Hall	Scientific Imaging Section イメージングセクション	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School										
393	Tomoya Noma	Nucleic Acid Chemistry and Engineering Unit 核酸化学・工学ユニット	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School										
394	94	2026/03/12	恩納村立恩納小学校（沖縄県）	Onna Municipal Elementary School (Okinawa Pref.)	Kataoka Ryuho	Science and Technology Group サイエンス・テクノロジー・グループ	Research outline/研究紹介	OIST	県内小学校 / Okinawa Elementary school	51					
395	95	2026/03/15	PCD OIST公開プレゼンテーションシリーズ：Youは何しにOISTへ？	PCD Student Public Presentation Series: What Brought You To OIST?	Iliia Ryzov	Networked Quantum Devices Unit ネットワーク型量子デバイスユニット	Science Event/科学イベント	OIST Science Studio	一般 / General Visitors	55					
396					Teresa Bosch Tamayo	Micro/Bio/Nanofluidics Unit マイクロ・バイオ・ナノ流体ユニット	Science Event/科学イベント	OIST Science Studio	一般 / General Visitors						
397					Hideaki Kawai	Quantum Engineering and Design Unit 量子工学ユニット	Science Event/科学イベント	OIST Science Studio	一般 / General Visitors						
398					Hania Altabbaa	Light-Matter Interactions for Quantum Technologies Unit 量子技術のための光・物質相互作用ユニット	Science Event/科学イベント	OIST Science Studio	一般 / General Visitors						
399					Made Benny Prasetya Wiranata	Geometric Partial Differential Equations Unit 幾何学的偏微分方程式ユニット	Science Event/科学イベント	OIST Science Studio	一般 / General Visitors						
400					Kaede Kawaguchi	Organic Optoelectronics Unit 有機光エレクトロニクスユニット	Science Event/科学イベント	OIST Science Studio	一般 / General Visitors						
401					Yutei Takahashi	Cell Division Dynamics Unit 細胞分裂動態ユニット	Science Event/科学イベント	OIST Science Studio	一般 / General Visitors						
402					Chiarienco Mirona	Provost office プロボストオフィス	Research outline/研究紹介	OIST	県外高校 / High School						
403					Niclas Paul Theo Bornschein	Networked Quantum Devices Unit ネットワーク型量子デバイスユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School						
404					Arina Mazurova	Evolutionary and Synthetic Biology Unit 進化・合成生物学ユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School						
405	Made Benny	Geometric Partial Differential Equations Unit 幾何学的偏微分方程式ユニット	Presentation&Feedback Session/プレゼンテーション&フィードバックセッション	OIST	県外高校 / High School										
406	96	2026/03/24	真和高等学校(熊本県)	Shinwa High School(Kumamoto Prefecture)	Stephan Suffit	Engineering Section エンジニアリングセクション	Science program/科学プログラム	OIST	県内高校 / Okinawa High School	33					
407					Amy Shen	Micro/Bio/Nanofluidics Unit マイクロ・バイオ・ナノ流体ユニット	Science program/科学プログラム	OIST	県内高校 / Okinawa High School						
408					Mark Sullivan	Micro/Bio/Nanofluidics Unit マイクロ・バイオ・ナノ流体ユニット	Science program/科学プログラム	OIST	県内高校 / Okinawa High School						
409					Jiangming Wu	Micro/Bio/Nanofluidics Unit マイクロ・バイオ・ナノ流体ユニット	Science program/科学プログラム	OIST	県内高校 / Okinawa High School						
410					Ryosuke Kimbara	Molecular Genetics Unit 分子遺伝学ユニット	Science program/科学プログラム	OIST	県内高校 / Okinawa High School						
411					Gustavo Sanchez	Molecular Genetics Unit 分子遺伝学ユニット	Science program/科学プログラム	OIST	県内高校 / Okinawa High School						
412					Lin Zhang	Molecular Genetics Unit 分子遺伝学ユニット	Science program/科学プログラム	OIST	県内高校 / Okinawa High School						
413					97	2026/03/24	第14回SCORE!インターンシップ（3月24日～26日開催）	14th SCORE! Internship (3/24 - 3/26)	Stephan Suffit		Engineering Section エンジニアリングセクション	Science program/科学プログラム	OIST	県内高校 / Okinawa High School	6
407									Amy Shen		Micro/Bio/Nanofluidics Unit マイクロ・バイオ・ナノ流体ユニット	Science program/科学プログラム	OIST	県内高校 / Okinawa High School	
408									Mark Sullivan		Micro/Bio/Nanofluidics Unit マイクロ・バイオ・ナノ流体ユニット	Science program/科学プログラム	OIST	県内高校 / Okinawa High School	
409	Jiangming Wu	Micro/Bio/Nanofluidics Unit マイクロ・バイオ・ナノ流体ユニット	Science program/科学プログラム	OIST					県内高校 / Okinawa High School						
410	Ryosuke Kimbara	Molecular Genetics Unit 分子遺伝学ユニット	Science program/科学プログラム	OIST					県内高校 / Okinawa High School						
411	Gustavo Sanchez	Molecular Genetics Unit 分子遺伝学ユニット	Science program/科学プログラム	OIST					県内高校 / Okinawa High School						
412	Lin Zhang	Molecular Genetics Unit 分子遺伝学ユニット	Science program/科学プログラム	OIST					県内高校 / Okinawa High School						

延数	イベント数	日付/Date	プログラム名/参加者	Name of the Event/Visiter	Collaborator Name	研究ユニット/セクション, 所属 Unit/Section, Affiliation	内容/Contents	会場/Venue	グループ/Group	参加者数 Participants number
413					Amy Stanton Gooch	Protein Engineering and Evolution Unit タンパク質工学・進化ユニット	Science program/科学プログラム	OIST	県内高校 / Okinawa High School	
414					Sutashu Tomonaga	Neural Computation Unit 神経計算ユニット	Science program/科学プログラム	OIST	県内高校 / Okinawa High School	
415					Kyoji Nakao	EF Polymer (OIST Innovation) EFポリマー (OISTイノベーション)	Science program/科学プログラム	OIST	県内高校 / Okinawa High School	

1.4-1 OIST主催によるワークショップ・ミニシンポジウム

令和7年度OIST主催によるワークショップ

開催状況/ 開催形式	開始日	終了日	テーマ	開催場所	参加者数(リ モート参加者 含む)	内、会場参加者	内、リモート参 加者	内、海外参加者 (リモート参加 含む)
1 会場開催	2025年06月06日	2025年06月09日	第12回植物表面微生物学国際シンポジウム ("Phyllosphere 2025")	OISTカンファレンスセンター、メインキャンパス	85	85	0	62
2 会場開催	2025年06月23日	2025年07月10日	OIST計算神経科学コース 2025	OISTシーサイドハウス	42	42	0	26
3 ハイブリッド	2025年07月14日	2025年07月18日	ポテンシャル理論と偏微分方程式の最近の進歩	OISTメインキャンパス、OISTシーサイドハウス	26	24	2	16
4 会場開催	2025年09月22日	2025年10月03日	沖縄物理スクール：QKDから量子インターネットへ	OISTシーサイドハウス	81	81	0	45
5 ハイブリッド	2025年11月10日	2025年11月14日	身体性認知科学国際学会 (ECogS 2025)	OISTメインキャンパス	60	57	3	28
6 会場開催	2026年03月02日	2026年03月05日	細胞分裂周期の新概念：初期発生からガン、老化に至るまで	OISTメインキャンパス	74	74	0	29
合計					368	363	5	206

令和7年度開催のパートナーシップワークショップ

開催状況/ 開催形式	開始日	終了日	テーマ	開催場所	参加者数(リ モート参加者 含む)	内、会場参加者	内、リモート参 加者	内、海外参加者 (リモート参加 含む)
1 ハイブリッド	2025年10月13日	2025年10月17日	QISS研究会『量子座標系』	OISTメインキャンパス	76	71	5	52
2 ハイブリッド	2025年10月25日	2025年11月01日	国際顕足類語問会議 2025 in 沖縄	OISTカンファレンスセンター	283	262	21	212
3 会場開催	2026年03月18日	2026年03月20日	持続可能で強靱な未来の構築：人口問題、健康とジェンダー不平等、経済格差への対応	OISTメインキャンパス	54	54	0	19
合計					413	387	26	283

令和7年度ユニット・AP・TSVP主催によるワークショップ

開催状況/ 開催形式	開始日	終了日	テーマ	開催場所	参加者数(リ モート参加者 含む)	内、会場参加者	内、リモート参 加者	内、海外参加者 (リモート参加 含む)
1 会場開催	2025年04月13日	2025年04月19日	第12回国際ウォルバキア会議	OIST Conference Center	178	178	0	129
2 会場開催	2025年06月16日	2025年06月20日	TSVP Symposium: Aspects of Generalized Symmetries	OIST Main Campus	57	57	0	13
3 ハイブリッド	2025年07月22日	2025年07月25日	TSVP Symposium: Representation Theory and Topological Data Analysis	OIST Main Campus	48	43	5	14
4 ハイブリッド	2025年10月27日	2025年10月27日	MIRAI GCT1 Workshop: "Health and Aging Population"	OIST Main Campus	53	40	13	21
5 ハイブリッド	2025年11月11日	2025年11月11日	Greener Mobility Mid-term Workshop	OIST Main Campus	47	45	2	3
6 会場開催	2025年11月20日	2025年11月21日	OIST x WPI-AIMEC (Tohoku U & JAMSTEC) Joint Workshop "Changing Marine Ecosystems: Biogeography of Habitat Shifts and Adaptation to Oceanographic Variability"	OIST Conference Center & Main Campus	102	102	0	5
7 会場開催	2025年11月20日	2025年11月24日	International Conference on Neural Information Processing (ICONIP) 2025	OIST Conference Center & Main Campus	442	442	0	259
8 会場開催	2025年11月26日	2025年11月26日	JAIST-OIST Joint Symposium "Advanced Science and Technology x Gendered Innovation"	Ishikawa High-Tech Conference Center	65	65	0	2
9 会場開催	2025年12月01日	2025年12月01日	Evolution Seminar - From ancient genomics to modern Biobanks in Japan	OIST Main Campus	45	45	0	1
10 ハイブリッド	2025年12月02日	2025年12月05日	第10回国際知能情報学とバイオメディカル科学会議 (ICIBMS 2025)	OIST Conference Center	108	53	55	81
11 会場開催	2026年01月23日	2026年01月25日	A3 フォーサイトミーティング 沖縄	OIST Conference Center	165	165	0	105
12 ハイブリッド	2026年01月27日	2026年01月27日	OIST-Keio Showcase Talk Series Vol. 9 - Proteins in Focus: Cryo-EM and Structural Frontiers	OIST Main Campus	76	69	7	7
13 ハイブリッド	2026年02月09日	2026年02月13日	Introduction to Isogeny-based Cryptography	OIST Main Campus	45	33	12	25
14 会場開催	2026年03月11日	2026年03月12日	OIST-Keio Showcase Talk Series Vol. 10: Diverse Approaches to Fluid Dynamics	OIST Main Campus	78	78	0	1
15 会場開催	2026年03月18日	2026年03月18日	RIKEN-OIST Workshop for Hybrid Intelligence & Collective Behaviour (HIVE) 2026	OIST Main Campus	38	38	0	2
16 ハイブリッド	2026年03月23日	2026年03月24日	Mirror Lab Symposium: Frontiers in Recent Human Evolution	OIST Main Campus	43	41	2	8
合計					1590	1494	96	676

令和7年度OISTセクション・ユニット主催/共催及びOIST名義上共催学会会議

開催状況/ 開催形式	開始日	終了日	テーマ	開催場所	参加者数 (リ モート参加含 む)	内、会場参加 者	内、リモート 参加者	内、海外参加 者 (リモート 参加含む)
1 会場開催	2025年4月14日	2025年4月14日	Commemorative Event for the Signing of the MoU (Memorandum of Understanding – Collaboration Agreement) between AIST and OIST	OISTメインキャンパス	40	40	0	0
2 会場開催	2025年5月12日	2025年5月13日	Converge 2025	OISTメインキャンパス	84	84	0	21
3 会場開催	2025年6月24日	2025年6月25日	多体励起子と量子位相制御	OISTメインキャンパス	28	28	0	0
4 会場開催	2025年7月2日	2025年7月4日	磁性半導体と非平衡ダイナミクスに関するミニシンポジウム2025	OISTカンファレンスセンター	27	27	0	1
5 ハイブリッド	2025年7月18日	2025年7月18日	Mini scope users meeting	OISTメインキャンパス	21	20	1	3
6 会場開催	2025年7月28日	2025年8月6日	OIST-KEIO International Research Summer Camp 2025	OISTメインキャンパス	84	84	0	0
7 会場開催	2025年8月8日	2025年8月8日	マリンゲノミクスユニットワークショップ2025	OIST Seaside House	30	30	0	4
8 会場開催	2025年8月19日	2025年8月19日	OISTxUTokyo Joint Symposium: Quantum Nexus	東京大学	30	30	0	0
9 ハイブリッド	2025年8月28日	2025年8月29日	戦略的火星探査STEP1火星全カメラ検討会 (ver.3)	OISTメインキャンパス	10	8	2	0
10 ハイブリッド	2025年9月9日	2025年9月9日	ESIワークショップ2025 変わりゆく環境に応える科学～外来種対策・保護区導入・生物多様性モニタリングに関する研究開発～	OISTメインキャンパス	54	46	4	1
11 会場開催	2025年9月26日	2025年9月26日	OIST×JST [Complex Flow] Workshop	OISTメインキャンパス	27	27	0	0
12 会場開催	2025年9月29日	2025年9月30日	OPT九州2025馬出 基礎から学ぶ顕微鏡光学系実習 ～きて、みて、さわって！原理から学ぶ光学顕微鏡～	九州大学	8	8	0	0
13 会場開催	2025年10月8日	2025年10月10日	第2回量子情報工学国際ワークショップ (QIE2025)	OISTシーサイドハウス	58	58	0	8
14 会場開催	2025年10月20日	2025年10月22日	進化生物学分野日本博士課程学生ミーティング2025	OISTメインキャンパス	48	48	0	1
15 会場開催	2025年10月20日	2025年10月20日	第3回 ナノエラストロニクス・ワークショップ	OISTカンファレンスセンター	50	50	0	0
16 会場開催	2025年10月26日	2025年10月29日	GloBIAS Bioimage Analysis Training School 2025	理研神戸	61	61	0	43
17 ハイブリッド	2025年10月30日	2025年11月3日	ADHDのスティグマに対する世界的展望	OISTカンファレンスセンター & メインキャンパス	26	25	1	7
18 ハイブリッド	2025年11月10日	2025年11月10日	古典籍文理融合研究会2025	OISTメインキャンパス	6	4	2	0
19 ハイブリッド	2025年11月12日	2025年11月15日	第28回情報論的学習理論ワークショップ (IBIS2025)	那覇文化芸術劇場なはーと	756	578	178	9
20 ハイブリッド	2025年11月24日	2025年11月24日	公開フォーラム 人とAIの織りなす社会	OISTカンファレンスセンター	204	53	151	13
21 会場開催	2025年11月25日	2025年11月28日	第64回NMR討論会 (2025)	OISTカンファレンスセンター & メインキャンパス	341	341	0	24
22 会場開催	2025年12月4日	2025年12月5日	OIST神経科学シンポジウム	OISTメインキャンパス	106	106	0	0
23 会場開催	2025年12月12日	2025年12月12日	第10回ABIS光学顕微鏡コース	OISTメインキャンパス	14	14	0	0
24 会場開催	2025年12月13日	2025年12月14日	第13回植物イメージングの会	OISTメインキャンパス	37	37	0	0
25 会場開催	2025年12月13日	2025年12月13日	OIST-Keio Showcase Talk Series Vol. 8 "Science Meets Society: Twist, Flow, and Instability"	慶応義塾大学	40	40	0	0
26 会場開催	2025年12月17日	2025年12月19日	第5回 基礎から学ぶ顕微鏡光学系実習 OPT2025岡崎 ～きて、みて、さわって！原理から学ぶ光学顕微鏡～	自然科学研究機構	20	20	0	0
27 ハイブリッド	2026年1月19日	2026年1月23日	N/A	OISTメインキャンパス	40	30	10	2
28 会場開催	2026年1月21日	2026年1月22日	OIST-I2CNER JOINT SYMPOSIUM	OISTメインキャンパス	50	50	0	5
29 ハイブリッド	2026年1月28日	2026年1月30日	クライオ電子顕微鏡コース	OISTメインキャンパス	101	41	60	64
30 会場開催	2026年2月23日	2026年2月23日	協働をデザインする対話 複雑な課題に挑む地域のカー	OISTメインキャンパス	35	35	0	0
31 会場開催	2026年2月25日	2026年2月26日	OIST Science Foresight 2026 - Studio 2	OIST LandNexus	25	25	0	0
32 会場開催	2026年3月3日	2026年3月5日	Biological, Artificial, and Quantum Intelligence 2026 International Workshop (BAQ2026)	ムーンビーチホテル沖縄	30	30	0	6
33 会場開催	2026年3月5日	2026年3月6日	n/a	OISTメインキャンパス	30	30	0	0
34 ハイブリッド	2026年3月9日	2026年3月11日	脳と心のメカニズム第25回冬のワークショップ	ルスツリゾートホテル&コンベンション、北海道	96	86	10	5
35 ハイブリッド	2026年3月13日	2026年3月14日	International Symposium: Unified Theory of Prediction and Action 2026	東京大学	508	170	338	196
36 会場開催	2026年3月16日	2026年3月19日	人間拡張に関する国際会議	OISTカンファレンスセンター & メインキャンパス	289	289	0	56
37 ハイブリッド	2026年3月18日	2026年3月19日	International Symposium of Life-Nonlife Transition: Boundaries Between Life and Nonlife	東京大学	120	60	60	8
38 ハイブリッド	2026年3月20日	2026年3月20日	Neural Computation Workshop 2026 (FY2025)	OISTメインキャンパス	38	34	4	1
合計					3572	2747	821	478

添付資料2. 4-1 職位毎・国籍別教職員数

FY2025 役職別（男女・外国人）_JA

区分	役職名称	定年制				任期制				非常勤				派遣				総計				総計	
		女性	男性	うち 外国人	定年制 集計	女性	男性	うち 外国人	任期制 集計	女性	男性	うち 外国人	非常勤 集計	女性	男性	うち 外国人	派遣 集計	女性	男性	うち 外国人	合計		
Admin	副学長						6	4	6									6	4	4	6	6	
	准副学長		1		1	2	6	4	8									2	7	4	9	9	
	シニアマネジャー		3		3	5	8	2	13									5	11	2	16	16	
	マネジャー	1			1	16	11	6	27									17	11	6	28	28	
	スタッフサイエンティスト						2		2										2			2	2
	アシスタントマネジャー					12	6	3	18									12	6	3	18	18	
	スペシャリスト	1	2		3	41	31	25	72									42	33	25	75	75	
	アドミニストレイティブスタッフ	1			1	151	42	39	193									152	42	39	194	194	
	リサーチユニットアドミニストレーター					62	1	4	63									62	1	4	63	63	
	リサーチサポートリーダー		1		1														1			1	1
	リサーチサポートスペシャリスト					1	6	6	7									1	6	6	7	7	
	情報技術エンジニア						10	7	10											10	7	10	10
	非常勤									3	2	0	5					3	2		5	5	
	派遣職員													62	9	17	71	62	9	17	71	71	
ディーン					1		1	1									1		1	1	1		
Admin 集計		3	7	0	10	291	129	101	420	3	2	0	5	62	9	17	71	359	147	118	506	506	
Rsearch Support Division (RSD)	准副学長						1	1	1										1	1	1	1	
	マネジャー						1	1	1										1	1	1	1	
	アシスタントマネジャー					1	1		2									1	1		2	2	
	スペシャリスト					1			1									1			1	1	
	アドミニストレイティブスタッフ					4	1	1	5									4	1	1	5	5	
	リサーチサポートリーダー	1			1		5	4	5									1	5	4	6	6	
	リサーチサポートスペシャリスト					16	30	29	46									16	30	29	46	46	
	リサーチサポートテクニシャン					2	2	1	4									2	2	1	4	4	
	情報技術リーダー						1		1										1		1	1	
	情報技術エンジニア						3	3	3										3	3	3	3	
	非常勤									3			3					3			3	3	
派遣職員													3	1	2	4	3	1	2	4	4		
RSD 集計		1	0	1	24	45	40	69	3	0	3	3	3	1	2	4	31	46	42	77	77		
RU	教授					10	36	25	46									10	36	25	46	46	
	准教授					10	26	23	36									10	26	23	36	36	
	シニアスタッフサイエンティスト					5	20	11	25									5	20	11	25	25	
	スタッフサイエンティスト					19	71	65	90									19	71	65	90	90	
	ポストドクトラルスカラー					57	152	195	209									57	152	195	209	209	
	サイエンス・テクノロジーアソシエイト					9	8	11	17									9	8	11	17	17	
	リサーチユニットテクニシャン					65	68	78	133									65	68	78	133	133	
	非常勤									12	5	8	17					12	5	8	17	17	
リサーチユニットアドミニストレーター					11			11									11			11	11		
派遣職員													4	1		5	4	1		5	5		
RU 集計				0	186	381	408	567	12	5	8	17	4	1	0	5	202	387	416	589	589		
総計		4	7	0	11	501	555	549	1056	18	7	8	25	69	11	19	80	592	580	576	1172	1172	

	Nationality	Admin	RSD	Research Unit		Total
				(Faculty/Researcher)	(Non Researcher)	
AF	アフガニスタン	1				1
AR	アルゼンチン			1		1
AT	オーストリア	1		2	1	4
AU	オーストラリア	3	2	5	1	11
BD	バングラデシュ		1	3		4
BE	ベルギー			5	1	6
BG	ブルガリア	1		1	1	3
BJ	ベニン			1		1
BR	ブラジル	1		7	1	9
BY	ベラルーシ				1	1
CA	カナダ	5		5	1	11
CH	スイス	1				1
CN	中国	2	1	28	9	40
CO	コロンビア				1	1
CZ	チェコ		1	5	1	7
DE	ドイツ	5		17	2	24
DK	デンマーク	1		1		2
DO	ドミニカ共和国		1			1
DZ	アルジェリア			1		1
EE	エストニア			2		2
EG	エジプト	1		2		3
ES	スペイン	1		11		12
FI	フィンランド		1	4		5
FR	フランス		2	20	3	25
GB	イギリス	11	3	18	6	38
GE	ジョージア			1		1
GH	ガーナ			1		1
GR	ギリシャ			2	1	3
HK	香港					0
HU	ハンガリー	1		2	1	4
ID	インドネシア	1	2	3		6
IE	アイルランド		1	6		7
IL	イスラエル	2	1	3	2	8
IN	インド	3	1	54	4	62
IR	イラン			6	2	8
IT	イタリア		1	15		16
JP	日本	391	35	93	80	599
KR	韓国	2	1	8	2	13
LB	レバノン	1				1
KZ	カザフスタン			1	1	2
LK	スリランカ				1	1
LT	リトアニア			2	1	3
LU	ルクセンブルク			1		1
MA	モロッコ	1		1		2
MG	マダガスカル		1			1
MM	ミャンマー					0
MX	メキシコ	2		6	3	11
MY	マレーシア			4	1	5
NL	オランダ	1	1		1	3
NO	ノルウェー					0
NP	ネパール				1	1
NZ	ニュージーランド	2	1	7		10
PE	ペルー	1		1		2
PH	フィリピン	4	1		2	7
PK	パキスタン			1		1
PL	ポーランド	2		3		5
PT	ポルトガル	1		2	2	5
RO	ルーマニア	1		1	2	4
RU	ロシア連邦	4	4	12	7	27
SA	サウジアラビア	1		1		2
SE	スウェーデン	1	2	1	1	5
SG	シンガポール			2		2
SK	スロバキア			2		2
SV	エルサルバドル			1		1
TH	タイ			2		2
TN	チュニジア		1			1
TR	トルコ	2		2	1	5
TW	台湾	5	3	10	4	22
UA	ウクライナ					0
US	アメリカ	31	7	24	16	78
VE	ベネズエラ			1		1
VN	ベトナム	1		1	1	3
YE	イエメン				1	1
ZA	南アフリカ	1				1
ZM	ザンビア			1		1
ZZ	海外	16	2			18
総計		512	77	423	167	1179

添付資料2. 4-2 職員の給与水準

学校法人沖縄科学技術大学院大学学園(法人番号6360005004186)の役職員の報酬・給与等について

I 役員報酬等について

1 役員報酬についての基本方針に関する事項

① 役員報酬の支給水準の設定についての考え方

国際的に卓越した大学院大学の経営及び教育・研究全体を統括する責任に鑑み、国際水準も考慮した報酬支給水準を設定している。
特に、理事長(学長)については、有為な人材確保に向けた国際競争が厳しい中で、世界最高水準の研究機関における組織管理を行った実績や国際的に高い水準の教授陣を統率し得る研究者、教育者としての人望・実績を有する優れた人材を確保する必要があることから、相応の処遇が必要となる。

② 令和6年度における役員報酬についての業績反映のさせ方(業績給の仕組み及び導入実績を含む。)

常勤役員については、特に必要と認める場合に、特別調整手当を支給することができることとしている。

③ 役員報酬基準の内容及び令和6年度における改定内容

法人の長

1. 役員報酬基準の内容
役員の報酬等は、報酬、特別調整手当、通勤手当、住居手当及び退職手当であり、報酬の額は上限額の範囲内で、また、内閣府と協議の上、それぞれ、理事会において決定する。
2. 令和6年度の改定内容
改定なし。

理事

1. 役員報酬基準の内容
役員の報酬等は、報酬、特別調整手当、通勤手当、住居手当及び退職手当であり、報酬の額は上限額の範囲内で、また、特別調整手当の額は内閣府と協議の上、それぞれ、理事会において決定する。
2. 令和6年度の改定内容
改定なし。

理事(非常勤)

1. 役員報酬基準の内容
非常勤役員の報酬については、その勤務形態を考慮し、職に応じた、理事会において決定する。
2. 令和6年度の改定内容
改定なし。

監事

1. 役員報酬基準の内容
役員の報酬等は、報酬、特別調整手当、通勤手当、住居手当及び退職手当であり、報酬の額は上限額の範囲内で、また、特別調整手当の額は内閣府と協議の上、それぞれ、理事会において決定する。
2. 令和6年度の改定内容
改定なし。

監事(非常勤)

1. 役員報酬基準の内容
非常勤役員の報酬については、その勤務形態を考慮し、職に応じた、理事会において決定する。
2. 令和6年度の改定内容
改定なし。

2 役員の報酬等の支給状況

役名	令和6年度年間報酬等の総額				就任・退任の状況		前職
	支給総額	報酬(給与)	賞与	その他(内容)	就任	退任	
法人の長	千円 60,024	千円 30,000	千円	千円 30,024 <small>(通勤特別調整手当)</small>			
A理事	千円 23,154	千円 20,000	千円	千円 3,154 <small>(通勤特別調整手当)</small>			※※
B理事 (非常勤)	千円 1,163	千円	千円	千円 ()		12月20日	※
C理事 (非常勤)	千円 1,380	千円	千円	千円 ()			
D理事 (非常勤)	千円 1,380	千円	千円	千円 ()			
E理事 (非常勤)	千円 980	千円	千円	千円 ()			
F理事 (非常勤)	千円 1,380	千円	千円	千円 ()			
G理事 (非常勤)	千円 980	千円	千円	千円 ()			
H理事 (非常勤)	千円 580	千円	千円	千円 ()			
I理事 (非常勤)	千円 1,380	千円	千円	千円 ()			
J理事 (非常勤)	千円 900	千円	千円	千円 ()			
K理事 (非常勤)	千円 980	千円	千円	千円 ()			
L理事 (非常勤)	千円 1,380	千円	千円	千円 ()			
M理事 (非常勤)	千円 1,380	千円	千円	千円 ()			
N理事 (非常勤)	千円 980	千円	千円	千円 ()			※
O理事 (非常勤)	千円 1,380	千円	千円	千円 ()			
P理事 (非常勤)	千円 1,300	千円	千円	千円 ()			
A監事	千円 14,189	千円 14,189	千円	千円 ()			◇
B監事 (非常勤)	千円 3,400	千円 3,400	千円	千円 ()			
C監事 (非常勤)	千円 3,400	千円 3,400	千円	千円 ()			

注1:「その他」欄には手当等が支給されている場合は、例えば通勤手当の総額を記入する。

注2:「前職」欄には、役員の前職の種類別に以下の記号を付す。

退職公務員「*」、役員出向者「◇」、独立行政法人等の退職者「※」、退職公務員でその後独立行政法人等の退職者「※※」、該当がない場合は空欄

3 役員の報酬水準の妥当性について

【法人の検証結果】

法人の長

国際的に卓越した大学院大学の経営及び教育・研究全体を統括する責任の重大性・職務の困難度、過去の実績、国際的水準に照らし妥当である。

理事

国際的に卓越した大学院大学の経営及び教育・研究全体を統括する責任の重大性・職務の困難度、過去の実績、国際的水準に照らし妥当である。

理事(非常勤)

国際的に卓越した大学院大学の経営及び教育・研究全体を統括する責任の重大性、ノーベル賞受賞者等その識見に照らし妥当である。

監事

国際的に卓越した大学院大学の監査業務の責任の重大性・職務の困難度に照らし妥当である。

監事(非常勤)

国際的に卓越した大学院大学の監査業務の責任の重大性・職務の困難度に照らし妥当である。

【主務大臣の検証結果】

沖縄科学技術大学院大学(OIST)は、重要な科学論文のランキングにおいて世界第9位・国内トップの評価を得るとともに、ノーベル生理学・医学賞受賞者を生んだほか、スタートアップ支援においても着実に成果を挙げている。

令和6年度においては、他大学や地元企業・経済団体等との連携を強化し、社会課題解決に向けた研究を推進するとともに、「地域中核大学イノベーション創出環境事業」を始めとした外部資金調達額・割合の大幅拡大による財政基盤の強化を図るなど、国際的に卓越した科学技術に関する教育研究を行うというOISTの目的実現のための取組、基盤整備を図っているものと評価することができる。

このような状況を踏まえると、大学院大学の経営及び教育・研究全体を統括する役員の報酬水準は、国際的水準との均衡等から見ても、妥当なものと考えられる。

4 役員の退職手当の支給状況(令和6年度中に退職手当を支給された退職者の状況)

区分	支給額(総額)	法人での在職期間		退職年月日	業績勘案率	前職
	千円	年	月			
法人の長	該当者なし					

注:「前職」欄には、退職者の役員時の前職の種類別に以下の記号を付す。
退職公務員「*」、役員出向者「◇」、独立行政法人等の退職者「※」、退職公務員でその後独立行政法人等の退職者「*※」、該当がない場合は空欄

5 退職手当の水準の妥当性について

【主務大臣の判断理由等】

区分	判断理由
法人の長	該当者なし
理事	該当者なし
監事	該当者なし

注:「判断理由」欄には、法人の業績、担当業務の業績及び個人的な業績の検討結果を含め、業績勘案率及び退職手当支給額の決定に到った理由等を具体的に記入する。

6 業績給の仕組み及び導入に関する考え方

(特に必要なと認める場合に、特別調整手当を支給することができる仕組みを導入済みである。今後もこの仕組みを継続する。)

II 職員給与について

1 職員給与についての基本方針に関する事項

① 職員給与の支給水準の設定等についての考え方

沖縄科学技術大学院大学(OIST)は、教員の約6割、学生の約8割が外国人という国際的な大学であることから、職員は、原則としてビジネスレベルの英語力が不可欠であり、こうした能力を前提にした上で、職種毎に、国家公務員や国内外の大学・研究機関等の給与水準の動向等を踏まえた適切な年俸範囲を定め、その範囲内で個々の業績を反映させた給与水準を決定している。
特に、研究部門においては、職員が有する専門的な知見をいかし、世界的に最高水準の研究者に対する研究管理や支援・評価を行うことができる者が求められており、国際競争が激しい中で、優れた人材を確保する必要があることから、相応の処遇が必要となる。

② 職員の発揮した能率又は職員の勤務成績の給与への反映方法についての考え方(業績給の仕組み及び導入実績を含む。)

教員、事務職員等の職種の特性に応じた業績評価制度を導入し、公平性と透明性に配慮しつつ適切に実施し、評価の結果について個々の給与に反映させている。

③ 給与制度の内容

給与の種類:年俸、超過勤務手当、その他の手当(通勤、住居手当等)
給与体系:年俸制(職種(教員、研究者、事務スタッフ等)と職層に基づく給与レンジを設定)

④ 給与制度の令和6年度における主な改定内容

なし

2 職員給与の支給状況

① 職種別支給状況

区分	人員	平均年齢	令和5年度の年間給与額(平均)			
			総額	うち所定内		うち賞与
				うち通勤手当		
常勤職員	9	54.3	10,850	10,850	161	0
事務・技術	9	54.3	10,850	10,850	161	0
研究職種	-	-	-	-	-	-

任期付職員	731	44.0	7,845	7,845	82	0
教員	73	51.8	19,531	19,531	30	0
事務・技術	399	44.9	6,295	6,295	110	0
研究職種	259	40.3	6,940	6,940	53	0

在外職員						
------	--	--	--	--	--	--

注1:常勤職員については、在外職員を除く。

注2:常勤職員、任期付職員の該当者がいない職種については記載を省略。

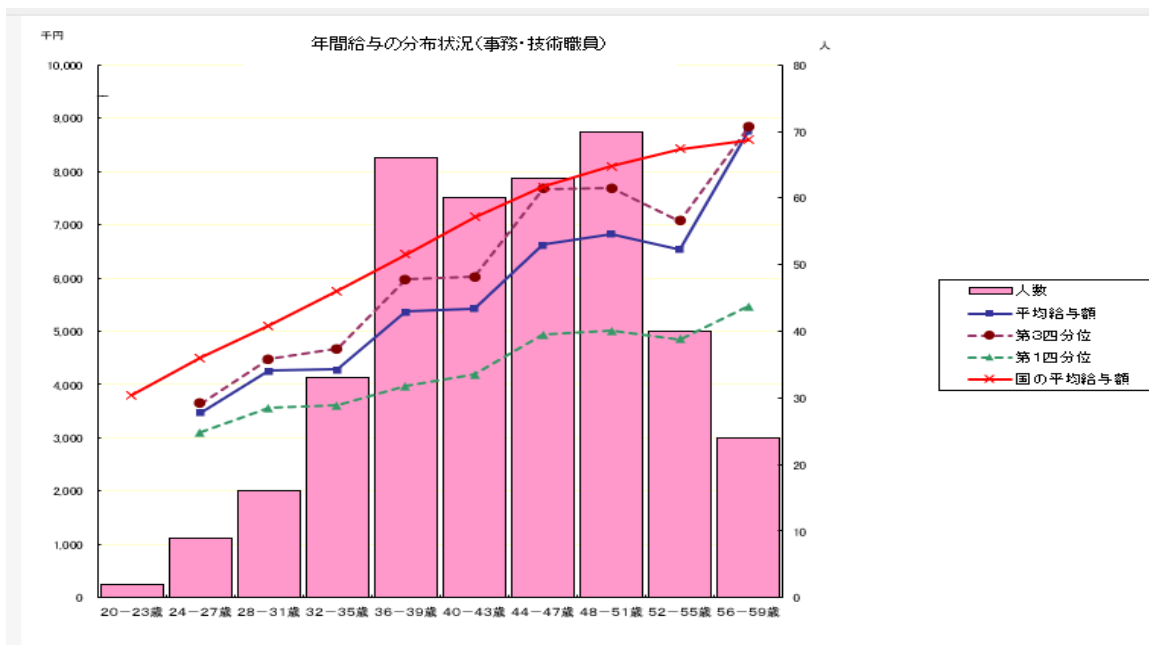
注3:再任用職員及び非常勤職員は該当者がいないため記載を省略。

注4:常勤職員、任期付職員は全て年俸制適用者である。

注5:在外職員とは海外拠点の年俸制適用者である。

注6:該当者が2人以下の場合、当該個人に関する情報が特定されるおそれがあることから、区分以外は省略。全体の数値からも除外。

② 年齢別年間給与の分布状況(事務・技術職員)〔在外職員を除く。以下、④まで同じ。〕



注1:①の年間給与額から通勤手当を除いた状況である。以下、④まで同じ。

注2:【20-23】の年齢層において、2名以下であることから第1・第3四分位・平均給与額を示す点を表示しない。

③ 職位別年間給与の分布状況(事務・技術職員)
(事務・技術職員)

分布状況を示すグループ	人員	平均年齢	年間給与額	
			平均	最高～最低
	人	歳	千円	千円
部長相当	30	52.5	15,173	40,313 ～ 9,720
課長相当	40	49.0	8,953	15,891 ～ 6,832
課長補佐相当	63	48.1	6,890	10,401～ 4,437
主任相当	134	46.0	5,440	7,973 ～ 3,937
係員	141	40.4	4,167	9,084 ～ 2,768

④ 賞与(該当なし)

区分		夏季(○月)	冬季(○月)	計
管理職員	一律支給分(期末相当)	%	%	%
	査定支給分(勤勉相当) (平均)	%	%	%
	最高～最低	～	～	～
一般職員	一律支給分(期末相当)	%	%	%
	査定支給分(勤勉相当) (平均)	%	%	%
	最高～最低	～	～	～

3 給与水準の妥当性の検証等

○事務・技術職員

項目	内容
対国家公務員 指数の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢勘案 82.8 ・年齢・地域勘案 92.8 ・年齢・学歴勘案 81.5 ・年齢・地域・学歴勘案 91.7
国に比べて給与水準が 高くなっている理由	特になし。
給与水準の妥当性の 検証	<p>(法人の検証結果) 年齢勘案で、令和5年度83.6、令和6年度82.8と対国家公務員指数は100以下となっている。これまで講じてきた給与水準の引下げに向けた種々の取組により、給与水準の適正化が図られている。</p> <p>(主務大臣の検証結果) 沖縄科学技術大学院大学(OIST)は、教員の約6割、学生の約8割が外国人という国際的な環境の下、世界最高水準の教育研究を行っており、このような研究者の支援を担う事務職員については、高い語学力を前提に、科学技術に関する幅広い知見も併せ有することが求められており、こうした人材を沖縄県内に留まらず、国内及び世界各地から確保するためには、相応の処遇が必要であると考えられる。 こうした状況にあっても、給与水準の適正化が図られてきた結果、対国家公務員指数については、おおむね妥当な水準といえる。 今後とも、有為な人材確保に向けた国際競争が厳しい中で、優れた人材の確保が図られるよう留意しつつ、給与水準が適正なものとなるよう、引き続き注視していく。</p>
講ずる措置	<p>今後とも引き続き、</p> <ul style="list-style-type: none"> ①能力に遜色がない場合は、中堅・若年層を計画的に採用 ②業務評価を徹底し、昇給反映の厳格化 <p>を行うことで適切な給与水準を保つ。</p>

4 モデル給与

注:年俸制のみのため、記載を省略

5 業績給の仕組み及び導入に関する考え方

教員、事務職員等の職種の特性に応じた業績評価制度を導入し、公平性と透明性に留意しつつ適切に実施し、評価の結果について個々の給与に反映させる。今後もこの仕組みを継続する。

Ⅲ 総人件費について

区 分	前年度 (令和5年度)	当年度 (令和6年度)
給与、報酬等支給総額 (A)	千円 7,884,563	千円 8,378,545
退職手当支給額 (B)	千円 25,227	千円 -
非常勤役員等給与 (C)	千円 65,024	千円 56,135
福利厚生費 (D)	千円 909,682	千円 967,992
最広義人件費 (A+B+C+D)	千円 8,884,496	千円 9,402,672

総人件費について参考となる事項

・沖縄科学技術大学院大学(OIST)においては、国際的に卓越した教育研究を行っており、有為な人材確保に向けた国際競争が厳しい中で、優れた人材を確保する必要があることから、相応の処遇が必要となる。

・「国家公務員の退職手当の支給水準引下げ等について」(平成24年8月7日閣議決定)を踏まえ、役職員の退職手当について、平成25年4月1日から、国家公務員の退職手当の改正に準じて、退職手当の算定額に調整率(平成25年10月から平成26年6月まで92/100、平成26年7月以降は87/100)を乗じた額を支給することにより減額し、平成30年1月以降は、平成29年11月17日閣議決定に基づき、さらに83.7/100へ引き下げた。

・令和6年度における総人件費の増加は、職員数等の増加及び福利厚生費の増加に伴うもの。

Ⅳ 定年制度及び60歳以上の職員の給与制度

定 年
教 員：70歳 役職定年無
研究職種：65歳 役職定年無
事務・技術：65歳 役職定年無

Ⅴ その他

特になし。

2. 4-3 研修の受講職員数

令和7年度（FY2025） 研修実績・HR

2025.3.31時点

区分 Training Category	コース名 Course Name	実施方法 Method	実施回数 # of times	参加人数 # of participation
管理職研修 Management Development	採用面接とオンボーディング、試用期間と目標設定 Finding the best people for your team and Setting your people up for success	対面 In person	4	41
	人事評価と勤怠記録管理 Performance Review and Attendance management	対面 In person	4	39
Total			8	80

For-T (Forty-Hour Learning Target) FY2025	対象者数（休職中、年度途中の退職者を除く） # of subjects (excl. employees on leave and resigned during the year)	平均学習時間 Ave. hours of study	学習時間達成率 Archived Rate	目標達成者数 # of employees archived target
	567	11.7	9.5%	54

LinkedIn Learning	登録者数 # of registered users	ログインユーザー # of logged-in users	ログイン率 Login rate	平均視聴時間(分) Average viewing time (min.)
エンゲージメント Engagement	636	191	30%	175

※FY2023より、新入職員オリエンテーションは全てオンライン化
"All new employee orientations in FY2023 have been conducted online."

令和7年度 セミナー・会議・コース

セミナー・会議・コース	対象者（記入例：アドミ、研究者、業者等）	参加人数	登壇者（発表言語）	開催日
KAKENHI Clinic1	研究者	27	清光教授・酒井宏教授（筑波大）杉原忠（国内外研究資金セッション）（英語）	2025/8/5
KAKENHI Clinic2 Day1	研究者	5	酒井宏教授（筑波大）・Spyros GOULAS教授(京都大)・杉原忠（国内外研究資金セッション）（英語）	2025/8/28
KAKENHI Clinic2 Day2	研究者	6	酒井宏教授（筑波大）・Spyros GOULAS教授(京都大)・杉原忠（国内外研究資金セッション）（英語）	2025/8/29
HFSP Seminar	ファカルティ、研究者	27	藤松佳晃・吉田裕美（国際外部研究資金セッション）、酒井宏教授（筑波大）	2025/12/18
科研費説明会（新規採択者向け）	アドミ、研究者	17	藤松佳晃（国際外部研究資金セッション）、上原若菜（国内外研究資金セッション）	2026/3/19

科研費支援セッション

内容	対象	参加者	担当	開催日
科研費交付申請	研究者	4	天願、小橋川	2025/4/3
科研費交付申請	研究者	7	天願、小橋川	2025/4/4
科研費交付申請	研究者	2	天願、小橋川	2025/4/5
実績報告/成果報告	研究者	1	天願、小橋川	2025/4/30
科研費交付申請（第2回 特別研究員奨励費）	学生	1	天願、小橋川	2025/5/7
科研費応募支援	研究者	12	山野、小橋川、杉原	2025/9/2
科研費応募支援	研究者	19	山野、小橋川、杉原、井上、藤松	2025/9/3
科研費支払請求	アドミ、研究者	5	上原	2026/2/12
科研費支払請求	アドミ、研究者	7	上原	2026/2/13

FY2025 Seminar/Meeting/Course

Seminar/Meeting/Course	Participants (e.g. admin staff, researchers, venders etc.)	# of participants	Speaker (language)	Date
KAKENHI Clinic1 Day1	Researchers	27	Prof. Kiyomitsu・Prof. Ko Sakai (U Tsukuba) & Tadashi Sugihara (Grants) (English)	2025/8/5
KAKENHI Clinic2 Day1	Researchers	5	Prof. Ko SAKAI (U Tsukuba), Prof. Spyros GOULAS(Kyoto U) &Tadashi Sugihara (Grants) (English)	2025/8/28
KAKENHI Clinic2 Day2	Researchers	6	Prof. Ko SAKAI (U Tsukuba), Prof. Spyros GOULAS(Kyoto U) &Tadashi Sugihara (Grants) (English)	2025/8/29
HFSP Seminar	Faculty and researchers	27	Prof. Ko SAKAI (U Tsukuba), Yoshiteru Fujimatsu・Hiromi Yoshida (International Grants Section)	2025/12/18
KAKENHI Explanatory Session for New Awardees	Admin staff, researchers	17	Yoshiteru Fujimatsu (International Grants Section), Wakana Uehara (Domestic Grants Section)	2026/3/19

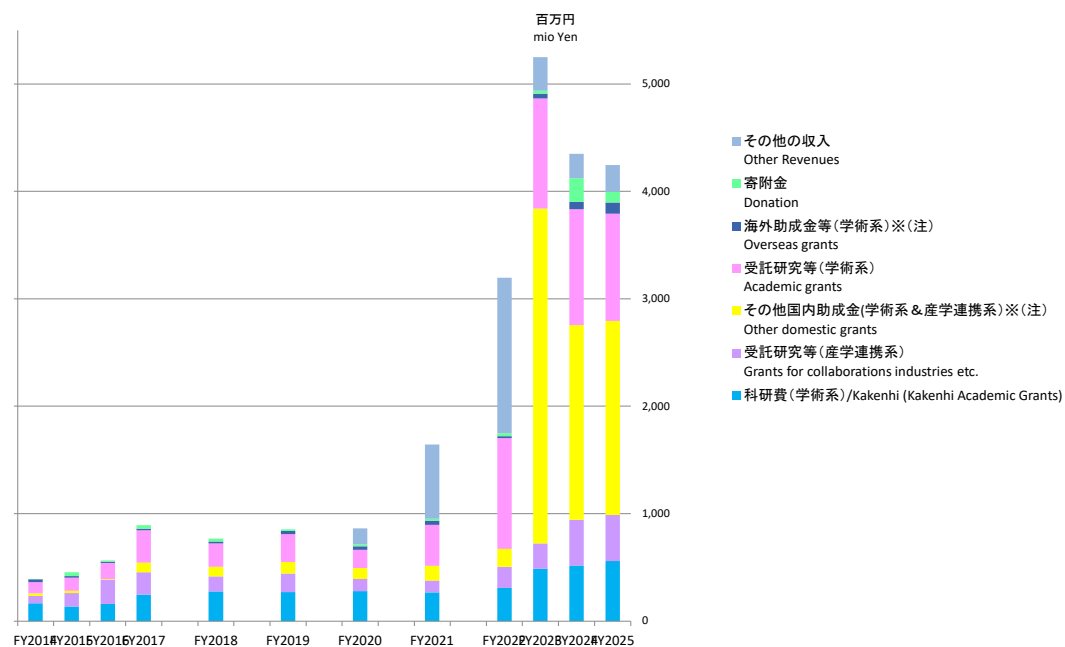
KAKENHI Support Session

Content	Participants	# of participants	Person in Charge	Date
Payment Request	Researchers	4	Tengan, Kobashigawa	2025/4/3
Payment Request	Researchers	7	Tengan, Kobashigawa	2025/4/4
Payment Request	Researchers	2	Tengan, Kobashigawa	2025/4/5
Annual Report/Final Report	Researchers	1	Tengan, Kobashigawa	2025/4/30
Payment Request (2nd KAKENHI for JSPS Fellows)	Researchers	1	Tengan, Kobashigawa	2025/5/7
FY2026 Application	Researchers	12	Yamano, Kobashigawa, Sugihara	2025/9/2
FY2026 Application	Researchers	19	Yamano, Kobashigawa, Sugihara, Inoue, Fujimatsu	2025/9/3
Payment Request	Admin staff, researchers	5	Uehara	2026/2/12
Payment Request	Admin staff, researchers	7	Uehara	2026/2/13

3. 1-1 Acquisition of External Funding (as of March 31, 2026)/外部資金・寄付金獲得状況

分類 Category	FY2014		FY2015		FY2016		FY2017		FY2018		FY2019		FY2020		FY2021		FY2022		FY2023		FY2024		FY2025	
	Amount	#	Amount	#	Amount	#	Amount	#	Amount	#	Amount	#	Amount	#	Amount	#	Amount	#	Amount	#	Amount	#	Amount	#
科研費（学術系）/Kakenhi (Kakenhi Academic Grants)	165,266,341	54	137,160,016	47	158,517,697	56	245,254,159	86	276,201,309	109	270,013,444	122	279,366,196	126	266,250,000	127	308,720,377	136	487,142,951	165	518,790,000	164	560,636,760	191
受託研究等（産学連携系） Grants for collaborations industries etc.	69,994,690	10	124,337,784	10	227,151,400	18	210,513,791	20	140,701,256	21	173,956,670	17	113,827,496	14	110,444,030	17	197,708,273	23	234,896,880	41	425,686,349	56	428,864,178	56
その他国内助成金(学術系&産学連携系)※(注) Other domestic grants	22,635,500	11	20,989,419	6	7,116,234	10	87,587,000	37	87,523,000	48	105,620,345	55	100,231,726	40	137,844,000	54	165,102,058	79	3,118,488,100	67	1,810,582,000	59	1,802,982,815	80
受託研究等（学術系） Academic grants	104,967,000	5	120,758,500	7	149,131,000	6	302,781,001	10	217,504,200	10	258,767,900	13	169,562,500	21	379,884,880	27	1,031,706,842	26	1,024,100,792	30	1,078,901,602	34	999,321,042	46
海外助成金等（学術系）※(注) Overseas grants	27,166,059	3	16,015,264	3	11,916,945	1	13,335,884	2	18,395,330	4	30,798,406	4	33,552,811	6	39,242,711	11	18,926,962	7	43,750,345	10	68,878,956	18	105,826,814	21
寄附金 Donation	1,075,960	7	36,417,498	13	10,644,779	13	34,747,672	27	28,227,199	24	15,975,729	39	18,407,587	54	18,048,052	102	24,433,551	62	28,217,555	47	220,592,485	190	101,262,616	38
その他の収入 Other Revenues													149,222,149	8	691,980,599	6	1,448,700,027	16	311,205,760	29	226,691,775	39	246,968,605	39
	391,105,550		455,678,481		564,478,055		894,219,507		768,552,294		855,132,494		864,170,465		1,643,694,272		3,195,298,090		5,247,802,383		4,350,123,167		4,245,862,830	

※(注) FY2017以降はフェローシップの金額を含む Fellowship is included from FY2017

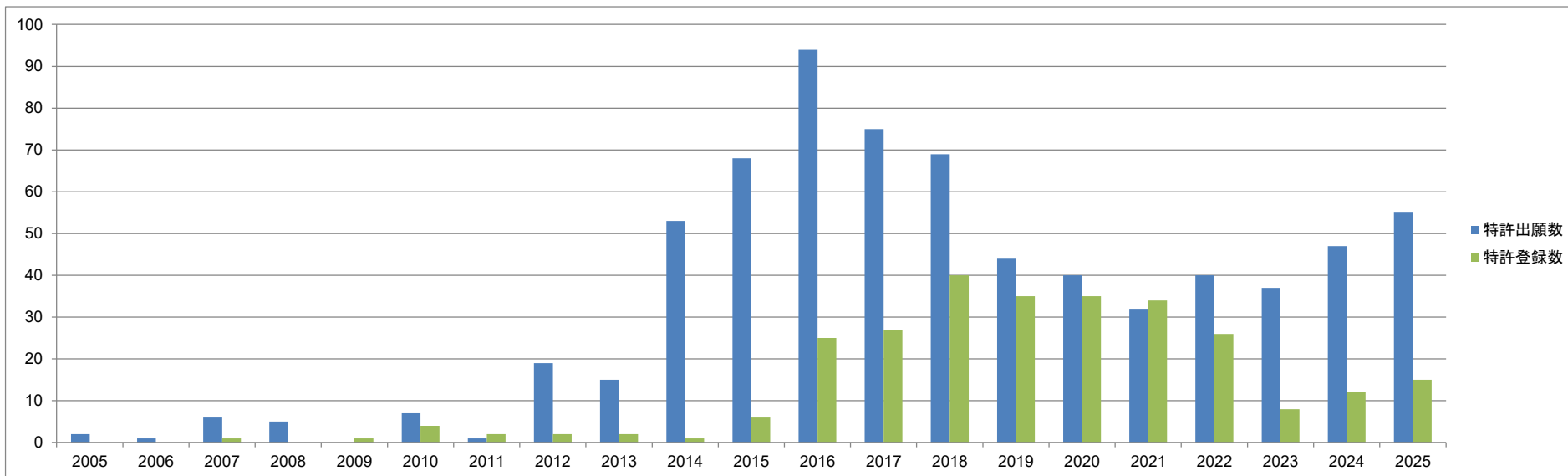


添付資料4. 1-1 特許状況

年度	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
特許出願数	0	2	1	6	5	0	7	1	19	15	53	68	94	75	69	44	40	32	40	37	47	55
特許登録数	0	0	0	1	0	1	4	2	2	2	1	6	25	27	40	35	35	34	26	8	12	15

* FY2025 (令和6年度) は見込み数

**数値は特許以外の知的財産を含む(商標等)



添付資料4. 1-2 令和7年度 POC プロジェクト

POC プロジェクト

No	プロジェクト名	新規/継続	代表研究者	プロジェクトタイプ (シードフェーズ、フェーズ I/II, TPF)
1	おきなわ糸づくりプロジェクト	継続	新里 瞳	TPF
2	オピオイドの鎮痛作用を増強し、耐性発現を抑制するペプチド医薬品	継続	チョウ ベン	TPF
3	再生医療/組織工学用三次元足場・ハイドロゲル・インプラント製造用のナノファブリケーションシステム	継続	吉田 富	Phase II
4	マイクロ波量子技術のためのスピンを用いた超低ノイズ増幅器	継続	久保 結丸	Phase II
5	統計物理学を用いたクラウドコプターの性能劣化の低減	継続	マヘッシュ バンディ	Seed Phase
6	革新的な環境核酸技術でエビ養殖を改善	継続	ティモシー ラバシ	Seed Phase
7	神経芽腫を標的としたペプチド阻害剤の開発	継続	フランツ マイティンガー	Seed Phase
8	iH2O2：鉄触媒による過酸化水素生成	継続	竹林 智司	Seed Phase
9	保存中の有機化合物の分解を防ぐ化合物	継続	田中 富士枝	Seed Phase
10	進化的アプローチによるPFAS分解微生物の探索	継続	パオラ ラウリーノ	Seed Phase
11	リボスイッチによるAAVベクター生産の効率化	継続	横林 洋平	Seed Phase
12	風速推定のための新アルゴリズム	継続	ピナキ チャクラボルティ	Seed Phase
13	サーチ	継続	セルゲイ ゴブニン	TPF
14	迅速かつ効率的なマイクロプラスチック検出法	継続	サマンサ ファン	TPF
15	アルツハイマー病治療薬としての新規合成ペプチド PHDP5の開発	新規	銅谷 賢治	Phase II
16	新規遺伝子制御因子を用いた線維芽細胞から心筋細胞へのリプログラミング	新規	合田 裕紀子	Seed Phase
17	がん免疫療法のための腫瘍微小環境へのT細胞適応メカニズムの応用	新規	北野宏明	Phase I
18	メカノケミストリーにおける金属酸化物触媒の活用：低コストかつ環境負荷の少ない低分子医薬品合成技術の開発	新規	ジュリア クスマディノワ	Seed Phase
19	侵略的外来カエル類のリアルタイム検出に向けたエッジAIシステムの開発	新規	グレッグ スティーブズ	Seed Phase
20	リュードベリ原子と光学ナノファイバーを用いた単一光子発生デバイス	新規	アレックス ヴィレグジャン	TPF
21	エビ養殖を改善する革新的な環境核酸ツール	新規	ティモシー ラバシ	Seed Phase
22	大規模量子コンピューティング実現に向けたイオントラップ・共振器の開発	新規	高橋 優樹	Phase I
23	スケーラブルで持続可能なイカ養殖の実現に向けた技術開発	新規	サムエル ライター	Seed Phase
24	リボスイッチによるCAR-T細胞の化学的制御技術の開発	新規	横林 洋平	Seed Phase
25	iHAT：鉄触媒による水素（H ₂ ）からの水素原子移動	新規	竹林 智司	Seed Phase

添付資料 4. 1-3 令和7年度（2025）のスタートアップ・インキュベーター入居企業

スタートアップ・入居企業

No	企業名	新規/継続	タイプ (OIST技術/アクセラレーター/外部)	場所 (ラボ3/インキュベーター/その)
1	BioAlchemy株式会社	継続	OIST技術	インキュベーター
2	Watasumi株式会社	継続	OIST技術	Lab G
3	メタブル合同会社	継続	OIST技術	Core2
4	アティエーラ株式会社	継続	OIST技術	インキュベーター
5	株式会社SND Regenic Pvt	継続	OIST技術	インキュベーター
6	Kwahuu Ocean株式会社	継続	OIST技術	インキュベーター
7	Qubitcore株式会社	新規	OIST技術	Core2
8	Nunora	新規	OIST技術	インキュベーター
9	株式会社Surzen Biotherapeutics	新規	OIST技術	Core2
10	EF Polymer株式会社	継続	スタートアップアクセラレータプログラム	インキュベーター/Core1
11	Sage-Sentinel Smart Solutions株式会社	継続	スタートアップアクセラレータプログラム	インキュベーター
12	GenomeMiner (Tupac Bio Japan株式会社)	継続	スタートアップアクセラレータプログラム	Core1
13	HerLifeLab株式会社 (Menopause and Beyond)	継続	スタートアップアクセラレータプログラム	Core1/Core2 (Hotdesk)
14	大阪ヒートクール株式会社	継続	スタートアップアクセラレータプログラム	Core1/Core2 (Hotdesk)
15	株式会社SYLCAST	継続	スタートアップアクセラレータプログラム	Core1/Core2 (Hotdesk)
16	Vyorius日本株式会社	継続	スタートアップアクセラレータプログラム	Core1/Core2 (Hotdesk)
17	Astrek Innovations	新規	スタートアップアクセラレータプログラム	インキュベーター
18	Exsure Japan株式会社	新規	スタートアップアクセラレータプログラム	インキュベーター
19	株式会社SAVORY	継続	元OIST職員	Core1/Core2 (Hotdesk)
20	Shima & Co.株式会社	継続	元OIST職員	Core1/Core2 (Hotdesk)
21	株式会社フラットミニマ	継続	OIST教員	Core1/Core2 (Hotdesk)
22	Greenleaf Global Technologies	継続	OIST職員	インキュベーター
23	株式会社SURAIERA	新規	OIST職員	Core1/Core2 (Hotdesk)
24	株式会社SPEC	継続	外部	インキュベーター
25	特定非営利活動法人ミラツク	継続	外部	Core1/Core2 (Hotdesk)
26	株式会社エッセンス	継続	外部	インキュベーター
27	株式会社ハヤト・インフォメーション	継続	外部	インキュベーター
28	Haitai株式会社 (Kenko Leaf)	継続	外部	Core1/Core2 (Hotdesk)
29	株式会社Cultivera	継続	外部	Core1/Core2 (Hotdesk)
30	株式会社MTG Ventures	継続	外部	Core1/Core2 (Hotdesk)
31	一般社団法人 HAPPY EARTH	継続	外部	Core1/Core2 (Hotdesk)
32	株式会社レキサン	継続	外部	インキュベーター

No	企業名	新規/継続	タイプ (OIST技術/アクセラレーター/外部)	場所 (ラボ3/インキュベーター/その
33	レコテック株式会社	継続	外部	Core1/Core2 (Hotdesk)
34	株式会社グローバルウェイ	継続	外部	インキュベーター
35	Ananthya株式会社	継続	外部	インキュベーター
36	Morpheus株式会社	継続	外部	Core1/Core2 (Hotdesk)
37	ジャパンプレミアムベジタブル株式会社	継続	外部	インキュベーター
38	合同会社HAKKI	継続	外部	インキュベーター
39	株式会社ARTH	継続	外部	インキュベーター
40	ライフタイムベンチャーズ	継続	外部	Core2
41	株式会社ショーナン	継続	外部	インキュベーター
42	株式会社ekei labs	継続	外部	Core1
43	株式会社シンク・ネイチャー	継続	外部	Core1/Core2 (Hotdesk)
44	株式会社バタフライピー研究所	新規	外部	Core1
45	株式会社ハブネット	新規	外部	Core1/Core2 (Hotdesk)
46	株式会社デンソー	新規	外部	Core1/Core2 (Hotdesk)
47	株式会社インタンジブル・アセット・マネジメ	新規	外部	Core1/Core2 (Hotdesk)
48	Canopy Japan合同会社	新規	外部	Core1/Core2 (Hotdesk)
49	株式会社モビリティデザインラボ	新規	外部	Core1/Core2 (Hotdesk)
50	ユニバーサル マテリアルズ インキュベーター 株式会社	新規	外部	Core2
51	弁理士法人KX特許事務所	新規	外部	Core1/Core2 (Hotdesk)

添付資料 4.1-4 令和7年度受託研究等（産学連携）及びイベント

受託研究等（産学連携）

	事業名	新規・継続	連携機関	分野	OIST研究ユニット／部署
1	覚書	継続	渋谷区	イノベーション	OIST Innovation
2	覚書	継続	沖縄銀行	イノベーション	OIST Innovation
3	覚書	継続	リウボウ商事	イノベーション	OIST Innovation
4	覚書	継続	ディープコア	イノベーション	OIST Innovation
5	覚書	継続	沖縄振興開発金融公庫	イノベーション	OIST Innovation
6	覚書	継続	AgVenture Lab	イノベーション	OIST Innovation
7	覚書	継続	沖縄県産業振興公社	イノベーション	OIST Innovation
8	覚書	継続	Srust	イノベーション	OIST Innovation
9	覚書	継続	新エネルギー・産業技術総合開発機構	イノベーション	OIST Innovation
10	覚書	継続	日本電信電話	複数	OIST
11	覚書	継続	東芝	複数	OIST
12	覚書	継続	沖縄電力	エネルギー	OIST
13	覚書	継続	FC琉球	脳科学	トム・フロース
14	覚書	継続	オリオンビール	エネルギー	OIST Innovation
15	覚書	継続	りゅうせき、琉球大学、JANUS	環境	ティモシー・ラバシ
16	覚書	継続	Partisia	暗号技術	カルロス・シッド
17	覚書	継続	みずほ銀行	イノベーション	OIST Innovation
18	覚書	継続	機密	脳科学	トム・フロース
19	覚書	継続	機密	イノベーション	OIST Innovation
20	覚書	継続	機密	イノベーション	OIST Innovation
21	覚書	継続	機密	イノベーション	OIST Innovation
22	覚書	継続	機密	イノベーション	OIST Innovation
23	覚書	継続	機密	環境	実験動物セクション
24	覚書	継続	機密	環境	環境科学・インフォマティクスセクション
25	覚書	新規	琉球銀行	イノベーション	OIST Innovation
26	覚書	新規	Startup Island TAIWAN	イノベーション	OIST Innovation
27	覚書	新規	株式会社国際電気通信基礎技術研究所	イノベーション	OIST Innovation
28	覚書	新規	ビズリーチ	イノベーション	OIST Innovation
29	覚書	新規	夢洲新産業・都市創造機構 未来医療推進機構	イノベーション	OIST Innovation
30	覚書	新規	スイスネックス・ジャパン	イノベーション	OIST Innovation
31	覚書	新規	野村証券 ライフタイムベンチャーズ	イノベーション	OIST Innovation
32	覚書	新規	機密	イノベーション	OIST Innovation
33	包括協定	継続	日本政策投資銀行	イノベーション	OIST Innovation
34	包括協定	継続	インスパイア	イノベーション	OIST Innovation
35	包括連携	新規	Cyprus University of Technology Tecnova	イノベーション	OIST Innovation
36	共同研究	継続	コランダム・システム・バイオロジー	健康医療	北野宏明
37	共同研究	継続	機密	健康医療	横林洋平
38	共同研究	継続	機密	健康医療	河野恵子
39	共同研究	継続	機密	健康医療	銅谷賢治
40	共同研究	継続	機密	環境	御手洗哲司

	事業名	新規・継続	連携機関	分野	OIST研究ユニット／部署
41	共同研究	継続	機密	データサイエンス	山田誠
42	共同研究	継続	機密	健康医療	銅谷賢治
43	共同研究	継続	機密	健康医療	チャールズ・プレシー
44	共同研究	継続	機密	環境	ティモシー・ラバシ
45	共同研究	継続	機密	健康医療	ユージン・クロール
46	共同研究	継続	機密	コンピューター	深井朋樹
47	共同研究	継続	機密	量子	根本香絵
48	共同研究	継続	機密	健康医療	山本雅
49	共同研究	継続	機密	素材	野村陽子
50	共同研究	新規	機密	健康医療	河野恵子
51	共同研究	新規	機密	複数	中山尚美
52	共同研究	新規	機密	健康医療	フランツ・マイティンガー
53	共同研究	新規	機密	データサイエンス	科学計算・データ解析セクション
54	共同研究	新規	機密	健康医療	エイミー・シェン
55	共同研究	新規	機密	健康医療	北野宏明
56	共同研究	新規	機密	学習	ゲイル・トリップ
57	受託研究	新規	機密	健康医療	北野宏明
58	受託研究	新規	機密	環境	ティモシー・ラバシ
59	受託研究	新規	機密	健康医療	エイミー・シェン
60	秘密保持契約書	新規	機密	環境	龍見史恵
61	秘密保持契約書	新規	機密	脳科学	銅谷賢治
62	秘密保持契約書	新規	機密	健康医療	楠見明弘
63	秘密保持契約書	新規	機密	生物	パオラ・ラオリーノ
64	秘密保持契約書	新規	機密	量子	シーレ・ニコーマック
65	秘密保持契約書	新規	機密	半導体	新竹積
66	秘密保持契約書	新規	機密	半導体	新竹積
67	秘密保持契約書	新規	機密	半導体	新竹積
68	秘密保持契約書	新規	機密	半導体	新竹積
69	秘密保持契約書	新規	機密	半導体	新竹積
70	秘密保持契約書	新規	機密	半導体	新竹積
71	秘密保持契約書	新規	機密	半導体	新竹積
72	秘密保持契約書	新規	機密	半導体	新竹積
73	秘密保持契約書	新規	機密	半導体	新竹積
74	秘密保持契約書	新規	機密	半導体	新竹積
75	秘密保持契約書	新規	機密	生物	マティアス・ウルフ
76	秘密保持契約書	新規	機密	脳科学	杉山
77	秘密保持契約書	新規	機密	生物	横林洋平
78	秘密保持契約書	新規	機密	生物	横林洋平
79	秘密保持契約書	新規	機密	生物	横林洋平
80	秘密保持契約書	新規	機密	生物	横林洋平
81	秘密保持契約書	新規	機密	生物	横林洋平
82	秘密保持契約書	新規	機密	生物	横林洋平

	事業名	新規・継続	連携機関	分野	OIST研究ユニット／部署
83	秘密保持契約書	新規	機密	量子	高橋優樹
84	秘密保持契約書	新規	機密	量子	高橋優樹
85	秘密保持契約書	新規	機密	化学	竹林智司
86	秘密保持契約書	新規	機密	量子	久保結丸
87	秘密保持契約書	新規	機密	生物	フランツ・マイティンガー
88	秘密保持契約書	新規	機密	生物	オレグ・シツツェル
89	秘密保持契約書	新規	機密	テストベッド	OIST
90	秘密保持契約書	新規	機密	テストベッド	OIST
91	秘密保持契約書	新規	機密	化学	OIST
92	秘密保持契約書	新規	機密	データサイエンス	科学計算・データ解析セクション
93	秘密保持契約書	継続	機密	健康医療	エイミー・シェン
94	秘密保持契約書	継続	機密	物理	ケシャブ・ダニ
95	秘密保持契約書	継続	機密	半導体	新竹積
96	秘密保持契約書	継続	機密	量子	竹林智司
97	秘密保持契約書	継続	機密	スタートアップ	OIST Innovation
98	秘密保持契約書	継続	機密	脳科学	銅谷賢治
99	秘密保持契約書	継続	機密	健康医療	エイミー・シェン
100	試料移転契約	新規	機密	健康医療	フランツ・マイティンガー
101	試料移転契約	新規	機密	化学	サイエンス・テクノロジー・グループ
102	試料移転契約	新規	機密	環境	佐瀬英俊
103	ライセンス契約	継続	O-Force	健康医療	山本雅
104	ライセンス契約	継続	機密	環境	柳田充弘
105	ライセンス契約	継続	機密	バイオ	田中 富士枝
106	ライセンス契約	継続	機密	健康医療	柳田充弘
107	ライセンス契約	継続	機密	健康医療	横林洋平
108	ライセンス契約	継続	機密	環境	イゴール・ゴリヤニン
109	ライセンス契約	継続	機密	バイオ	佐瀬英俊
110	ライセンス契約	継続	機密	健康医療	横林洋平
111	ライセンス契約	継続	機密	化学	柳田充弘
112	ライセンス契約	継続	機密	環境	イミル・トゥベール
113	ライセンス契約	継続	機密	分析機器	ケシャブ・ダニ
114	ライセンス契約	継続	機密	環境	イゴール・ゴリヤニン
115	ライセンス契約	新規	機密	バイオ	佐瀬英俊
116	ライセンス契約	新規	機密	量子	高橋 優樹
117	ライセンス契約	新規	機密	バイオ	佐瀬英俊
118	ライセンス契約	新規	機密	環境	柳田充弘
119	ライセンス契約	新規	機密	健康医療	ケシャブ・ダニ
120	ライセンス契約	新規	機密	健康医療	エイミー・シェン
121	オプション契約	継続	機密	健康医療	横林洋平
122	オプション契約	新規	機密	健康医療	楠見明弘
123	オプション契約	新規	機密	健康医療	ペアン・クン
124	新株予約権割当契約	新規	機密	量子	高橋優樹

	事業名	新規・継続	連携機関	分野	OIST研究ユニット／部署
125	沖縄イノベーション・エコシステム共同研究推進事業	継続	沖縄科学技術振興センター	環境	佐藤矩行
126	沖縄イノベーション・エコシステム共同研究推進事業	新規	沖縄科学技術振興センター	環境	佐藤矩行

添付資料4.1-4 令和7年度受託研究棟（産学連携）及びイベント

展示会

No	事業名	開催日	主催	場所	内容
1	TECHNIUM 2025	2025-05-08	TECHNIUM Global Conference	東京	
2	Sushi Tech Tokyo 2025	2025-05-08	東京都 Sushi Tech Tokyo 実行委員会	東京	展示会
3	Bio International 2025	2025-05-16	Biotechnology Innovation Organization (BIO)	ボストン	展示会
4	BIO Asia Taiwan 2025	2025-07-23	BIO, Taiwan BIO	台北	展示会
5	International Seafood and Technology Expo	2025-08-20	大日本水産会	東京	展示会
6	STARTUP ISLAND OKINAWA in Tokyo	2025-09-25	沖縄県	東京	展示会
7	BioJapan 2025	2025-10-08	BioJapan組織委員会	横浜	展示会
8	Startup Go!Go! 2025/RAMEN TECH 2025/Deep Tech Arena 2025	2025-10-08	Startup Gogo/福岡市/PARKS	福岡	展示会
9	STARTUP ISLAND OKINAWA in Osaka	2025-10-17	沖縄県	大阪	展示会
10	SWITCH 2025 - Singapore Week of Innovation & Technology	2025-10-28	Enterprise Singapore	シンガポール	展示会
11	INO Event	2025-11-21			
12	BioFit	2025-12-08	Eurasante	フランス	展示会
13	KEIO TECHNO MALL 2025	2025-12-12	慶応大学	東京	展示会
14	Consumer Electronics Show	2026-01-06	Consumer Technology Association	米国	展示会
15	TechGALA 2026 - Nagoya	2026-01-27	Central Japan Startup Ecosystem Consortium	名古屋	展示会
16	nanotech 2026	2026-01-29	nono tech実行委員会	東京	展示会
17	PARKS Demo Day	2026-02-12	PARKS	福岡	展示会
18	AUTM 2026	2026-03-02	AUTM	米国	会議

OIST Innovation主催のセミナー・イベント

No	演題	開催日	参加者数
1	Converge\OIST	2025-05-12	91
2	iGEM 2025 Talk Jo-Ann Stanton	2025-06-05	30
3	INO Event in Tokyo	2025-07-04	80
4	MTG CVC MeetUP	2025-07-10	60
5	Lean Startup Workshop: From Idea to Impact	2025-07-15	22
6	AI Jetpack: Supercharge Your Ideas	2025-07-16	17
7	Beyond the Lab: Real World Paths for Your Research	2025-07-17	22
8	Pitch Mastery 2-Day Workshop for US Market Entry & International Expansion	2025-07-24	9
9	From Lab to Pond: the Ebiseq approach to sustainable aquaculture	2025-08-21	10
10	Ryudai Student Campus Tour & Startup Meetup	2025-08-25	23
11	iGEM 2025 JETRO Event	2025-08-26	15
12	Communications Training	2025-08-29	7
13	Startup Elevate	2025-09-29	363
14	OIST Innovation Showcase Celebrating RAM	2025-10-01	40
15	AI Based Entrepreneurial Projects at OIST	2025-10-08	40
16	Career Talk: Navigating Different Pathways	2025-10-17	40
17	Fireside Chat with Dr. Simson Garfinkel	2025-10-23	20
18	Biprogy 2-day Seminar at OIST	2025-10-23	48
19	2025 Fall Lean Startup Entrepreneurial Training Program	2025-10-24	43
20	Future Design Initiative for Science & Finance (FDSF) Conference	2025-10-29	50

No	演題	開催日	参加者数
21	OIST Innovation Introduction at Sumitomo Chemical	2025-10-29	40
22	Generative AI Seminar-Smart Work with AI-	2025-11-11	74
23	INO Event at OIST	2025-11-21	82
24	iGEM 2025 Results Presentation	2025-11-25	90
25	2025 Accelerator Bootcamp	2025-12-05	24
26	From Field to Startup: Solving Okinawa's Agricultural Challenges	2026-01-28	117
27	US Market Discovery Program FY2025	2026-02-02	4
28	The Potential of Okinawa and Kyushu in Shaping Future Deep Tech	2026-02-16	30
29	Kyusoukai (Kyudai) + OIST PhD Entrepreneurship Program	2026-02-15	18
30	Business Model Canvas Seminar by Prof. Yves Pigneur	2026-03-03	10
31	OIST IP Seminar FY2025	2026-03-18	15
32	Translating Scientific Complexity into Narratives	2026-03-10	34
33	OIST Testbed Symposium	2026-03-27	114
34	VC Mentoring Hours: 6 Sessions by VCs	FY2025	27
35	Innovator's Toolbox	FY2025	59
36	Office Hours with Josh Green	FY2025	31
		参加者合計	1799